

90-243

法學士 菱谷精吾講

裁判所構成法要義

東京 清水書店發兌



V

## 自序

予官職ノ餘暇ヲ以テ教鞭ヲ執ルノ間曾テ裁判所構成法ヲ講シタルコトアリ其稿本納メテ筐裡ニ在リ頃日清水書舗主葉多野君來リ諮リテ曰ク裁判所構成法ハ法術ニ出入スル者ノ實用ヲ感スルコト最モ切ナルニ拘ラス其講說ノ完璧ナルモノ殆ト舉示スルニ苦シムノ状態ナルハ深ク斯界ノ爲メニ惜シム所ナリト予乃チ試ニ藏スル所ノ稿本ヲ探リテ之ヲ示ス君見テ甚タ實用ニ適スルモノトシ切ニ其上梓ヲ乞フ稿固ヨリ完然ナラズト雖モ聊カ時世ノ缺漏ヲ補填シテ研學者ノ渴望ニ資スルヲ得バ望外ノ幸ナリ仍テ註解ヲ増補シテ需ニ應

シタルモノ即チ本書ナリ今ヤ剗刷ニ附セントスルニ際シ其  
來由ヲ記シテ序文ニ代フ

明治四十年七月二十日

韓國王讓位ノ報傳ハルノ時

著 者 識

### 凡 例

- 一 本書ハ逐條講義ノ體裁ヲ採レリ從テ理論ノ配列系統的ナラスト雖モ重要ナル理論ハ自ラ其間ニ一貫セシメタリ
- 一 本書ハ主トシテ實務家ノ參考ニ供センコトヲ期シタルカ故ニ解説理論ニ偏セス努メテ實際的ナラシメタリ然レトモ最新ノ學理ハ自ラ全篇ニ應用セラレタリ
- 一 本書講述スル所ノ内容ハ盡ク著者自ラ實務ニ當リテ研究シタル所ニ係ルカ故ニ之ヲ實際ニ應用シテ矛盾スル所ナカルヘキヲ信ス
- 一 本書毎篇附スルニ要項試問ヲ以テシタルハ讀者ノ記憶ヲ喚起シ研學ノ資料タラシメンカ爲メニ外ナラス
- 一 本書ヲ研究セントスル者ハ常ニ憲法及民刑訴訟法ノ各法理ニ參究セラレンコトヲ要ス本法ハ是等ノ法理ト相牽連シテ其用ヲ充タスモノナルヲ以テナリ

# 裁判所構成法要義目次

## 總論

一頁

### 第一編 裁判所及檢事局

八

#### 第一章 總則

九

#### 第二章 區裁判所

二四

#### 第三章 地方裁判所

四三

#### 第四章 控訴院

六三

#### 第五章 大審院

七五

#### 附 要項試問

九五

### 第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

九七

#### 第一章 判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

九七

#### 第二章 判事

一一一

#### 第三章 檢事

一二二

目次

第四章	裁判所書記	一一九
第五章	執達吏	一四一
第六章	廷丁	一五〇
附	要項試問	一五三
<b>第三編</b>	<b>司法事務ノ取扱</b>	一五四
第一章	開廷	一五五
第二章	裁判所ノ用語	一七七
第三章	裁判所ノ評議及言渡	一八二
第四章	裁判所及檢事局ノ事務章程	一九五
第五章	司法年度及休暇	一九八
第六章	法律上ノ共助	二一〇
附	要項試問	二一四
<b>第四編</b>	<b>司法行政ノ職務及監督權</b>	二一六
附	要項試問	二二九

附 則  
裁判所構成法施行條例

# 裁判所構成法要義

檢事 法學士 菱谷 精吾 講

## 總論

本法ヲ講說スルニ當リ先ツ司法權ノ如何ナルモノナルヤヲ說明セサルヘカラ  
ス司法權ノ實質及其範圍ニ付テハ國法學者中種々ノ異說アリト雖モ要スルニ  
司法權ハ元首ノ統治權ノ一ノ態樣ニシテ立法行政ノ二大權ト共ニ三權分立ノ  
政治的形式ヲ形造クルモノトス三權分立ノ說ハ獨ノ「スタイン」佛ノ「モンテスキ  
ユ」等ニ依リテ唱導セラレ前世紀ノ頭初ニ於テハ各國競フテ此學說ニ基キ國  
家權力ノ活動方式ヲ實際ニ定ムルニ至レリト雖モ立法司法行政ノ三大權力個  
々獨立シテ其行動ヲ取ルトキハ國家權力ノ統一ヲ缺キ統治權ノ存在終ニ其歸  
着ヲ見ル能ハサルノ弊ヲ醸出スルハ近時國法學者ノ一般ニ認ムル所ニシテ學

理上ノ觀念ヨリシテ之ヲ觀ルモ三大權ハ決シテ箇々ニ分立シテ存在スルヲ得ヘキモノニ非ス國體政體ノ如何ヲ問ハス國家ノ統治權ハ必ス一アリテニアル能ハス二以上ノ統治權アリト云ハ、即チ統治權ナシト云フト同一義ニ歸着ス蓋シ一ノ勢力ニ統括セラル、ニ由リ初メテ統治權アリト云フヲ得ヘキヲ以テナリ是ヲ以テ我國ノ憲法ニ於テモ立法司法行政ノ三大形式ハ之ヲ認ムルト雖モ是レ等ノ權ハ皆一ニ元首ノ統治權ニ源泉ス行政權ニ行政各官廳アリ立法權ニ帝國議會アリ司法權ニ裁判所アリト雖モ之レ等ノモノハ皆統治權發動ノ國家機關ニシテ決シテ統治權ヲ分有スルモノニ非サルハ多言ヲ要セサル所ナリ帝國憲法第五十七條ハ宣言シテ曰ク司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ、裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト爰ニ所謂天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フトハ即チ裁判所ハ統治權ヲ總攬セラル、元首ノ大權ニ依據シ源泉シテ司法權ヲ行使スルコトヲ明カニシタルモノニシテ天皇ノ御名ニ依テ之ヲ行フノ意ニアラサルナリ換言セハ天皇ノ名ニ於テ行フトハ即チ天皇ノ統治權トシテ行ハル、コトヲ示シタルニ外ナラサルナリ

帝國憲法ハ裁判所ノ如何ナルモノナルヤヲ直接ニ明定スルコトナシト雖トモ其第六十條第六十一條ノ規定ニ依レハ特別裁判所行政裁判所司法裁判所三者アルコトヲ知ルヘシ行政裁判所ノ何者ナルカハ第六十一條ノ規定ノ如ク行政官廳ノ處分ノ違法ナルヨリ臣民ノ權利ヲ傷害セラレタルニ基キ提起アリタル訴訟ニ付キテ其曲直ヲ裁判スルノ官廳ナリ而シテ特別裁判所ノ本務ニ付テハ何等ノ規定ナシト雖トモ等シク司法權ヲ行フヘキ官廳ナルコトハ固ヨリ疑ナク唯特別ノ事情ニ基キ通常司法裁判所ヲシテ之レカ審理裁決ヲナサシムルヲ不便宜トナス場合ニ特別ノ法律ヲ以テ特種ノ訴訟ヲ管轄セシムル所ノ裁判所ナルノ點ハ通常裁判所ト異ル所ナリトス故ニ權限裁判所(官廳ノ職務權限ニ付キ爭アル訴訟ヲ管轄ス)懲戒裁判所(官公吏ノ違法行為ヲ管轄ス)ノ如キハ特別裁判所タルノ好適例ナルヘシ是レ等ノ行政裁判所及特別裁判所ヲ除ク外ニ於テ主トシテ民事刑事ノ訴訟ニ付キ一般臣民ノ權利及責任ヲ裁判スルハ即チ司法裁判所ト稱セラル、モノニシテ學問上一般ニ通常裁判所ト名ケラル、モノ是レナリ本書ニ講説スル所ノ裁判所構成法ハ此ノ通常裁判所ニ於ケル司法權

ノ活動方式ヲ現定シタルモノトス司法權ハ裁判所ニ據リテ行フモノナルコト  
ハ前述ノ成文ニ據リ既ニ明カナルモ裁判所ノ行フ職務ハ必スシモ司法權ヲ行  
使スルノミニ限ラル、モノニアラス蓋シ司法トハ法ノ適用ナリ争ノ形式ニ依  
ル訴ノ裁判ナリ立法ハ行政ノ準繩ヲ定ムルモノニシテ行政ハ國家ノ目的ヲ其  
準繩ニ基キ實地ニ執行シ活動スル權力ノ總體ナリ故ニ司法ヲ行フニモ亦タ行  
政ノ力ナカルヘカラス司法ハ行政ノ如ク執行ニ關スルコトナク唯法令ノ適用  
裁判ヲ爲スヲ以テ終局ノ目的トスル國家權力ノ一態様ニ外ナラサルヲ以テ司  
法官廳カ其適用裁判ヲナスニ付テノ方法手續ハ亦タ一種ノ行政作用ナリト謂  
ハサルヘカラス之ノ司法上ノ行政ニ關スル部分ヲ他ノ一般行政ト區別スルカ  
爲メ學者之レヲ司法行政ト稱ス其ノ力ヲ司法行政權ト云フ裁判所構成法ハ即  
チ此ノ司法行政權ノ活動形式ヲ規定シタルモノトス  
裁判所構成法ハ司法其モノヲ規定スルコトナシ司法其モノハ司法權ヲ行使ス  
ルノ職ニ在ル判事ノ自由ナル心證即チ獨立ナル判斷ニ據リテ行ハル、モノニ  
シテ法律ヲ以テ豫メ原被告ノ勝敗ヲ定メ置クコト能ハサルト等シク司法ノ實

際ノ働キヲ法律ニ依リテ豫斷シ若クハ左右スルコト能ハサルナリ裁判所構成  
法ノ定ムル所ハ通常裁判所ノ成立管轄事務ノ態様分配及其監督并ニ職員ノ資  
格ヲ明カニスル事項ニ關スルモノニシテ全ク司法即チ裁判ノ行ハルヘキ官廳  
ノ行政上ノ關係ノ外之ヲ規定スルコトナシ故ニ裁判所構成法ハ亦タ一種ノ行  
政法規ナリト云フヲ妨ケサルモノトス然リ而シテ裁判所構成法ハ行政法規タ  
ルノ結果トシテ之レカ解釋適用ヲナスニ當リ比附援引シテ其足ラサルヲ補ヒ  
其不便ヲ矯正スルノ餘地アルモノトス蓋シ司法ハ法令ノ精神ヲ明カニシ之レ  
カ争訟ヲ裁判シ以テ其適用ヲ宣言スルノミヲ以テ最終ノ目的トナスモノナル  
ヲ以テ其間便宜又ハ事情ニ應シ法令ヲ左右スルノ餘地ナシト雖トモ行政ハ然  
ラス法令ナキモ尙ホ行政ナカルヘカラスハ明カナルヲ以テ假リニ法令ノ不  
備又ハ不條理アル場合ニ於テハ他ノ法令ノ精神ニ比附シ又ハ條理ヲ援引シテ  
實際ニ適實ナラシムルノ力アルモノトス學者之ヲ稱シテ行政上ノ自由裁量ト  
云フ裁判所構成法モ亦ターノ行政法規ニシテ之レニ基ク司法行政ハ亦タ他ノ  
行政ト等シク所謂自由裁量ヲ爲スノ餘地アルヘク假リニ構成法中法ノ不備即



チ必要ナル事項ノ缺文アルトキハ法ノ明文ナシト云フノ故ヲ以テ事務ヲ曠廢スル能ハサルヲ以テ他ノ條文ニ比附援引シテ條理ニ據リ便宜ニ基キ實際ノ運用ヲ期セサルヘカラス本書ヲ解説スルニ當リ此精神ニ基ク所趨カラサルヲ以テ實際ニ之レカ適用ヲ爲スニ當リテハ殊ニ此點ニ留意スルヲ要ス

裁判所ノ事務中幾多ノ司法行政ニ屬スルモノアリト雖トモ其行政ハ歸スル所何レモ皆司法權ノ活動即チ訴訟ノ裁判ニ關セサルモノナシ是レヲ以テ裁判所ノ本務ハ即チ裁判權ヲ行フニ在ルコトハ言ヲ要セサル所ナルモ往々訴訟ニ屬セサル事務アリ區裁判所ニ於テ特ニ然リト爲ス即チ臣民ノ權利ノ存在變更保存公認ニ關スル司法事務ノ如キ是レナリ是レ等ヲ概シテ非訟事件ト稱セラル親族法上ノ身分其他ノ關係又ハ不動産其他ノ登記等ノ事務ノ如キモノニテ是レ等ハ法ノ適用ヲ終局ノ目的トスルモノニアラスシテ人民私權ノ活動存否ヲ明確ニスル一種ノ行政事務ニ外ナラス故ニ其事務ハ全ク裁判ノ形式ニ據ルコトナク一般ノ行政上ノ願出又ハ届出ノ形式ト毫モ異ル所ナキヲ常トス然レトモ是レ等ノ事務ハ直接ニ臣民ノ私權ノ保全又ハ得喪ノ效果ニ關スルモノナル

ヲ以テ恰モ其結果ニ於テ訴訟ノ判決ト類似スル所アリ且ツ法令ノ適用解釋ニ於テモ司法官ヲシテ其職ニ當ラシムルヲ以テ最モ明確鞏固ナルヲ得ルヲ以テ之ヲ裁判所ノ事務中ニ加ヘタル所以ナリ

斯ノ如ク司法權ヲ行フノ手續ニ要スル行政事務ニ非サルモノヲ裁判所ノ管轄トナスモ憲法ノ規定ニ違反スルコトナキハ勿論ナリ何トナレハ憲法第五十七條ハ司法權ヲ行フニハ必ス裁判所ニ於テス可キヲ明カニスルモ裁判所ハ司法權以外ノ事務ヲ探ルコトヲ禁止スルコトナキヲ以テナリ

一般ニ裁判所ト稱スル語ニ二様ノ意義アリ一ハ廣義ニシテ司法權ヲ行使スル官廳ヲ稱スルモノニ係リ他ハ狹義ニシテ實際ニ司法上ノ裁判ヲ爲スヘク構成セラレタルノ部ヲ謂フモノトス本法第一條ニ謂フ所ノ如ク區裁判所地方裁判所其他ノ裁判所トハ何レモ廣義ノモノニシテ一個ノ官廳ノ名稱ナルモ其他ノ場合ニ於テ裁判所ト稱スルハ狹義ノモノニテ適法ノ員數ノ判檢事及書記ニ依リテ構成セラタル裁判部ヲ謂フモノナリ本法ハ條文中ニ於テ此狹義ノ場合ニ或ハ部ト云ヒ或ハ裁判所ト云フコトアリ其詳細ハ逐次講述スルニ從テ之ヲ明

### 第一編 裁判所及検事局

爰ニ所謂裁判所トハ前述ノ廣義ノ通常裁判所ノ意ニシテ此裁判所ハ即チ憲法ノ規定ニ基キ司法權ヲ行フ爲メニ設置セラレタル國家機關ナリ本法ハ先ツ初編ニ於テ裁判所ノ何者タルヤヲ規定シ且ツ各裁判所ニ附置セラルヘキ検事局ノ存在ヲ明カニシタリ検事局ハ所謂裁判所ナルモノニアラス裁判所ニ相對立シテ訴訟ニ干與スル職務ヲ有スル官吏ニ依リテ組織セラル、獨立ノ官廳ナリ故ニ検事局ハ司法權ヲ行使スルモノニアラス從テ其實質ハ全ク特種ノ行政官廳ニ屬スヘキモノナリト雖トモ常ニ司法權ノ適切ナル行動ヲ監視シ公益ヲ代表シテ司法事務ニ與ルモノナルヲ以テ一般ニ検事局ヲ組織スル檢事ハ行政官ニアラスシテ司法官ナリト稱セラル然レトモ爰ニ司法官ト云フハ司法權ヲ行フノ官吏ナリト謂フノ意ニ非サルニ注意スルヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ檢事ハ司法權即チ裁判權ヲ行フコトナシ其詳細ハ第六條ノ説明ニ至リテ明瞭ナ

ルヘシ

### 第一章 總 則

第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

- 第一 區裁判所
- 第二 地方裁判所
- 第三 控訴院
- 第四 大審院

前述シタル如ク帝國憲法第六十條ハ特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ特別ノ法律ニ依テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シタリ本條ハ斯カル特殊ノ關係ニ依ル特別ナル裁判所ニ相關スルコトナク次條ノ規定ニ依テ明カナルカ如ク一般人民ノ民事刑事ヲ裁判スル通常裁判所ノ種別ヲ規定シタルモノナリ即チ條文ニ定メタル四個ノ裁判所ヲ以テ通常裁判所ノ爲スモノニシテ其他ニハ決シテ通常裁判所ニ屬スル司法廳ナキコトヲ明ニシタルモノトス然リ而シテ前ニ説明シタ

ルカ如ク是等ノ裁判所ハ所謂廣義ノ司法官廳ノ名稱ナリ是等裁判所ノ司法權及ヒ司法行政權ノ活動ノ形式及ヒ其範圍ハ本編第二條以下ニ逐次規定セラレタル所ナリ

**第二條** 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限りニ在ラス  
本條ハ前條ニ説明シタルカ如クノ通常裁判所ト特別裁判所トノ區別ヲ明カニシタルモノニシテ即チ通常裁判所トハ民事及ヒ刑事ノ訴訟事件ヲ裁判スル司法官廳ニシテ民事トハスヘテ民法商法其他ノ私法關係ニ於ケル權利義務ニ關スル事項及ヒ親族相續其他ノ身分關係ノ爭訟ヲ概括シタル語ニシテ刑事トハ國家刑罰權ノ發動範圍ヲ裁斷スルモノニ係リ換言セハ普通刑法又ハ特別ニ認メラレタル刑罰法ニ基キ實際ニ犯罪ノ有無及ヒ科刑ノ限度ヲ訴訟ノ形式ニ依リテ裁判スル總テノ事件ヲ總稱スルモノトス然レトモ是等ノ事件ニ付テモ法律カ其特段ナル部分ニ付キ特別ノ裁判所ニ屬セシメタルモノハ通常裁判所ニテ裁判スルノ限りニアラサルハ總論ノ説明ニ依リテ既ニ明カナル所ナルヘシ

**第三條** 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限りニ在ラス

裁判所ニ合議裁判所ト單獨裁判所トノ二種アリ前者ハ裁判權ヲ行使スルニ三人以上ノ判事ノ評決ニ依ルモノニテ後者ハ一人ノ判事ノ審理判決ニ任スルモノトス即チ區裁判所ハ單獨裁判所ニシテ地方裁判所控訴院及大審院ハ何レモ合議裁判所ナリ合議裁判所ハ幾人ノ判事ヲ以テスヘキヤハ本法第三十二條第四十條第五十三條ニ規定セラレタルカ如ク地方裁判所ニ在リテハ三人控訴院ニ在ツテハ~~五人~~大審院ニ在リテハ~~五人~~判事ヲ以テ裁判事務ヲ執ルヘキ一個ノ部ヲ構成スルモノトス此ノ部ト稱スルハ即チ狹義ノ裁判所ニシテ此ノ狹義ノ裁判所ハ實地ニ訴訟事件ヲ審問シ本法第一百九條以下ノ規定ニ依リテ合議評決シ以テ裁判ヲ與フヘキモノトス斯ノ如ク合議裁判所ノ審問裁判ハ數人ノ判事ヲ以テ實行セラルヘキモノタルヲ原則トナスト雖モ訴訟法又ハ特別法ニ依リ別段ノ例外ヲ規定シタル場合ニハ必スシモ各定數ノ判事カ共同シテ之ヲ

爲スヲ要セサルコトヲ本條但書ニ於テ明カニシタリ例セハ豫審處分ノ如キ又ハ公判下調其他ニ於ケル受命又ハ受托判事ノ執ル所ノ裁判事務ノ如キ即チ是レナリ

**第四條** 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
憲法第五十七條第一項ニ於テハ司法權ハ法律ニ依テ之ヲ行フモノトシ同條第二項ニ於テハ裁判所ノ構成ハ亦法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルコトヲ明定セラレタリ蓋シ司法事務ハ直接ニ一般人民ノ利害休戚ニ關スル事項ナルヲ以テ其官廳ノ組織ハ勿論之ヲ新設シ若クハ從來ノ裁判所ヲ廢止シ或ハ裁判所ノ管轄區域ヲ制定變更スルカ如キモ亦甚タ重要ナル事項ナリト謂ハサルヘカラス本條ハ即チ憲法ノ精神ニ基キ是等ノ設立變更又ハ廢止ニ付テモ勅令省令等ノ命令ヲ以テ簡易ニ之ヲ爲スヲ得サルモノトシ必ス議會ノ協賛ヲ經テ法律ノ形式ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラスルコトヲ明カニシタルモノトス

**第五條** 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク  
本條ハ上級ト下級タルトヲ問ハス何レノ裁判所ニモ必ス判事ヲ置カサルヘカ

ラサルコトヲ明カニシタルモノニシテ判事ハ即チ訴訟ヲ審問シテ訴訟ノ争點ニ付キ終局ノ裁判ヲ與フル裁判所首要ノ官吏ナルヲ以テ判事ナクシテ裁判所ノ存在スル能ハサルハ固ヨリ言ヲ要セサル所ナリ條文ニ所謂相應ナル員數トハ事務ノ繁閑ニ依リ多少ノ差異アルヘシト雖モ必ス審問ノ部ヲ組立ツルニ足ルヘキ員數ノ判事ヲ置カサルヘカラサルコト當然ナリ然レトモ必スシモ專屬ノ判事ヲ各裁判所ニ分置セサルヘカラサルモノニ非ス一人ノ判事ハ數裁判所ヲ兼務スルモ實際ニ差支ヘサル限りハ法ノ禁止スル所ニアラスシテ要ハ其職ニ當ルヘキ係判事ヲ豫メ定メ置カサルヘカラスト言フニ在リ

**第六條** 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラル、ヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關スル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ  
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ  
 若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サ  
 ルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫ス  
 スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコ  
 トヲ得

檢事ハ判事ト等シク裁判所ニ於ケル首要ノ地位ニ立ツモノニシテ其干與スル  
 所ノ職務ノ範圍ハ判事ノ如ク單ニ事件ノ裁判ヲナスノミニアラスシテ所謂公  
 益ノ代表者ト稱セラレ國家ニ代リテ法令ノ實行ヲ監視シ民事ト刑事トヲ問ハ  
 ス一般裁判事務ニ涉リテ意見ヲ陳述シ又ハ法令ノ正當ナル適用ヲ促スノ職ニ  
 在ルモノトス然リ而シテ其職務中最モ主要ナルモノハ一般ニ知ラル、カ如ク  
 刑事事件ニ付キ原告官タルノ地位ニ立ツコト是ナリ蓋シ刑事ノ審問ニハ從來  
 我國ニ於テハ糾問主義ト稱セラル、方式即チ裁判官カ自ラ犯罪人ヲ彈劾シ審  
 問シ處罰シ且ツ刑罰方法ヲ指揮スルノ制度ヲ採リ來リシモ維新後漸次之ヲ改  
 メ舊治罪法ノ時代ヨリ本法及ヒ刑事訴訟法ノ實施セララルニ及ヒテハ全ク訴

訟主義又ハ彈劾主義ト稱セラル、方式ニ依テ刑事訴訟ヲ審理スルニ至レリ此  
 主義ニ據レハ檢事ハ即チ司法警察官ヲ指揮シ犯罪事實ヲ檢舉シ捜査シ以テ公  
 訴ヲ提起シテ刑事裁判ヲ要求スルノ原告官タル地位ニ立ツヲ以テ原則トナシ  
 公訴ノ提起ナケレハ判事ハ自ラ進ンテ犯罪ヲ糾問スルヲ得サルハ勿論檢事ノ  
 立會ニ依テ訴訟ヲ審問シ且ツ其意見ヲ聞キテ始メテ終局ノ裁判ヲ爲スヲ得ヘ  
 キモノトス檢事ハ其裁判ニ付テモ其適用ヲ不當ナリトスルトキハ進ンテ上訴  
 ヲ爲シ新ニ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ其判決ノ確定ヲ見ルニ當リテモ之カ  
 刑罰ヲ執行指揮スルハ亦一ニ檢事ノ職務ニ屬シ決シテ判事ノ容喙ヲ許サ、ル  
 モノトス從テ監獄ノ實行モ亦タ檢事ノ監視ヲ受クヘキモノナリ然リ而シテ民  
 事ノ事件ニ付テハ私人相互カ原被告ノ當事者タルモノナレトモ親族關係又ハ  
 相續上ノ争ノ如ク公益ニ關スルモノニ付テハ勿論然ラサルモノニテモ事件ノ  
 性質ニ依リ之ヲ監視スルノ必要アリト認ムルトキハ檢事ハ判事ニ對シテ其事  
 件ノ狀況又ハ成行ニ付キ其通知ヲ求メ公判ニ立會ヒテ自己ノ意見ヲ陳述スル  
 ヲ得ルモノトス以上ノ如ク檢事ハ民事刑事ノ訴訟事件ニ干與スルヲ當然ノ職

務トナスモ此ノ外ニ於テ公益ノ代表者トシテ裁判所ニ屬スル一般司法事務又ハ司法行政事件ニ付キ職權ニ屬スル範圍内換言セハ檢事ノ性質ニ反セサル限ニ於テ之カ監督事務ヲ行フヘキモノト定メラレタリ

元來檢事ノ職務ハ數世紀前佛國ニ於ケル財政ノ監督官カ漸次他ノ公益上ノ事務ニマテ干與シ監督スルニ至リ遂ニ公益ノ代表者ト稱セラレ全ク裁判所ト相對峙シ獨立シテ裁判事務ヲ監視スル職務トナルニ至レリ現今何レノ文明國ニ於テモ佛國ニ倣ヒテ檢事ノ制度ヲ設ケサルモノナク而シテ各裁判所ニ必ス一箇ノ檢事局ヲ附置シ以テ獨立ナル一官府トナスヲ例トス本條等一項ノ前段及ヒ第二項ノ規定ハ即チ其精神ヲ明カニシタルモノナリ然リ而シテ斯ノ如ク檢事ノ職務ハ獨立ナルモノナリト雖モ終始裁判事務ニ干與スルヲ以テ其職務ト爲スヲ以テ其管轄區域モ亦裁判所ノ管轄ト同一ナラサルヘカラス若シ其管轄區域内ニ於ケル常任ノ檢事ハ皆差支アリテ事務ヲ取扱フコト能ハサルトキハ檢事ノ上官ハ便宜之カ補充ヲナスヘキハ勿論ナリト雖モ若シ重大ナル事件起リ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ他ノ補充ノ檢事ノ到着ヲ待チ能ハサルコト

アルヘキヲ以テ斯カル場合ニハ其事件ヲ管轄スル裁判所ノ所長又ハ區裁判所ノ監督判事若クハ單獨判事ハ他ノ判事ニ臨時檢事ノ代理ヲ命ジテ檢事ノ職務ヲ執ルヲ得セシムルモノトス蓋シ前ニ述ヘタルカ如ク檢事ノ職務ハ現今ノ訴訟制度ニ於テハ須要缺クヘカラサルモノナルヲ以テ斯カル便法ヲ認メタル所以ナリ

**第七條** 檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

本條ハ第五條ノ判事ノ員數ニ於ケル規定ト同シク事務ノ繁閑ニ應シ司法大臣其他ノ上官ノ見込ヲ以テ適當ノ員數ノ檢事ヲ置クコトヲ規定シタルニ過キス唯注意スヘキハ法廷ニ臨ムヘキ檢事ノ數ハ判事ノ如ク何等ノ規定ナキヲ以テ其員數ハ全ク事務ノ繁閑ノニ由テ隨時適宜ニ定ムルモノナルコト是ナリ

**第八條** 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事

局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

書記ハ判事檢事ニ附隨シテ書類ノ送達記録ノ調整其他會計ニ關スル事務ニ任スルモノニシテ即チ司法三職ノ一ト稱セラルル所以ナリ本條ハ書記カ事務ヲ執ル所ノ書記課ヲ設クルコトヲ規定シタルモノニシテ各裁判所ニハ必ス書記課ヲ設ケ法令ノ定ムル所ニ因リ書記ノ各般ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ明カニシタルモノナリ然リ而シテ檢事局ニハ書記課ヲ設クルト否トハ事務ノ狀況ニ依リ必要ナリトスル場合ニ限リ之ヲ設クルモノニシテ地方裁判所以上即チ合議裁判所ノ檢事局ニアラサレハ之ヲ設クルコトナキモノトス尤モ區裁判所檢事局ニ於テモ檢事ノ事務ニ附屬スル書記ナカルヘカラサルハ勿論ナルモ唯書記ノ爲メニ一課ヲ設クル能ハサルノ趣意ナルコトニ注意スヘシ然リ而シテ書記ニハ檢事ニ附屬スルモノト判事ニ附屬スルモノトノ間ニ職務上ノ差違ナク皆一樣ニ裁判所書記ノ官名アル者カ其職ニ任スルモノナルヲ以テ判檢事ト

異リ平素何レニモ流用シ得ルモノナリトス

會計ノ事務ニ任スルモノモ等シク裁判所書記之ニ當ルト雖モ特ニ必要ナリトスル場合ニハ書記以外ノ特別官吏ヲ司法大臣ノ命令ニ依テ裁判所ニ附置スルヲ得ルモノトス是レ一ニ會計上ノ特別ナル便宜ニ基ク例外ナリ

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

本條ハ區裁判所ニ執達吏ヲ置クコトヲ規定シ且ツ其職務ヲ明カニシタルモノニシテ蓋シ執達吏ハ文書ノ送達又ハ裁判ノ執行ニ任スル所ノ特殊ノ補助機關ナリトス執達吏ハ俸給ヲ受クルコトナク事件ニ應シテ手数料ヲ自ラ徴收スルモノナルヲ以テ執達吏ハ官吏ニ非スシテ公吏ナリト説明スル者アレトモ蓋シ公吏トハ公共團體ノ吏員其他一私人ニシテ公務ノ一部ヲ擔任スル者ヲ概稱スルノ語ニシテ執達吏ノ如ク一定ノ官府ニ附屬シ一定ノ形式ニ據ル任命ノ方法ニ依リ國家司法事務ヲ擔任スル者ノ如キハ所謂公吏ニ非スシテ官吏ナリト謂ハ

サルヘカラス唯其俸給ハ其支途ヲ訴訟關係人ニ負擔セシムルノ便法トシテ手  
數料制度ヲ採用シタルニ過キサルモノニシテ若シ其手數料ヲ一定ノ額マテ受  
クル能ハサルトキハ國庫カ之カ支出ヲ負擔シ且ツ恩給其他ノ待遇ニ於テ一般  
官吏ト異ル所ナキハ後ノ第五章第九十四條以下ノ說明ニ依リテ明カナルヲ以  
テ之ヲ官吏ナリトシテ觀察スルヲ至當ナリトスル所以ナリ尙ホ其職務ノ詳細  
ハ第九十八條ノ說明ヲ參照スヘシ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アル  
トキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ  
裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ  
行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレ  
タル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタル  
トキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互  
有スルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セス  
トノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ  
本條ハ即チ權限爭議ニ關スル解決方法ヲ規定シタルモノニシテ甚タ重要ナル  
部分ナリトス此ノ權限爭議ニ付キ特ニ法律ノ規定ヲ以テ豫メ定メタル場合ニ  
ハ其規定ニ依テ權限ヲ確定シ得ヘシト雖モ(刑事訴訟法第二十七條第二十八條  
民事訴訟法第二十九條第四十八條第五十一條第二百條ノ規定ノ如キ)斯カル規  
定無クシテ本條第一號乃至第四號ノ爭議アル場合ニ於テハ民刑訴訟法其他ノ  
規定ニ依リテ訴訟關係人ハ適法ナル管轄指定ノ裁判ヲ申請スルコトヲ得ルモ  
ノトス其申請ニ基キ之カ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ハ何レノ裁判所ナリヤトイフ  
ニ權限ニ争アル裁判所ノ總テヲ管轄スル直近ノ上級裁判所ナリ例セハ同一地  
方裁判所ノ管内ノ甲ノ區裁判所ト乙ノ區裁判所トノ間ニ或事件ノ管轄何レナ  
リヤノ爭議又ハ疑義アル場合ニハ其兩區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ハ即チ



直近ノ上級裁判所ニ當リ若シ同一控訴院管内ノ區裁判所ニシテ一ノ區裁判所ハ甲ノ地方裁判所ノ管内ニ係リ他ノ區裁判所ハ乙ノ地方裁判所ノ管内ニ係リテ權限ノ争アルトキハ右ノ控訴院ハ即チ二箇ノ區裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ナリトス其他ハ類推シテ知ルヲ得ヘシ  
以下本條ノ豫定シタル争議ノ各場合ヲ説明センニ

第一 本法第十四條以下ノ規程ニ依リテ適法ナル管轄權アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由例セハ除斥若クハ忌避ニヨリテ判事カ其職務ヲ執ル能ハサルニ至リタルカ如キ場合又ハ特別ノ事情例セハ水火震災等ノ事實上ノ事由ニヨリ裁判所カ其裁判權ヲ行フヲ得サルカ如キ場合ニ於テハ前述ノ規定ニヨリ直近上級ノ裁判所ハ他ノ適當ナル裁判所ヲ指定シテ事件ノ取扱ヲ爲サシム

第二 裁判所管轄區域ノ境界即チ法律ニ於テ都市町村ノ境若クハ或ル標目ニヨリテ管轄區域ヲ明定シアリテモ其境界線實際ニ不明確ニシテ疑ヲ生シタルトキ又同シ

第三 法文ニ所謂法律ニ從ヒ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトハ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所カ犯罪地ニ於テモ犯人所在地ニ於テモ同時ナル場合又ハ被告ハ民事ノ反訴ヲ提起シ且ツ同時ニ同一請求ニ付他ノ管轄アル裁判所ニ原告トシテ民事請求ヲ爲シタル如キ場合ヲ云フモノニシテ法文ニ所謂確定判決ニ依リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトハ前示ノ犯罪地ヲ管轄スル裁判所ト犯人所在地ヲ管轄スル裁判所トハ事實ノ錯誤又ハ法律ノ誤解等ニヨリ何レノ裁判所モ自ラ管轄ナリト裁判シ其裁判何レモ確定シタル場合ニ於テハ最早上訴ノ方法ニヨリ之レカ救済ヲ爲ス能ハサルニ至ルヲ以テ直近上級ノ裁判所ハ其何レカノ一ノ裁判所ニ於テ裁判スヘキコトヲ指定スヘキモノトス

第四 前述第三ノ場合ハ二以上ノ裁判所カ互ニ裁判權ヲ有ストノ争議ニ係ル場合ナルモ第四ノ場合ハ之レト反對ニ何レカノ裁判所ニ於テ裁判セサル可ラサル事件ナルニ拘ハラス何レノ裁判所ニ於テモ裁判權ナシトノ判決ヲ爲シ其裁判確定シテ上訴ノ途ニ出ル能ハサル場合ニ係ル最其何レノ

裁判所ニ於テモ實際管轄權ヲ有セサル場合ニ於テモ訴訟當事者ニ於テ管轄權アリト主張スル場合ニハ猶直近上級裁判所ニ本條ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘク又通常裁判所ノミナラズ行政裁判所其他ノ特別裁判所ニ於テ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケ贖テ通常ノ民刑裁判所ニ訴訟ヲ起シタルモ其裁判所ニ於テモ通常裁判所ニ於テ管轄スヘキモノニアラストノ判決確定シタル場合ニモ亦本條ノ救濟方法ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス

## 第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其效力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其行政事務ヲ委任ス

本章ハ區裁判所ノ裁判事務及ヒ司法行政事務ニ付キ其ノ事務分配事件ノ管轄及ヒ之等ノ監督等ニ付キ一般ノ規程ヲ爲シタルモノニシテ本條第一項ニ於テハ區裁判所ノ裁判權ハ只一人ノ判事之ヲ行フコトヲ規定シタリ前ニ説明シタルカ如ク地方裁判所以上ノ各裁判所ハ合議裁判所ニシテ裁判事務ヲ取扱フニハ必ス三人以上ノ判事ノ評決ニ因テ之ヲ行フヘキモノナルモ區裁判所ハ管轄事件平易且ツ迅速ヲ要スルモノ多キヲ以テ單獨判事ヲシテ之ヲ行ハシムル所ニナリ裁判權ヲ行フコト即チ審案事件ニ付キ判決決定命令ヲ爲スニハ必ス一人ノ判事之ヲ行フモノニシテ假令審理ヲ鄭重ニスルカ爲メト雖モ二人以上ノ判事之ヲ行フトキハ其裁判ハ無効ニ歸スヘキモノトス然レトモ此ノ規定ハ裁判權ヲ行フノミニ關ル場合ニ限ルヲ以テ司法行政上數人ノ判事同一區裁判所ニ執務スルトモ本法ニ違反スルコトナキハ勿論ナリトス殊ニ事務ノ繁劇ナル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ二人以上ノ判事ヲ置キ通則ヲ定メテ各判事ノ執

ルヘキ裁判事務ヲ分配セシム可キモノト定メタリ如斯事務分配ノ通則ハ司法大臣之ヲ定ムルモノナルモ實際ニ之ヲ分配スルモノハ毎年司法年度ノ初ニ其通則ニ從ヒ區裁判所ヲ管轄スル處ノ地方裁判所長カ豫メ前以テ之ヲ定ムヘキモノトス

前述ノ如ク二人以上ノ判事同一區裁判所ニ在ル場合ニ裁判事務ヲ分配スルモノナリト雖トモ其ノ分配ハ全ク司法行政上ノ事務ニ屬スルモノニシテ外部ニ對スル裁判權ノ行使ニハ何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ之ヲ以テ右ノ事務分配ノ方法ニヨレハ甲ノ判事ノ審理スヘキ事件ニ係ル場合ニ乙ノ判事カ誤解又ハ都合ニヨリ之ヲ審理裁判スルト雖モ其裁判ハ爲メニ無効ニ歸スルモノニアラス然レトモ茲ニ注意スヘキハ凡ソ審理ノ方式ハ直接審理主義即チ審理ノ初メヨリ其ノ終リニ至ルマテ立會タル判事カ其審理ニ依テ得タル心證ニヨリ裁判スヘキモノナルコトヲ原則トスルヲ以テ審理ノ中途ヨリ他ノ判事カ之ニ代リ新タニ審理ヲ改ムルコトナクシテ之ヲ裁判シタル場合ノ如キハ審ニ事務分配上ノ違法ノミニアラスシテ審理ノ方則ニモ違反スルヲ以テ其裁判ハ效力ヲ

失フニ至ルヘシ此ノ意ヲ明カニスルカ爲メ本條第三項ニ於テ事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニヨリ裁判ノ效力ヲ失フコトナシト規定シテ事務分配上ニアラスシテ前示ノ如キ違法アル場合ニハ其瑕瑾ノ爲メニ裁判カ無効トナルコトヲ妨ケサルノ精神ヲ明カニシタル所以ナリ

元來司法大臣ハ司法行政事務ノ最高ノ監督官ナルヲ以テ同一區裁判所ニ二人以上ノ判事ヲ置イタル場合ニ付テモ司法大臣カ之ヲ監督スルハ勿論ナリト雖モ斯ル場合ハ其ノ各判事中ノ一人ヲ監監判事ト定メ司法大臣カ其ノ監督判事ニ自己ノ監督權ヲ委任シテ其裁判所ノ一切ノ行政事務ヲ管掌セシムルコトヲ得ルモノトス

**第十二條** 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ前條ノ規定ニヨリ地方裁判所長カ年度ノ初メニ各判事ノ事務分配ヲ定メタルトキハ其ノ司法年度中ハ之ヲ變更セサルヲ原則ト爲スコトヲ定メタル

モノナリ司法年度トハ本法第二百二十六條ニ定メタルカ如ク一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間ヲ云フモノトス其ノ年度中法文ニ示シタルカ如キ各種ノ事故生シタル場合ニハ其年度中ト雖モ定マリタル事務分配ヲ墨守スル能ハサルヘキヲ以テ斯ル場合ニハ監督判事ハ地方裁判所長ノ命ヲ受ケ適宜事務ノ分配ヲ變更處置スルモノトスル例ナリ監督判事ナキ區裁判所ナルトキハ地方裁判所長自ラ之ヲナシヘキモノトス

**第十三條** 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年以前以テ之ヲ定ム

本條ハ區裁判所判事ノ代理權ヲ規定シタルモノニシテ二人以上ノ區裁判所判事中各其職務ニ付各自差支アル場合ニ相代理シテ事務ノ進行ニ支障ヲ生セサ

ラシムルコトヲ期圖シタルモノトス其代理ノ順序ハ毎年度ノ初メニ適宜ニ地方裁判所長カ之ヲ定ムルモノナリト雖モ監督判事ノ職務ハ隨意ニ之ヲ定ムル能ハサルモノニテ必ス同裁判所中ノ官等ノ順序ニ因テ順次低キ官等ノモノハ高キ官等ノモノヲ代理シテ自己ヨリ低キ官等ノモノヲ監督シテ司法行政ノ事務ヲ處理スヘキモノトス數人ノ判事カ同一區裁判所ニアル場合ニハ前述ノ規定ニ依リ相代理シテ補充スルヲ得ヘキモ一人ノ判事ノミナル場合ニハ其裁判所ニ於ケル判事ノ差支ヲ補フヘキモノナキヲ以テ地方裁判所長ハ其ノ管内ノ二以上ノ區裁判所ノ判事ヲシテ差支アル場合ニ相互ニ他ノ裁判所ノ判事ヲ代理シテ之ヲ補充スルコトヲ毎年度ノ初メニ定メ置クコトヲ得ルモノトス條文ニ所謂法律上ノ理由トハ除斥又ハ忌避ノ原因アル場合ヲ云フモノニテ其ノ所謂特別ノ事情トハ病氣其他ノ實際上ノ差支ヲ云フモノナリ

**第十四條** 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

**第一** 二百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額二百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

- (イ) 住家其他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關  
リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸  
人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟
- (ロ) 不動産ノ經界ノミニ關スル訴訟
- (ハ) 占有ノミニ關スル訴訟
- (ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟
- (ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅  
人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟
- (一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料
- (二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手  
荷物金銭又ハ有價物

區裁判所ハ通常裁判所ノ最下級ニ屬スルヲ以テ其管轄ニ付テモ他ノ裁判所ニ  
比シテ狹隘ナリ凡ソ裁判所ノ管轄ニハ土地ノ管轄ト事物ノ管轄トノニアリ土

地ノ管轄ニ付テハ明治二十三年法律第六十二號ニ依テ各裁判所ノ位置及市町  
村區域等ニヨリテ其管轄區域ヲ定メラル本條ニ規定スル處ノモノハ即チ事物  
ニ關スル管轄ニシテ以下地方裁判所其他裁判所ノ管轄ニ關シテモ本法ニ於テ  
ハ皆事物ノ管轄ヲ示シタルモノナルニ留意スヘシ本條ニ規定スル處ノモノハ  
事物ノ管轄中民事訴訟ノ各事項ヲ定メタルモノニシテ以下逐次此レヲ説明ス  
ヘシ

第一 訴訟ノ目的物即チ請求スル處ノ金額又ハ物件ノ價格ハ二百圓ヲ超過セ  
サルトキハ總テ區裁判所ノ管轄ニ屬ス賃金又ハ賣買代金ノ請求ノ如キハ其  
請求額尤モ明瞭ナルヘキモ物件ノ請求即チ預リ物ノ引渡請求或ハ貨物ノ請  
求等ニ係ルトキハ訴訟當時ノ市場價額ニヨリテ之レカ計算ヲ爲スヘキモノ  
トス

第二 條文ノ(イ)ヨリ(ホ)ニ至ル各請求ノ訴訟ハ訴訟ノ完結ニ迅速ヲ要スルカ又  
ハ係争地ニ最近ナル裁判所ヲシテ取扱ハシムルヲ可トスルノ理由ニ基キ管  
轄區域ノ狹キ區裁判所ニ專屬シテ審理セシムルヲ便宜トナシタルニ依ルモ

ノナリ之レ等ノ管轄ヲ專屬管轄ト云フ即チ(イ)住家官衙集會所演藝所工場倉庫等ノ總テノ建物ノ全部又ハ其一部分ノ受取リ明渡ニ關スル訴訟或ハ之等ノ貸貸借其他ニ於ケル使用ニ關スル争ヒ又ハ不當ニ之等ノ家屋ニ占據シ居ルモノニ對シテ立退又ハ損害賠償ヲ請求スルカ如キ訴訟若クハ例セハ貸貸人カ借家ノ修繕ヲ爲サ、ルカ爲メ賃借人ヨリ其修繕ヲ請求スルカ如キ其他總テ家屋ノ修繕ニ關スル訴訟ハ價格ノ如何ニ拘ラス區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス猶此外建物ノ賃借人カ借料ヲ仕拂ハサル等ノ事由ニヨリ民法上ノ先取特權ニ基キ賃借人カ賃借人ノ家具其他ノ所持品ヲ差押ヘタルニ關シテ賃借人ヨリ借貸請求ノ本訴ヲ起シ又ハ賃借人ヨリ差押異議ノ訴ヲ提起スル如キハ總テ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(二)不動産ニ關スル争ニ於テ其争點カ境界ノミニ關スル訴訟ハ是亦區裁判所ノ管轄ニ屬ス蓋不動産ノ境界ヲ定ムルニハ多クハ實地ヲ臨檢スルノ必要生シ且ツ從來ノ土地ノ習慣又ハ不動産ノ情況ヲ平素目撃シ易キ最近ノ裁判所ニ取扱ハシムルヲ以テ能ク其争ノ真相ヲ判明シ得ヘキモノトスルヲ以テ小區域ニ多ク散在スル區裁判

所ニ之等ノ訴訟ヲ專屬セシムル所以ナリ(ハ)所有權ニヨル使用收益等ニ關係スルコトナク單ニ有體物ノ占有ノミニ關スル訴訟ハ不動産ニ關スルトキハ前述ノ(イ)(ロ)ニ於ケル不動産ノ場合ト同シク最近ノ裁判所ヲシテ審理セシムルノ便宜アリ動産ニ關スル占有ニ付テハ民法上ノ即時時効ノ原因トナル場合多ク若シ然ラサル場合ニテモ動産ハ多クハ輾轉シテ其所在ヲ判明シ難キニ至ルノ恐レアルヲ以テ最モ迅速ニ訴訟ノ進行ヲ計ラサル可ラサルモノニ係ルヲ以テ其何レノ占有ニ付テモ之ニ關スル訴訟ハ區裁判所ニ於テ審理スヘキモノト規定シタル所以ナリ(二)雇主ト雇人トノ間ニ於ケル雇期間一年以下ノモノニ付キテ其雇傭關係ニ關シテ起リタル訴訟ハ多クハ其争輕微ニ係リ然ラサル場合ニテモ迅速ニ訴訟ヲ審理セサルトキハ雇傭契約ノ効ナキニ至ラシムルノ恐アルヲ以テ是亦區裁判所ニ訴ヲ起スヘキモノトナシタリ次ニ(ホ)旅人カ其旅行ニ關シ旅程ニ於テ起リタル訴訟ニ付キテハ是亦附近ノ裁判所ニ於テ迅速ニ審理スルノ必要アルハ勿論ナルヲ以テ(一)旅人ノ膳料宿料又ハ汽車賃貨車賃等ノ如キ運送料ニ關シ旅人ト旅店又ハ飲食店或ハ鐵道會

社又ハ運送會社等ノ水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟ニ旅人カ旅行中安全ノ爲メ寄託シ置キタル手荷物金錢又ハ公債證書株券等ノ有價物ニ付キ其引渡又ハ損害賠償ノ請求或ハ寄託料ノ請求等ニ付キ旅店又ハ飲食店ノ主人又ハ前示ノ如キ運送人トノ間ニ起リタル訴訟ハ何レモ最近ノ管轄區裁判所ヲシテ取扱ハシムルヲ至當トシタル所以ナリ

以上ノ如ク區裁判所ノ民事訴訟ハ其請求輕微ニ抄ルカ又ハ迅速ニ處理スルヲ要スルカ若クハ其他ノ便宜ニ基キテ逐次列記セラレタル事項ニ係ルモノナラサル可ラスト雖モ民事訴訟法第二百一條第二百二條ノ規定ニヨル反訴ニ關シテハ特ニ本訴ヲ審案スル裁判所ニ於テ之ヲ審理スルヲ必要ト爲シタルモノナルヲ以テ本條ニ列記セラレタル事項以外ニ於テモ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ本訴ト同一ノ區裁判所ニ於テ審理スルモノトス但シ第二百條第二項ノ制限アルコトニ留意スヘシ

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白痴者失踪者其他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

本條ハ前條ニ次キテ事物ノ管轄ヲ規定シタルモノニシテ即チ非訟事件ハ一般ニ區裁判所ノ特別管轄ニ屬スルモノナルコトヲ明カニシタリ非訟事件トハ訴訟ノ形式ニヨラスシテ人事其他ノ權利義務ノ關係ヲ明カニスル審案事項ヲ總稱スルノ語ニシテ現今行ハル、非訟事件手續法ハ即チ非訟事件ニ關スル一般ノ手續ヲ規定シタルモノナリ區裁判所ハ之等ノ法律其他ニ定メラレタル管轄ノ範圍及審理ノ方法ニ從ヒ左ノ各項ヲ取扱フモノトス

第一 民法總則又ハ親族法其他ノ規定ニヨリ未成年者若クハ瘋癲白痴等ノ爲メ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノニ付テハ後見人ヲ付スヘク失踪者又ハ破産者ニ對シテハ財産管理人其他ノ管財人ヲ置クヘキモノトス之等ノ後見人又ハ管財人ハ法律上當然ニ其地位ニ立ツモノアリ又ハ爭アリテ裁判ニ依テ其

職ヲ明カニセラル、モノアルヘシト雖モ其何レヲ問ハス之等ノモノ、職務  
カ正當ニ行ハル、事ヲ監視スルモノハ一ニ區裁判所ノ職權ニ屬スルモノト  
ス

第二 不動産登記法又ハ船籍法ニヨル不動産及船舶ノ所有又ハ賃貸借其他ノ  
權利關係ヲ登記スル各事項及ヒ

第三 商業登記即チ商法ニ規定セラレタル店舗又ハ會社等ノ登記ノ如キ若ハ  
特許局ニ登録シタル特許意匠又ハ各商品ノ商標ヲ登記スルコトハ一ニ區裁  
判所ノ特別管轄ニ屬セシメタルモノトス

第十六條ノ一 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以  
下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 違警罪

第二 竊盜ノ罪及竊盜ノ贓物ニ關スル罪

第三 二百圓ヲ超過スル罰金ヲ併科又ハ附加セサル本刑六月以下ノ禁錮ニ  
該ル罪

第四 本刑二百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

本條ハ本法規定ノ當初ニ於テハ只一ケ條ノミニシテ其管轄事物モ甚狹キモノ  
ナリシモ明治三十八年法律第六十七號ヲ以テ本條ヲ二分シ次條ト共ニ其管轄  
ヲ廣クシ次ニ明治三十九年法律第五十號ヲ以テ本條第二ノ後段竊盜ノ贓物ニ  
關スル罪ヲ追加シテ便宜上更ニ之ヲ廣クシタリ如斯區裁判所ニ於ケル刑事訴  
訟ノ管轄ヲ廣クシタル所以ハ畢竟是レ等ノ犯罪ハ何レモ單獨判事ヲシテ迅速  
ニ處斷セシムルヲ適當トナシタルモノニ外ナラス然レトモ之等ノ犯罪ニ於テ  
モ違警罪ヲ除クノ外ハ往々其犯罪ノ性質重大ナルモノニ係リ關連事實錯雜シ  
テ直チニ公判ニ於テ審理スルヲ不適當トナシ公判前豫審ニ付スルコトアルヘ  
ク斯ル事件ニ付テハ單獨判事ヲシテ審理セシムルハ不適當ナルヲ以テ豫審ヲ  
經タルモノハ特ニ地方裁判所ヲシテ審理裁判セシムルモノトシタル所以ナ  
リ

第一、違警罪ニ付テハ警察署ニ於テ即決言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキ輕微ノ犯罪ニ  
係ルヲ以テ之ヲ區裁判所ノ管轄ト爲スヘキハ元ヨリ當然ナリ第二、竊盜ノ罪ハ



強盜等ノ犯罪ヨリハ輕キヲ常トスルモ而モ事件ニヨリテハ竊盜モ又々頗ル重大ナル犯罪ニ屬スルモノナキニアラス然レトモ此犯罪ハ實際ニ於テハ最多數ニシテ統計上殆ント各種犯罪總計ノ過半數ヲ占ムルノ勢アリ從テ竊盜ノ贓物ニ關シ寄藏故買又ハ牙保等ノ犯罪モ甚少數ナラス且ツ是等ノ犯罪ハ常習トスル累犯者最モ多キヲ以テ同一ノ裁判所ニ專屬セシメテ常ニ犯罪ノ性質ヲ講究シ適應ノ刑罰ヲ科シ且ツ其累犯ノ數ヲモ直ニ明確ナラシムルノ必要ヨリシテ其輕重ノ如何ヲ問ハス豫審ヲ經サルモノハ全ク區裁判所ニ專屬セシメテ此犯罪ヲ防止スルノ策ニ出テタルモノナリ第三以上ノ違警罪及竊盜并ニ盜賊ニ關スル罪以外ノ犯罪ニ付キテハ刑法ノ法文上最長期六月以下ノ重禁錮又ハ輕禁錮ニ該ル犯罪ノミヲ區裁判所ノ管轄トナス且ツ之ニ付隨シテ發覺シ而シテ右ノ禁錮刑ニ該ル犯罪ニ關連シタル他ノ犯罪ノ爲メ二百圓以内ノ罰金ヲ併科シ又ハ右ノ禁錮刑ノ附加刑トシテ同金額ヲ超過セサル罰金ヲ科スル犯罪ニ付テモ又等シク區裁判所ノ管轄タルヘシ茲ニ注意スヘキハ改正以前ノ本條ノ規定ニ於テハ本刑六ヶ月以上ノ禁錮ニ該ル犯罪ニテモ實際上六ヶ月以下ノ刑ヲ言

渡スヲ以テ適當トスル犯罪ハ皆區裁判所ノ管轄ニ屬セシムルモノナリシモ前述ノ改正以後ニ於テハ條文ニ示サレタルカ如ク法文上本刑六ヶ月以上ノ禁錮ニ處スルヲ得ル犯罪ハ實際上六ヶ月以内ノ刑ヲ言渡スヘキモノニテモ區裁判所ニ於テ管轄スル能ハサルニ至レリ尤モ最長期六ヶ月ヲ超ヘサル禁錮刑ヲ規定セラレタル犯罪ニテモ再犯ノ爲メ其刑ヲ加重シテ六ヶ月以上ノ刑ヲ言渡スヘキ場合ハ區裁判所ノ管轄ト爲スニ差支ナキモノト解スヘシ第四禁錮刑ニ併科又ハ付加セサル獨立ノ罰金刑ニシテ二百圓ヲ超過セサル犯罪ハ又區裁判所ノ管轄ト爲ス其理由ハ前述ノ趣旨ト全ク同一ナリ二百圓ニ限リタルハ單ニ世態ノ事情ニ因テ之ヲ適當トシタルニ過キス

第十六條ノ二 司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域内ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地方裁判所ノ管轄區域内ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

本條ハ止ムナキ事由ノ爲メニ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事事件ヲ他ノ區裁判所ニ於テ取扱ハシムルコトヲ得ヘキ便宜ヲ定メタルモノニシテ同一地方

裁判所ノ管内ニアル區裁判所間ニ於テハ前キニ説明シタル第十三條第二項ノ規定ニヨリ互ニ缺員ヲ補充シテ事務ノ取扱ヲ相代理スルコトヲ得ルモノナルモ斯ノ如ク人員ノ補充ヲナサスシテ全ク裁判所ノ管轄ヲ變更シテ區裁判所間ニ於テ互ニ事件ノ融通ヲナスノ規定ヲ缺キタルヲ以テ同一地方裁判所管内ノ區裁判所カ差支アル場合ニ他ノ區裁判所ニ於テ其刑事事件ヲ審理裁判スルノ便法ヲ認ムルニ至レリ(三十八年法第六七號ニテ改正)斯カル便法ハ實ニ裁判所ノ管轄ヲ變更スルノ結果ヲ見ルヲ以テ決シテ輕視スヘキコトニアラサルモ僻遠ノ地ニアル區裁判所ノ如キハ刑事事件甚タ少ク假リニ事件多シトスルモ交通ノ不便其他ニヨリ他ノ區裁判所ヲシテ審理セシムルヲ便宜トスル場合甚タ少カラス斯ル便宜ハ區裁判所ニ限リタルコトニアラサルモ地方裁判所以上ノ裁判所ニテハ事件重大ナルヲ以テ斯ル例外ノ便法ヲ擴張スル能ハサル事情アリ依テ區裁判所ニ限リ此方法ヲ認メ司法大臣ヲシテ臨機ノ處分ヲナサシムル所以ナリ斯ノ如ク刑事ニ限リテ此ノ例外ヲ認メ民事ノ事件ニ付テハ全ク他ノ區裁判所ニ取扱ハシムルコトヲ許サ、ル所以ハ民事ハ刑事ノ事件ト異リ併合

審理ヲ爲シ得ヘキ場合多ク且ツ人民ノ私權ノ保護ニ係リ刑事ノ如ク職權ヲ以テ迅速ニ證據ヲ調査シ刑辟ヲ科スル如キモノトハ緩急ノ差同日ノ論ニアラサルヲ以テ成ル可ク斯ル特例ヲ廣クセサランカ爲メ刑事ノ裁判ノミニ付此ノ例外ヲ認メタル所以ナリ同一地方裁判所管内ノ區裁判所間ニノミ此ノ便法ヲ許シタル所以ハ異ル地方裁判所ノ管内ナルトキハ直近ノ監督官ヲ相異ニシ事務ノ方針指揮等ニ付キ煩雜ヲ來スノ恐レアルヲ以テナリ

**第十七條** 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

前述ノ第十四條ヨリ前條マテノ間ノ規定ハ即チ區裁判所ノ事物ノ管轄換言セハ其ノ裁判權ノ範圍ヲ認メタルモノナルコトハ勿論ナリト雖モ前各條ニ規定シタルコトノ外猶民刑訴訟法其他ノ特別法ニヨリ區裁判所ノ權限ノ區域ヲ明カニシ若クハ其權限ノ關連事項ヲ追加スル等ノ規定尠カラス其等ノ特別ノ法令ニヨル規定ハ本法ニ牴觸スルモノニアラスシテ却テ本法ヲ補充スルノ法令ト看做スヘキモノトス但シ前數條ニ規定セラレタル事件ニ何等ノ關係ナキ事

項若クハ明カニ權限ノ範圍ニ背反スルモノ、如キハ本法ヲ改正スルノ精神ニアラサル限リハ本法ノ補充法ト見ルヲ得ス從テ其管轄權ナキモノトス條文ニ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リト規定シタルハ畢竟其意ヲ明カニシタルモノト云フヘシ

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

前ニ説明シタル第六條ノ規定ニヨリ各裁判所ニ檢事局ヲ付置スルコトハ既ニ明カナリ本條ハ各區裁判所ノ檢事局及ヒ其檢事ノ事務ヲ規定シタルモノニシテ各區裁判所ノ檢事局ニハ本補又ハ兼任ノ檢事ヲ置クコトヲ原則トナスモ區裁判所ノ事務ハ他ノ裁判所ト異ナリ其ノ管轄モ甚重大ナラサルヲ以テ其區裁判所管內ノ警察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ林務官ヲシテ區裁判所檢事ノ

事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルノ便宜ヲ認メ其外司法大臣ハ司法官試補又ハ郡市町村ノ長ヲ檢事代理ノ職ニ補スルコトヲ得ルモノトシタリ茲ニ注意スヘキハ司法大臣カ任命スル處ノ檢事代理ノ職務ハ一ノ特別ナル官職ニ係ルモノナレトモ前述ノ警察官其他ノ者ノ檢事事務ヲ取扱フハ特別ナル官職ヲ成スモノニアラスシテ只夫等ノ官吏ヲシテ便宜上檢事事務ヲ取扱ハシムルヲ得ルニ過キサルモノナリ故ニ警察官其ノ他ノ者ノ檢事事務ヲ取扱フ場合ニハ特ニ司法大臣ノ命令ヲ要スルコトナク隨時上官ノ指揮ニ應シテ檢事局ニ出頭シ事務ヲ執ルコトヲ得ルモノトス

### 第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

本章ノ規定ハ地方裁判所事務ノ監督分配又ハ管轄權及ヒ裁判方式ヲ規定シタルモノニシテ本案ハ先ツ地方裁判所ノ如何ナル裁判所ナルヤヲ其ノ第一項ニ

於テ明定シタリ即チ地方裁判所ハ第一審ノ合議裁判所ナリトス合議裁判所ナ  
 ルヲ以テ定數ノ判事カ共同シテ事件ノ審理ヲ爲シ其各自ニ得タル獨立ナル心  
 證ニ基キ事件ノ判斷ヲ評議裁決シテ司法權ヲ行使スルモノトス第一審トハ第  
 二審即チ控訴審ニ對スルノ語ニシテ最先ニ訴訟ヲ接受シテ審案スルコトヲ意  
 味スルノ語ナリ如斯地方裁判所ハ第一審ノ裁判所ナルコトヲ原則トナスモ第  
 二十六條第二十七條ノ規定ニ明カナルカ如ク第二審ノ裁判事務ヲモ其管轄ト  
 爲スモノナリ是レ畢竟裁判所ノ階級ヨリ來ル例外ナリト見ルヘキナリ  
 地方裁判所ニハ必ス民事事件ヲ裁判スル處ノ民事部ト刑事事件ヲ裁判スル處  
 ノ刑事部トヲ設ケ各其部ニ於テ民事事件ヲ分掌スヘキモノトス其ノ部ヲ幾個  
 置クヘキヤハ事務ノ繁閑ニヨリ便宜之ヲ定ムヘキモノナリ如斯實際ニ裁判事  
 務ヲ執ル處ノ部ハ即チ一個ノ裁判所ヲ構成スルモノニシテ曾テ述ヘタル狹義  
 ノ裁判所ト稱スルモノニ當ル

#### 第二十條

各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ム  
 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置キ其ノ裁判所内ノ司法行政事務ノ上官トシ  
 テ之ヲ指揮監督セシムルモノトス司法事務ハ即チ憲法ノ規定ニ基ク司法權ノ  
 活動ニシテ臣民ノ訴訟ヲ裁斷スルノ事務ヲ云フモノナルヲ以テ他ノ行政事務  
 トハ全ク其ノ趣ヲ異ニスルモノナリ地方裁判所長ハ司法事務即チ裁判權ノ活  
 動ヲ指揮監督スルモノニアラスシテ裁判所ノ行政事務即チ司法行政權ヲ自己  
 ノ裁判所内ニ於テ管掌スルモノナルニ留意スヘシ  
 前條第二項ノ規定ニヨル民事部又ハ刑事部ノ各部ニ部長ヲ置キ其ノ部長ハ各  
 自ノ部ニ於テ其行政事務ヲ指揮監督シ各判事ノ執ルヘキ事務ノ分配ヲ爲シ從  
 テ訴訟法ニ定メラレタル受命判事又ハ受託判事ヲ指定スルコトヲ得ルモノト  
 ス

#### 第二十一條

司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其裁判  
 所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

本條ハ豫審判事ヲ司法大臣カ任命スルコトヲ規定シタルモノニシテ刑事々件

ノ爲メニ豫審處分ヲ爲ス處ノ裁判所ハ大審院ノ特別事件ヲ除ク外(本法第五十條第二)地方裁判所ノミニ限ルモノナルヲ以テ其ノ豫審事務ヲ執ルヘキ專任ノ豫審判事ヲ各地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事事件ノ爲メニ毎年一人若クハ二人以上之ヲ定メ置クヘキモノト規定シタル所以ナリ其員數ノ制限ナキハ全ク事務ノ狀況ニ應シテ定メシムルノ法意ナリ

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年以前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル處ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

本條第一項ハ司法大臣ノ豫メ定メタル事務分配ノ通則ニ從ヒ事務ノ分配ヲ爲

スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ事務繁劇ノ地方裁判所ニシテ民事部及刑事部共ニ二個以上設置スルノ必要アル場合ニハ本項ノ規定ハ最モ其ノ必要ナルヲ見ルヘシ第二項ノ規定ヲ要スルハ元來前項ノ各部ニ於テ實際ノ審理ニ當ルヘキ部員中部長ハ裁判長トナリ他ニ二人ノ陪席判事ヲ要ス隨テ其ノ部長部員及地方裁判所長ニ差支アリテ其職務ヲ執ル能ハサルトキハ豫メ其ノ代理ヲ爲スヘキ各員ノ順番ヲ定メ置カサルヘカラサル所以ニシテ之カ代理ノ順番方ニ關シテハ毎年度ノ分ヲ豫メ前年度中ニ定メ置キテ事務ノ遲滞ナカラントヲ期シタルナリ

前述ノ如ク事務ノ分配及代理ノ順序ヲ定ムルニ付テハ第三項ニ規定シタルカ如ク所長部長及部ノ上席判事一人カ出席シテ會議ノ上評決スヘキモノトス故ニ部員タル陪席判事ハ上席一人ノミ出席スルヲ以テ各部ニ於ケル他ノ一人ノ下級ノ陪席判事ハ其ノ會議ニ出席スルコトナキモノト知ルヘシ  
地方裁判所長ハ行政事務ノ長官タルモノナリト雖モ又判事トシテ司法事務ノ部長ヲモ當然ニ兼ヌヘキモノニテ所長ノ部長トナルヘキ部ヲ何レニ定ムヘキ

カハ前述ノ會議ニ依テ之ヲ決スルモノニアラスシテ事務ノ情況ニ應シ所長カ自ラ裁判長トナルヲ適當トシタル部ヲ年度ノ前ニ隨意ニ自ラ指定スヘキモノトス是畢竟事務ノ分配ハ一ニ行政事務ニ屬スルモノナルヲ以テ其ノ長官カ自ラ之ヲ定ムルヲ適當トシタルモノト云フヘシ

**第二十三條** 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ前條ニ説明シタルカ如ク民刑各部ノ事務ハ司法年度ノ前ニ於テ豫メ之ヲ分配シ置クモノナルヲ以テ司法年度ノ終リニ於テハ次年度ニ於テ執ルヘキ事務ハ必スシモ同一ノ判事ニ分配セラシムルヘキモノニアラサルハ勿論多クハ前年度ト異ル分配ヲ見ルニ至ルヲ例ト爲ス斯ル場合ニ既ニ著手シタル公判ノ事務又ハ豫審事務ハ終結セスシテ年度終了シ次年度ノ部員變更アリタル場合ニハ曾テ説明シタルカ如ク裁判事務ハ直接審理主義ニヨリ係員ノ變更アレハ必ス審理

ヲ更新セサルヘカラサルヲ原則トスルヲ以テ年度ノ變更ト共ニ既ニ著手シタル審理ヲ廢棄シ新ニ審理ヲ初メサルヘカラサルノ煩雜ヲ來スヘキハ明カナラフ以テ所長ハ事務ノ分配變更セラレタルニ拘ラス同一部員ヲシテ其著手シタル事件ニ限り引續キ之ヲ審理結了セシムルコトヲ得ルノ便利ヲ認メタル所以ナリ斯ル便利ノ方法ハ公判ニ於テモ豫審ニ於テモ其必要タルヘキハ勿論ナルヘシ

司法年度ノ變更ノ際ニ於テノミ以上ノ便宜ヲ必要トスルノミナラス第二百二十七條以下ノ規定ニヨリ裁判所ノ休暇ニ係リ休暇事件トシテ取扱フヲ得サル事件ニ付テモ既ニ著手シタル事務ヲ休暇中中止スルヲ不適宜ト爲スヘキ事件甚キニアラサルヲ以テ斯ル場合ニモ裁判所長ハ休暇中ニ拘ラス同一係員ヲシテ引續キ之ヲ審理結了ヲ爲サシムルヲ得ヘキモノトス

**第二十四條** 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ

變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルト  
キハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

本條ハ司法年度ノ終リニ於テ第二十二條ニ規定シタル次年度ノ事務ノ分配及  
各部門タル判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ其ノ司法年度中ハ之ヲ變更セ  
サルヲ以テ原則トスルヲ明カニシ其反面ニ於テ止ムヲ得サル場合ニ於テノミ  
之レヲ變更スルノ例外ヲ認メタルモノナリ即チ休暇事件ニ關セサル場合ニ限  
リ各部ノ事務ノ繁閑甚シキ差異ヲ來シ又ハ部員タル判事ノ轉職退職疾病辭職  
又ハ拘禁等ノ事故ニ依リ久シキ間引續クヘキ差支アル場合ニハ止ムナク司法  
年度中ト雖モ右ノ分配又ハ配置ヲ變更スルヲ得ヘキモノトス休暇中ニ係ル場  
合ニ於テハ豫メ休暇部ヲ定メ置キ且ツ其期間モ長カラサルヲ以テ特ニ斯ル變  
更ヲ規定シ置クノ必要ナキモノトシタル所以ナリ  
第二項ハ裁判所ニ定メ置キタル部數ニ比シ事務甚繁劇ニ涉ルトキハ司法大臣  
ハ適宜判事ノ任命ヲ増加シ新ニ民刑ノ部ヲ増設スルヲ得ルモノトシタルナリ

第二十五條

地方裁判所ノ判事差支ノ爲メ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同  
裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリ  
ト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ  
其代理ヲ命スルコトヲ得

本條ハ區裁判所判事又ハ豫備判事ヲシテ地方裁判所判事ヲ代理セシムヘキ場  
合ヲ規定シタルモノニシテ即チ地方裁判所ノ係判事中事故アリテ事件ヲ取扱  
フヲ得ス且第二十二條第二項ノ規定ニ依テ定マリタル代理ノ判事モ差支アル  
場合ニハ普通ナレハ其儘差支ノ消滅スルマテ事件ヲ中止スルノ外ナキモ其事  
件緊急ニシテ等閑ニ付シ難キモノナリト地方裁判所長カ認ムルトキハ自己管  
内ノ豫備判事又ハ區裁判所ノ判事ニ地方裁判所ノ判事ヲ代理シテ其事件ヲ引  
轉キ審理セシムルコトヲ得ルモノト規定シタル所以ナリ

第二十六條

地方裁判所ハ民事訴訟ニ付左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス  
第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ

除キ其他ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

本條及次條ハ地方裁判所ノ事物ノ管轄ヲ規定シタルモノニシテ本條ニ於テハ民事ノ訴訟事件ニ付テ地方裁判所ハ第一審及第二審ノ裁判權ヲ行使スルモノナルコトヲ明カニシタリ

第一 第一審即チ訴訟ノ當初ヨリ事件ヲ接受シテ審案スヘキ民事訴訟ハ第四條及第十五條ニ於テ説明シタル區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ除キ其他尙モ通常裁判所ニ屬スヘキ一般人民ノ訴訟ハ皆其裁判權ニ屬スルモノトス尤モ第三十八條ノ規定ニヨリ普通臣民ヨリ皇族ヲ被告トシテ起シタル民事訴訟又ハ皇族ヨリ皇族又ハ臣民ニ對シテ起シタル民事訴訟ハ東京控訴院ノ專屬管轄ニ屬スルヲ以テ地方裁判所ニ於テハ第一審ト雖モ之ヲ審理スルナキハ勿論ナリ

第二 第二審即チ區裁判所ノ民事事件ノ判決ニ對スル控訴ニ付テハ地方裁判所ノ總テ其管轄内ニアル區裁判所ノ判決ヲ覆審スルモノトス其ノ外判決ニアラサル區裁判所ノ裁判即チ決定命令ニ對スル適法ナル抗告ニ付キ地方裁判所ハ控訴ニ對スルト同シク之カ覆審ヲ爲スヘキモノナリ茲ニ留意スヘキハ判決ニ對シテハ何レモ敗訴ノ當事者ヨリ控訴ヲ爲シ得ヘキヲ原則トスルモ決定及命令ニ對シテハ特ニ法律ノ許シタル場合ニアラサレハ之カ抗告ヲ爲シ得サルモノナルヲ以テ法文ニ特ニ「法律ニ定メタル抗告」ト明言シタル所以ナリ

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限并ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告



本條ハ地方裁判所ノ刑事ノ訴訟事件ニ對スル事物ノ管轄ヲ指定シタルモノニシテ

第一 第一審トシテハ地方裁判所ハ第十六條ノ一ニ規定シタル區裁判所ノ刑事事件ノ管轄ヲ除ク外總テノ刑事法令ノ違反者ヲ審問處罰スヘキモノトス  
茲ニ注意スヘキハ第十六條ノ一ノ但書ノ規定ニヨリ豫審ヲ經タル輕罪事件ハ本來區裁判所ニ屬スヘキモノニテモ地方裁判所ノ管轄ニ歸スルコトナリ之ヲ以テ竊盜ノ罪ニテモ持兇器竊盜ノ如キハ重罪ニ係ルヲ以テ必ス刑事訴訟法第六十二條第一ノ規定ニヨル豫審ヲ經由スヘキモノナルヲ以テ決シテ區裁判所ノ管轄ニ屬スルコトナキヲ留意スルヲ要ス然リ而シテ皇室ニ對スル罪及國事犯ノ重罪ニ係ルモノ并ニ皇族ノ犯シタル禁錮以上ニ該ルヘキ犯罪ニシテ本法第五十條第二ノ規定ニヨリ大審院ノ特別管轄ニ屬スル刑事訴訟ニ付テハ第一審ト雖モ地方裁判所ノ權限ニ屬スルナキハ當然ナリト云フヘシ

第二、第二審トシテ地方裁判所ハ區裁判所ノ刑事訴訟事件ニ於ケル裁判即チ

判決決定又ハ命令ニ對スル控訴及抗告ニ付キテ之カ覆審ヲ爲スハ前條ニ解説シタル民事事件ニ對スル場合ト異ルナシ

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

本條及次條ノ規定ハ地方裁判所ノ特別管轄ヲ規定シタルモノナリ破産事件トハ破産法ノ規定ニヨリ債務者カ其義務ヲ履行スル能ハスシテ仕拂ヲ停止シタルカ爲メ債權者ヨリ債務者ノ破産宣告ノ決定ヲ申請シ若クハ債務者ヨリ進テ其宣告ヲ求メタル場合ニ開始セラル、一種ノ民事的訴訟ニ係ル破産事件開始ノ後ニ之レカ主任者ヨリ受命判事ヲ定メ破産管財人ヲ設ケ其他破産財團ノ配當債權者ノ申出ニ對スル裁決等皆一ニ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス破産事件ハ債權者ヨリ見レハ一種ノ強制執行ニ過キス從テ民事訴訟法ノ規定ニヨル一般ノ執行裁判所タル區裁判所ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヲ至當トナスカ如シト雖モ破産事件ハ全ク債權者ノ財產權ノ處分收益ヲ停止シテ公力ニヨリ債務辨濟ヲ處置スルモノナルヲ以テ一私人ニ對シテハ甚重大ナル結果ヲ生スルヲ以テ合議裁判所タル地方裁判所ニ之ヲ專屬セシメ其取扱ヲ鄭重ニシタル所

以ナリ

第二十九條 地方裁判所ハ訴訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定命令ニ對シ法律ニ

定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

前キニ説明シタル第十五條ノ規定ニヨリ訴訟事件ハ一般ニ區裁判所ノ特別管轄ニ屬スルモノタルハ明カナリ其訴訟事件ニ關シテ區裁判所カ爲シタニ決定又ハ命令ニ付其事件ノ關係人カ不服アル場合ニハ非訟事件手續法又ハ登記法等ノ規定ニヨリ抗告ヲ爲シ得ヘキモノト定メラレタル場合アリ斯ル場合ニ於ケル抗告ハ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ爲スヘキヲ以テ本則ト爲ス即チ地方裁判所ハ其抗告ニ付キテ專屬ノ裁判權ヲ有スルコトヲ明カニシタルモノナリ

第三十條 地方裁判所ノ權限并ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ

法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ニ定ムル處ニ依ル

第二十六條以下ニ規定セラレタル地方裁判所ノ管轄ハ其規定ノ各事項ニ付總テ裁判權ヲ有スルハ言フ俟タサル所ナリ其他ノ事件ニ付キテハ地方裁判所ハ

全ク裁判權ヲ有スルコトナキヤト云フニ然ラス第十九條第一項ニ規定セラレタルカ如ク地方裁判所ハ第一審ノ裁判所ニ係ルヲ以テ尙モ通常司法裁判所ニ於テ行フ所ノ事件ハ便宜上區裁判所ニ屬セシメタルモノ又ハ控訴院大審院ニ於ケル特別管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外總テ之ヲ管轄スルモノトセサルヘカラス憲法第六十條及ヒ第六十一條ノ規定ニヨリ特種ノ裁判所(行政裁判所ヲ含ム)ニ屬セシメタル事件ニシテ民事刑事ニ屬スルカ又ハ之等ノモノニ準スヘキ臣民ノ一般訴訟ハ總テ本法ニ規定セラレタル司法裁判所ニ於テ之カ司法權ヲ行フモノナルヲ以テ本法規定以外ノ之等ノ事件ニシテ訴訟法又ハ特別法ニヨリ其訴訟ノ管轄裁判所ヲ指定セサルモノハ總テ當然地方裁判所カ第一審タルノ管轄權ヲ有スルモノトスルノ法意ナリ本條ハ即チ其精神ヲ明カニシタルモノニシテ第十七條ノ條文ト本條トヲ對照スルトキハ一見瞭然タルヘシ

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若クハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ

得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用キルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

本條ハ地方裁判所ノ支部ヲ設置スヘキ場合及其ノ支部ノ構成員并ニ事務分配ヲ規定シタルモノニシテ第一項ハ司法大臣ハ或ル區裁判所内ニ之ヲ管轄スル地方裁判所ノ支部ヲ設置スルコトヲ命ズルヲ得ルノ規定ヲナシタルモノナリ如何ナル場合ニ之ヲ命スヘキヤト云フニ交通不便ナルカ又ハ管轄區域廣クシテ區裁判所ト地方裁判所トノ間遠隔ナル場合ニシテ事件ヲ審理スルニ付不便宜ヲ來ストキニ係リ此ノ如キ場合ニ區裁判所内ニ於テ地方裁判所ノ管轄タルヘキ民事及刑事ノ訴訟事務ヲ取扱ヘキ地方裁判所支部ヲ設クヘキモノトス地

方取扱所事務ノ全部ヲ支部ニ於テ取扱フトキハ地方裁判所ヲ變更施設スルノ結果ヲ來スヲ以テ支部ニ於テ其全部ノ取扱ヲ爲スヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ其土地ノ管轄區域ヲ限ルカ又ハ事件ノ種類ヲ制限シテ本廳事務ノ一部分ヲ支部ニ於テ取扱フコトヲ得ルトスル所以ナリ

區裁判所ハ單獨判事ニ係ルヲ以テ地方裁判所支部ヲ區裁判所内ニ設クルトキハ其構成員タル判事ヲ増加セサルヘカラサルヲ通例トス何トナレハ支部モ又地方裁判所ノ一部分ナルヲ以テ其公判ノ係判事モ三人以上ノ合議裁判所タラサルヘカラサルヲ以テナリ斯ル場合ニ特ニ支部專任ノ判事ヲ置クコトヲ得ルハ勿論ナルモ支部ヲ設置シタル區裁判所ノ判事又ハ其近隣ニシテ出張ニ便利ナル區裁判所ノ判事ヲシテ支部ノ事務ヲ兼任スルコトヲ命スルヲ得ルモノトス斯ル場合ニ支部ノ事務ヲ區裁判所判事ニ命スルハ一ニ司法大臣ノ職權ニ屬シ便宜上之カ任用ヲ爲スヘキモノナリ又支部ニ在勤スヘキ豫審判事及檢事モ司法大臣ハ適宜ニ之ヲ定ム豫審判事ヲ命スルニモ亦本部タル地方裁判所管内ノ區裁判所判事ニ兼任セシムルコトヲ得ヘシ

支部ニ於ケル事務分配及差支アルトキノ代理ニ付テハ本章ニ規定セラレタル  
地方裁判所ノ事務分配ニ關スル規定ヲ適用スヘキハ勿論ニシテ支部ノ判事  
中  
差支アリ且一般代理ノ順席ニヨリ之ヲ補充スル能ハサルトキハ第二十五條ノ  
規定ニヨリ地方裁判所長ハ隨時管内ノ他ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ代理  
ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

**第三十二條** 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件

ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其三人ノ判事  
中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其部ニ列席スル  
コトヲ得ス其他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱  
フ

地方裁判所ノ管轄事件ニ付テモ其事件ヲ審理裁判スルニ公判ヲ開キ法廷ニ於  
テ之ヲ爲スヘキモノト受命判事其他ノ係判事カ法廷外ニテ隨意ニ之ヲ取扱フ  
ヲ得ルモノトノ二アリ其區別ハ一ニ訴訟法又ハ特別法ノ規定ニ依テ定マルモ  
ノトス通常ノ民刑訴訟事件ノ如ク訴訟法上公判ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ

本條ニ明定セラレタルカ如ク三人ノ判事ヲ以テ組立テタル民事部又ハ刑事部  
ニ於テ三人ノ判事列席ノ上其内一人ヲ裁判長ト爲シ其他ノ二人ヲ陪席判事ト  
爲シテ之ヲ審理スヘキモノトス差支ナキ限りハ三人ノ判事中ノ最上級ニアル  
判事ヲ裁判長ト爲スヲ通例トナス次席ノ判事ハ其右側ニ最下級ノ判事ハ其左  
側ニアリテ審理スルノ例ナリ裁判長ハ法廷ノ指揮權ヲ握ルモノナルコトハ第  
百四條ノ規定ニヨリテ明カナリ陪席判事ハ必要アル場合ノミ自ラ問ヲ發スル  
ヲ得ルモノトス裁判ヲ爲ス前ニ於ケル評議其他ノ方式ニ付テハ本法第三章第  
百十條以下ニ規定セラル

**第二十五條**ノ規定ニヨリ豫備判事カ事件ノ審理ニ加ハル場合ニ於テハ只一人  
ノ豫備判事ノミ之レニ加ハルヲ得ヘキモノニシテ豫備判事ノミニテ部ヲ構成  
スル能ハサルハ勿論豫備判事二人正任判事一人ニテモ又不可ナリ蓋シ豫備判  
事ハ僅ニ第二回試験ニ及第シタルノミニシテ未タ經驗乏シク單ニ補缺ノ職ニ  
アルモノナルヲ以テ二人以上ノ豫備判事ヲ列席セシムルトキハ資格充分ナラ  
サルモノカ多數ヲ占ムルニ至リ裁判ノ正鵠ヲ期シ難キノ虞レアルヲ以テ之ヲ

制限シタル所以ナリ訴訟法又ハ特別法ノ規定ニヨリ法廷ニ於テ審理スルヲ要セサル事件ニ付テハ受命判事又ハ受託判事其他ノ係判事カ隨意ニ之ヲ爲スヘク必スシモ法廷ニ定員ノ列席スルヲ要セサルハ元ヨリ當然ナルヘシ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

本條ハ地方裁判所附置ノ檢事局ニ關スル規定ニシテ地方裁判所檢事局ニハ檢事正一人ヲ置キ其他ノ檢事ヲ指揮監督シ且數人ノ檢事アルトキニ檢事々務ヲ分配シテ之ヲ取扱ハシムルノ職ヲ司ラシム前キニ説明シタルカ如ク檢事ハ共同ノ一體ヲ爲スモノナルヲ以テ互ニ相代理スル當然ノ權利ヲ有ス從テ判事ニ於ケルカ如ク差支アル場合ニ相代理スルノ法則ヲ豫メ定メ置クノ必要ナキハ言ヲ俟タサル處ナリ本條但書ハ畢竟其精神ヲ明カニシタルモノニシテ只檢事正ノ職務ヲ代理スルコトニ係ルヲ以テ疑義ヲ防クカ爲特ニ規定ヲ爲シタルモノナルニ過キス即チ如何ナル場合ニ於テモ特別ノ許可ヲ受ケスシテ其檢事局

ノ他ノ檢事ハ席ノ上下ヲ問ハス何レモ當然ニ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有スルモノトス

### 第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

本章ノ規定ハ控訴院ノ事務分配監督管轄及其ノ裁判權ノ行使ニ關スル規定ヲ爲シタルモノニシテ先ツ本條第一項ニ於テ控訴院ノ如何ナルモノナルヤヲ規定シタリ即チ控訴院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織スル合議裁判所ニシテ第二審即チ控訴審ヲ爲ス處ノ司法官廳ナリ地方裁判所ハ第一審ニシテ其ノ直近上級裁判所ハ即チ控訴院ナルヲ以テ控訴院ハ右ニ述フルカ如ク地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ受理スルヲ其ノ本務ト爲スモノナリト雖モ區裁判所ノ判決ニ對シテハ上告審ヲ爲スヘキモノトス

各控訴院ニ民事部及刑事部ヲ分チ置ク事ハ地方裁判所ト異ナルナク事務ノ繁

六四  
關ニ應シ各一若クハ二以上ノ部ヲ設クルハ又等ク便宜ニ依リ定マルヘキモノトス

### 第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

本條ハ控訴院ニ於ケル事務ノ分配及其ノ監督ヲ定メタルモノニテ即チ控訴院ニハ控訴院長一人ヲ置キ一般ノ事務ヲ指揮シ主トシテ控訴院内ノ行政事務ヲ監督スルモノトス後ニ説明スル第三百五條第三ノ規定ニヨリ控訴院長ハ自己ノ控訴院ノミナラス其控訴管轄區域内ニアル地方裁判所及區裁判所ヲ監督スルノ職權ヲ有ス控訴院ノ上ニ位スル大審院長ハ只其ノ大審院ノ事務ノミヲ指揮監督スルモノナルヲ以テ控訴院長ハ司法大臣ヲ除キテハ其監督權最モ廣キモノナリ然レトモ既ニ述ヘタルカ如ク之等ノ監督官ハ司法行政ノ事務ニ付テノミ其ノ職權ヲ有スルモノニシテ判事ノ獨立ナル裁判權ニ對シテハ毫モ之カ干渉指揮ヲナスヲ得サルハ勿論ナリト知ルヘシ

前條第二項ニヨリ設置シタル民刑各部ニ部長各一人ヲ置キ部長カ部ノ司法行政事務ヲ監督シ受命判事受託判事ヲ命シ其他各事件ニ對スル主任ノ判事ヲ取極ムルモノナルコトハ地方裁判所ノ部長ト異ナルコトナシ

### 第三十六條 事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三

條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但豫備判事ヲ用キルコトヲ得ス

本條ハ控訴院ニ於ケル事務ノ分配及臨時事務ノ引續キ結了ヲ爲サシムルコト及判事ニ差支アル場合ニ互ニ代理シテ補充スル方法ニ付キ前キニ説明シタル

地方裁判所ノ規定即チ第二十二條第二十三及第二十五條ヲ控訴院ニモ亦適用スルコトヲ定メ只控訴院ノ事務上地方裁判所ト同一ニスル能ハサル事項ニ付テノミ之レカ特別規定ヲ設ケタリ

第一 第二十二條ノ規定ノ如ク控訴院長ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ民刑各部ニ事務ノ分配ヲ爲シ且ツ其ノ各部長部員ノ配置院長部長部員ニ差支アル場合ニ之カ代理ヲ成スヘキ順序ヲ毎年度ノ終リニ次年度ノ分ヲ豫定シ置キ且ツ控訴院長カ自ラ部長タルヘキ部ヲ隨意ニ指定スヘキモノトス但シ控訴院ニテハ豫審事務ヲ執ルコトナキヲ原則トスルヲ以テ豫審判事ヲ定メテ之レカ事務分配ヲ爲スヘキコト殆ント之レナキモノトス司法年度ノ終リ又ハ休暇ノ初メニ於テ從來ヨリ審理シ來リタル事件カ未タ終結ニ至ラサル場合ニ控訴院長ハ前係員ヲシテ取扱ハシムルヲ便宜ト認メタルトキハ引續同部員ヲシテ之ヲ結了セシムルコトヲ得ルハ地方裁判所ノ場合ト異ナルコトナシ

第二 地方裁判所ニ於ケル第二十五條ノ規定ノ如ク判事差支ノ爲メ事件ヲ

取扱フコトヲ得ス且ツ前年度ニ豫メ定メ置キタル代理ノ順序ニ於テ代理スヘキモノニモ差支アルカ又ハ缺員ヲ生シテ補充スル能ハサル場合ニ於テ其ノ審理事件ヲ一時中止シ置ク能ハサル緊急ノモノナリト認ムルトキハ控訴院長ハ自己ノ管内ニテ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シテ地方裁判所判事ヲ一時控訴院ニ執務セシメ以テ其ノ差支ヲ補充シ控訴院判事ヲ代理セシムルコトヲ得ルモノトス如斯廣ク控訴院管内ノ地方裁判所判事ヨリ採ルコトナク唯控訴院所在地ノ地方裁判所判事ニ限リテ代理ヲ爲サシムルヲ得ルモノトスル所以ハ地方裁判所ニハ區裁判所ト異リ必ス多數ノ判事在勤スルモノナルヲ以テ便宜上其補缺員ヲ差出スコトニ差支ナカルヘキモ若シ何レノ地方裁判所判事ニテモ可ナリトスルトキハ控訴院ノ管内ハ甚タ廣キヲ以テ遠隔ノ地ヨリ補充員ヲ出張セシムルコトアルヘク斯クテハ便宜法ニ適セサルノ憾アルニ至ルヲ以テ如斯控訴院所在地ノ判事ニ限リタルモノトス尙注意スヘキハ地方裁判所ノ補缺ノ爲メニハ豫備判事ヲ用キルコトヲ得ルモ控訴院ノ補缺ノ爲メニハ決シテ豫備

判事ヲ用ユル能ハサルコト之ナリ畢竟控訴院ノ事務ハ事實審ノ終審ニ係  
リ從テ事件モ重要ニ屬スルハ言フ俟タサル所ナルヲ以テ如斯制限シタル  
所以ナルヘシ

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對ス  
ル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

本條ハ控訴院ノ事務ノ管轄ヲ現定シタルモノニ係ル

第一 前キニ説明シタルカ如ク民事訴訟タルト刑事訴訟タルトヲ問ハス控  
訴院ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル檢事被告人辯護人法律上代理人  
等ヨリ爲シタル控訴ニ付キ之ヲ覆審シ其裁判ヲナスヲ本務トナス

第二 如斯控訴院ハ控訴審ヲナスヲ以テ本務ト爲スモ裁判所ノ進級上區裁  
判所ノ判決ニ付地方裁判所カ控訴ヲ受ケ之カ爲メニ爲シタル判決ニ對ス

ル上告ヲ控訴院ハ受理シ裁判ヲ爲スノ職權ヲモ有スルモノトス  
控訴ト上告トノ區別ハ民刑訴訟法ニ於テ規定セラレタル處ナリト雖モ要  
スルニ控訴ハ爭訟ノ事實及ヒ之ニ對スル法律上ノ適用疑義ヲモ總テ一審  
裁判所ノ如ク之ヲ審理スヘキモノスルモ上告ハ爭訟ノ事實ニ付テハ全ク  
之カ審判ヲ爲スコトナク只訴訟審理ノ方式又ハ適用ノ法律ノ爭ニ對シテ  
ノミ之カ審理判決ヲ爲スヲ原則トス之ヲ以テ上告審ハ立法ノ不備若ハ疑  
義ニ付キ常ニ之カ補充又ハ解決ヲ爲シテ一般司法上ノ準繩トナルノ力ア  
ルヲ以テ本法第四十八條ニ於テハ上告審ヲ以テ本務トスル大審院ノ法律  
點ニ付キ發表シタル意見ハ下級裁判所ヲ羈束スルノ效力アルモノト定メ  
ラレタリ然レトモ控訴院ノ上告審ニ付テハ之等ノ明文ヲ置クコトナキヲ  
以テ大審院ノ判決ノ如キ羈束力ナキモノト解セサルヘカラズ蓋控訴院ハ  
最高ノ司法官應ニアラサルヲ以テ未タ之ニ對シ如斯重大ナル效力ヲ付ス  
ルヲ適當トスル能ハサルニ起因スルモノト謂フヘキナリ然レトモ實際上  
ニ於テハ其上告ノ訴訟ニ付控訴院ハ終審タルモノナルヲ以テ若シ控訴院



カ地方裁判所ノ控訴判決ヲ廢棄シテ之ヲ他ノ裁判所ニ移シタル場合ニ於テハ移サレタル地方裁判所又ハ區裁判所ハ既ニ控訴院ニ於テ其ノ事件ノ爲メニ發表シタル法律上ノ意見ト異リタル法律解釋ヲ執ルトモ再ヒ上告ラセルレハ忽チ控訴院ノ爲メニ其判決ヲ廢棄セラル、ノ結果ヲ見ルヘキヲ以テ勢ヒ控訴院ノ意見ハ此點ニ於テ下級裁判所ニ對シ偉大ナル效力ヲ有スルモノト云フヘキナリ

第三 地方裁判所ノ缺定及命令ニ對シ訴訟法其ノ他ニヨリ抗告ヲ許シタル場合ニ其抗告ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ之ヲ接受シテ審理裁判スヘキモノトスルハ地方裁判所カ區裁判所ノ決定命令ニ對スル場合ト異ナル所ナシ

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス皇族ニ對スル民刑訴訟ハ一般臣民ノ訴訟事件ト其取扱ヲ異ニセサルヘカラサルハ至當ナルコトナリト云ハサルヘカラス本條ハ第五十條第二ノ後段ノ大審

院ニ於ケル特別管轄ト相待テ皇族カ當事者ノ一方トナリ又ハ其ノ双方トナリタル訴訟事件ヲ特別ナル管轄ニ屬セシムルコトヲ規定シタルモノニシテ刑事ノ被告事件ハ一層重大ナルヲ以テ大審院ノ裁判權ニ屬セシメタルモ民事ノ訴訟ニ付テハ東京控訴院ノ專屬管轄ト定メタリ控訴院中東京控訴院ニ限リタル所以ハ輦轂ノ下ニアリ且ツ比較的人材ノ多カルヘキ裁判所ノ裁判權ニ屬セシムルヲ適當トシタルニ外ナラサルヘシ

斯ノ如ク皇族ノ民事訴訟ニ付テハ本來控訴審ヲ爲スヘキ控訴院ニ於テ事件ノ第一審ヨリ之カ審案ヲ爲スヲ以テ第二審ハ其上級裁判所タル大審院ニ於テ爲ササルヘカラサルニ至リ從テ上告審ヲ爲スヘキ裁判所ナキニ至ルヲ以テ東京控訴院ハ一ノ部ニ於テ皇族ノ民事訴訟ノ第一審ヲ爲シ其手續ハ全ク地方裁判所ノ第一審手續ニヨリ只審案ノ係員ヲ普通ノ場合ノ如ク五人ト爲スノ差アルノミニテ其ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニハ同一控訴院ノ他ノ部ニ於テ本章及民事訴訟法ノ控訴ニ關スル規定ニ從ヒ控訴審ヲ爲スヘキモノトスルナリ

第三十九條 控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此法律

ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ニ定ムル所ニ依ル

本條ハ地方裁判所ニ於ケル第三十條ノ規定ト全ク其趣旨同一ニシテ地方裁判所ノ管轄カ本法ノ規定以外ニ於テ訴訟法又ハ特別法ニヨリ其管轄權アルモノトセラレタル事件ハ又其上訴ニ付キ必ス控訴院ノ管轄トナラサルヘカラスアルヲ通則トス之ヲ以テ特別ノ管轄モ又地方裁判所ノ規定ト同一ニシテ其裁判權ノ範圍及方法モ亦タ同一ニ規定セサルヘカラスアル所以ナリ其他議員選舉法等ニヨリ第一審トシテ控訴院ノ特別管轄ニ屬セシメタルモノノ如キハ地方裁判所ニ干スルコトナク特別法ニヨリ獨立ノ管轄ナリトス

**第四十條** 控訴院ニ於テ訴訟法ニヨリ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル處ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ  
本條ハ控訴院ノ訴訟事件ニ付キ訴訟法ノ規定ニヨリ法廷ニ於テ審問裁判スヘキモノニ係ルトキハ民刑ノ部即チ狹義ノ裁判所ハ一人ヲ裁判長トスル五人ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成スルモノナルコトヲ規定シタルモノニシテ臨檢其他ノ

證據調等ニ付受命判事ヲ定メタルカ如キ場合ニハ訴訟法ノ規定ニ從ヒ一人ノ判事之ヲ行フコトアルヘシ然レトモ控訴院ノ事件ヲ裁判スルモノトシテ判決決定若ハ命令ヲ爲ス場合ニハ必ス五人ノ判事カ評議裁決スルニヨリテ之ヲ宣言セサルヘカラス尙ホ第三十二條ノ説明ト對照セハ一層明瞭ナルヘシ

**第四十一條** 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

前キニ説明シタルカ如ク皇族ニ對スル民事訴訟ニ付テハ第一審及第二審共控訴院ニ於テ之ヲ審案ス而シテ第一審ト第二審トハ元ヨリ異ナル部ニ於テ異ナル判事ニ依テ構成セラレタル狹義ノ裁判所カ其任ニ當ラサルヘカラス若シ第一審ト第二審トノ判事同一人ノモノアルトキハ民事訴訟法第三十二條第三十三條ノ規定ニヨリ除外及忌避ノ原因トナリ同法第四百六十八條ノ規定ニヨリ其裁判ハ再審ノ原因トナリ廢棄セラルルニ至ルヘシ本條ハ前述ノ精神ニ基キ第一審ヲ裁判スル部ト第二審ヲ裁判スルノ部トハ之ヲ異ニシテ第一審ニ於テ

ハ通常ノ如ク五人ノ判事ヲ以テ組成シ第二審ハ特ニ其審理ヲ鄭重ニスルカ爲  
七人ノ判事ヲ以テ其部ヲ構成スルモノトシ第一審第二審共其構成員ノ一人ヲ  
以テ裁判長トスルモノナルコトヲ明カニシタリ

**第四十二條** 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

本條ハ各控訴院ニ檢事局ヲ置キ一人ノ長官ヲ置キテ其ノ檢事局内ノ事務ノ分  
配及指揮監督ヲ爲シ其ノ他一切ノ檢事局内ニ於ケル行政事務ヲ總理スヘキモ  
ノト爲シ其長官ヲ檢事長ト稱ス控訴院檢事局内ノ檢事カ特別ノ許可ヲ受クル  
コトナクシテ檢事長ヲ代理スルコトヲ得ヘキハ地方裁判所檢事局ニ於ケル第  
三十三條ノ規定ト異ナル筈ナキハ勿論ナルヘシ茲ニ注意スヘキハ第三百三五  
條第七ノ規定ニヨリ檢事長ハ控訴院ノ檢事局ノミナラス其ノ控訴院管内ニア  
ル地方裁判所及區裁判所ニ付置セラレタル各檢事局ヲ監督スルモノナルコト  
之ナリ其ノ詳細ハ同條ノ説明ヲ參照スヘシ

### 第五章 大審院

**第四十三條** 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若クハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

本條以下ノ規定ハ大審院ニ關スル事務ノ分配監督及管轄竝ニ裁判ノ方式及效  
力ヲ規定シタルモノニシテ本條ハ先ツ第一項ニ於テ大審院ハ司法官廳ノ最高  
裁判所ナルコトヲ明カニシタリ其ノ本務ヨリ云ヘハ大審院ハ法律ノ適用及解  
釋ニ付上告ヲ接受シテ之レガ裁判ヲ爲スヘキ合議裁判所ナリト云フヘシ大審  
院ハ最高司法ノ官府ナルヲ以テ控訴院以下ノ裁判所ノ如ク之ヲ各地ニ分置ス  
ルコトナク只東京ニ一箇ノ大審院アルノミナリ

**第四十四條** 大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

本條ハ大審院ニ大審院長ヲ置キテ大審院内ノ一般ノ事務ヲ指揮監督シ又民刑各部ニ部長ヲ置キテ其ノ部ヲ監督シ且ツ事務ヲ分配スヘキコトヲ明カニシタルニ過キス只注意スヘキハ曾テ一言シタルカ如ク大審院長ハ最高裁判所ノ監督官ナルモ第三百三十五條第一ノ規定ニヨリ只其ノ大審院ヲ指揮監督スルノミニシテ控訴院長又ハ地方裁判所長ノ如ク管内ノ下級裁判所ヲ監督スルコトナキモノナルコト之ナリ其ノ詳細ハ同條ノ説明ヲ参照スヘシ

**第四十五條** 大審院ノ事務ノ分配并ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ら上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ第二十二條第三十六條ノ規定ニ於ケルカ如ク大審院ノ事務分配及代理ニ關スル規定ヲ爲シタルモノニテ事務ノ分配及代理ノ順序ハ大審長カ民刑各部長ト協議ノ上毎年度ノ終リニ次年度ノ分ヲ定メ置クヘキモノトス地方裁判所ハ控訴院ニ於テハ之カ協議ヲ爲スニハ部長ノミナラス其ノ上席ノ部員一人ヲモ會議ニ列セシムルモノナルモ大審院ニテハ判事多數ニ過キ且ツ何レモ老練ノ判事ノミナルヲ以テ部長ノミノ列席ヲ以テ其ノ會議ノ正當ヲ保持シ得ヘシト見做シタルニヨリ唯部長ト協議シテ之ヲ定ムヘキモノトシタル所以ナルヘシ

大審院長モ亦他ノ判事ト同シク事件ノ審理ニ列席スルコトアルヘキハ勿論ナルヲ以テ地方裁判所長又ハ控訴院長ノ如ク次年度ニ自ら其ノ審理ニ加ルヘキ部ヲ指定スヘキモノトス控訴院長又ハ地方裁判所長ハ自ら部長トナルヘキ部ヲ指定スヘキモノナルモ大審院長ノ指定スル處ハ必スシモ部長トナルノ地位ニアラス蓋シ大審院ハ最高ノ裁判所ナルニヨリ大審院ノ判事ハ何レモ官位ノ高キモノ、ミニシテ必スシモ其ノ官吏中ノ最高ノ官等ニアルモノノミカ大審

院長トナルモノニアラス從テ大審院長ノ列席セントスル部ニハ大審院長ヨリ  
官等高キ者アルナキヲ保セサルニアリ自ラ部長トナラスシテ只其ノ部ニ上席  
シテ審理ニ加ハルコトヲ指定スルニ止メタル所以ナリ

大審院ノ判事差支アリ且ツ豫メ定メタル代理ノ順序ニヨリ代理スヘキモノモ  
關ケタル場合ニシテ大審院長ハ事件ヲ中止スルヲ不適當ト認ムルトキハ其處  
在地ノ控訴院即チ東京控訴院長ニ通知シテ控訴院判事ヲ大審院ニ填補ノ爲メ  
執務セシムルモノナルコトハ第三十七條第二號ノ規定ト毫モ異ナル處ナシ尤  
モ控訴院ニハ豫備判事ノ執務スルモノナキヲ以テ大審院ニモ豫備判事ヲ以テ  
補充スル場合絶ヘテ之ナカルヘキハ言フ俟タサル處ナリ

**第四十六條** 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ  
轉セシムルコトヲ得

本條ハ前條ニヨリテ定メタル部員ノ配置ヲ大審院長カ何時ニテモ之ヲ變更シ  
一ノ部長又ハ部員ヲ他ノ部ニ轉セシメテ其事務ヲ執ラシムルコトヲ得ル旨ヲ  
規定シタルモノナリ前キニ説明シタル第二十四條ノ規定ニヨレハ地方裁判所

ノ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ判事ニ止ムナキ差支ヲ生  
シタルノ外其部員ヲ變更セサルヲ原則ト爲スモノニシテ控訴院ニ付テハ何等  
ノ規定ナキモ地方裁判所ト同一ノ原則ニ從フモノト解スヘキモノトス然ルニ  
大審院ニ於テハ審案ノ事件常ニ重大ナルモノニ係リ加之法律點ニ付キ終審ヲ  
ナスモノナルヲ以テ判事ニヨリテハ自ラ専門的ノ發達ヲ來シ居リ民事ノ法律  
ニ精通スルモノト刑事ノ法律ニ深奧ナルモノト各其ノ特長ヲ見ルニ至ルヘシ  
故ニ一タヒ配置ヲ爲シタル部ニ於テノミ裁判ヲ爲サシムルハ判事ニヨリテハ  
専門以外ノ事ニ涉リ充分其特長ヲ發揮スル能ハサルカ如キ事アルヘク事件ノ  
審理ニ付テモ終審トシテ十分嚴正ナル判決ヲ得ント欲セハ判事ノ特長ニ應シ  
適宜ニ其ノ長短ヲ補フノ途ヲ執リ審理ノ鄭重ヲ盡ササルヘカラサルハ他ノ裁  
判所ト大ニ其趣ヲ異ニスル處アルヘシ是ヲ以テ何時ニテモ一タヒ配置シタル  
判事ヲ各部ノ事務ノ都合ニ由リ其ノ變更ヲ許シタル所以ナリトス然レトモ其  
變更ノ理由其ノ當ヲ得サルカ若クハ餘リニ屢々之ヲ爲シテ却テ弊害ヲ生スル  
コトナキヲ保セサルヲ以テ大審院長ハ變更セラルヘキ部長又ハ部員ノ承諾ヲ受

クルニアラサレハ隨意ニ之ヲ爲シ得サルモノト制限シタル所以ナリ

**第四十七條** 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現

ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

本條第一項ハ前條又ハ本條第二項ノ規定ニヨリ前年度ノ終リニ豫メ定メタル  
次年度ノ組立ヲ變更シタルトキハ即チ裁判所ノ構成ヲ改ムルモノナルヲ以テ  
現ニ一ノ部ノ取扱中ニ係リ未タ其審理ヲ終ラサル事件ニ付テハ爲メニ審理ヲ  
初メヨリ更新セサル可ラサルノ不便ヲ來スコトアルハ他ノ裁判所ニ於ケル場  
合ト異ナル處ナカルヘシ之ヲ以テ第二十三條ノ規定ノ如ク大審院長ハ便宜部  
員ノ變更後ト雖モ引續キ同部員ヲシテ未決ノ事件丈ケテ終決セシムルコトヲ  
得ルモノトシタル所以ナリ

第二項ノ規定ノ精神ハ前條ノ規定ニヨリテ著シク他ノ裁判所ト異ナルヲ見ル  
ニ至リタルモ尙司法年度中一タヒ定マリタル事務分配ニ付テハ第二十四條ニ  
規定セラレタル例外ヲ除ク外其ノ年度中ニ變更セサルコトヲ原則トスルモ

ノナルコトヲ明カニシタリ

**第四十八條** 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ

其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

本條ノ規定ハ次條ノ規定ト相俟テ大審院ノ判決例ニ偉大ナル効力ヲ付シタル  
重要ノ規定ナルコトニ留意スヘシ即チ本條ノ規定ニヨレハ大審院ニ於テ上告  
事件ヲ審理シ控訴審又ハ第一審ノ裁判ニ付テ法律ノ解釋又ハ適用ノ部分ヲ或ハ  
不適法ナリトシ或ハ適切ナリトシテ大審院カ其法律點ニ付テ裁判ノ理由トシ  
テ宣言シタル意見ハ其審問ニ係ル訴訟事件ニ限り各控訴院以下ノ總テノ裁判  
所ヲ羈束ス即チ之レ等ノ裁判所カ其事件ヲ覆審スルモ必ス大審院ノ發表シタ  
ル意見ニ準據セサルヘカラサルコトヲ明カニシタリ蓋シ一事件ノ審理ニ於テ  
其法律點ニ付キ疑義ヲ生シタル場合ニ大審院ハ最高ノ裁判所トシテ其疑義ヲ  
解釋スルヲ以テ本務ト爲ス以上ハ其疑義ノ解決ニ付キ下級裁判所カ異ナル意  
見ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スモ歸スル處大審院ノ上告審ニ於テ再ヒ其異ナル意見  
カ破棄セラル、ニ至ルヘキハ當然ナリ例セハ第一審又ハ控訴審カ大審院ト異

ナル法律解釋ヲ以テ裁判ヲ爲シタルニ對シ訴訟當事者カ大審院ニ上告シタル結果大審院カ其解釋ヲ不當トシ擬律ノ錯誤ヲ以テ更ニ事實審査ヲ爲スノ要アリトシ之ヲ他ノ控訴院又ハ原審ノ控訴院ニ其事件ヲ移送又ハ差戻ヲ爲シタルトキニ移送又ハ差戻ヲ受ケタル裁判所カ大審院ノ表シタル意見ト異ナル法律解釋ヲ爲シテ其事件ヲ裁判スルモ再ヒ當事者ヨリ上告スルニ至リタル場合ニハ忽チ大審院ノ破毀スル處トナルハ明瞭ナルヘク從テ徒ニ無用ノ審理ヲ經過シテ再ヒ他ノ裁判所ニ移送セラレルニ終リ司法權活動ノ歸一ヲ見ルナキノ失態ニ陥ルハ言ヲ俟タサル處ナリ是レ即チ本條ニ於テ大審院ノ判決例ニ對シテ最高ノ羈束力ヲ與ヘタル所以ナリ

曾テ一言シタルカ如ク控訴院ニ於テモ又上告審ヲ爲スヲ以テ大審院ニ於ケルカ如ク同一訴訟事件ニ付テハ大審院ト等シキ羈束力ヲ其法律點ニ於ケル裁判ニ付與スルヲ至當トスルカ如シト雖モ控訴院ハ最高ノ裁判所ニアラサルノミナラス次條ノ規定ニヨリテ明カナルカ如ク大審院ノ如ク判決ノ模範トナリ其判例ノ變更ニ付キ鄭重ナル手續ヲ必要トスルコトナキヲ以テ控訴院ノ裁判ハ

比較的他ノ部ニ於テハ勿論同一ノ部ニ於テモ前キニ表シタル意見ヲ變更スルニ難カラサルヘク必スシモ前キノ裁判意見ヲ尊重セシムルノ程度ノモノニアラスト見做シタルニ基クモノト云フヘキナリ尙ホ次條ノ規定ノ精神ト對比セハ一層明瞭ナルニ至ルヘシ

**第四十九條** 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

本條ハ前條ニ於テ述ヘタルカ如ク大審院ニ於ケル或ル事件ノ法律點ノ裁判ハ下級裁判所ヲ羈束スルノミナラス一般ニ何レノ事件タルヲ問ハス同一點ニ於テハ法律上ノ疑義ニ付キ裁判ヲ爲シタル事項ハ總テ他ノ裁判所ノ裁判ノ標準トナルヘキモノナルコトヲ暗ニ示シタルモノニテ尙亦タ斯ル標準ヲ變更スルニ付テハ他ノ裁判ニ於ケルト異ナリ頗ル重要ニ屬スルハ勿論ナルヲ以テ其變

更ニ付キ大審院各部ノ聯合會議ヲ爲スヘキコトヲ明定シタルモノナリ蓋シ屢々述ヘタルカ如ク裁判所ノ審理權ハ獨立不羈ノモノニシテ訴訟事件ノ事實ノ判斷ニ於ケルト法律疑義ノ解決ニ於ケルトハ自由ナル意見ヲ以テ裁判スヘキモノナリト雖モ大審院ノ判決例ハ實際ニ於テハ各裁判所ノ判決ノ資料トナルノミナラス勢ヒ之ニ歸一セサルヘカラサルノ實力ヲ有スルニ至ルモノトス何トナレハ若シ大審院ノ意見ト異ナル意見ヲ以テ裁判スルトキハ當事者ノ上告ニヨリ大審院ノ爲メニ其裁判ハ常ニ破毀セラルルヲ以テナリ之ヲ以テ法律點ニ付キ一タヒ下シタル大審院ノ判決例ハ偉大ナル實力ヲ有スルモノナリト雖モ學術ノ進歩日々ニ新タナルノ今日ニ於テハ昨日ノ大審院ノ意見ハ今日ノ大審院ノ非トスル所トナルヲ保セサルヲ以テ前日ノ判決例ヲ變更スルニモ又タ充分ナル餘地ヲ置カサルヘカラス然レトモ何時ニテモ任意輕忽ニ其判例ヲ改ムルトキハ前述ノ如キ裁判ノ模範タルヘキ實力ハ甚タ薄弱ナルニ至リ常ニ訴訟ノ紛争ヲ惹起スルノ弊ヲ醸スニ至ルハ火ヲ視ルヨリモ明カナルヲ以テ本條ハ一タヒ大審院ニ於テ爲シタル法律點ニ於ケル判決例ト異ナル意見ヲ

以テ大審院ノ裁判ヲ爲サントスル場合ニハ多數決ニ依リ判例ニ反對ノ意見ヲ有スル大審院ノ部ハ部長ヨリ此旨ヲ大審院長ニ報シ大審院長ハ其報告ニ基キ大審院各部ノ聯合審理ヲ開キテ充分ナル討議ヲ命スヘキモノトス斯ル聯合審理ヲ爲スニヨリ大審院ノ總テノ部カ聯合スヘキヤ又ハ其民事ノ總部又ハ刑事ノ總部ノミ聯合審理スヘキヤヲ定ムルハ一ニ大審院長ノ見込ニ依ルモノナレトモ其區別ノ標準ハ變更セラルヘキ判決例ノ性質ニ鑑ミ其事件カ民事或ハ刑事ノ法律點ニノミ屬スルヤ又ハ民事刑事共通ノ法律點ニ關スルモノナルヤニ從フヘキモノニテ若シ民刑何レカノミニ關スルモノナルトキハ民事ノ總部又ハ刑事ノ總部ノミノ聯合會議ニ任スヘク若シ民刑何レニモ關スルモノナルトキハ双方ノ總部員即チ大審院ノ總テノ判事カ聯合シテ審理裁判スヘキモノトス如斯聯合裁判スル場合ト雖モ必スシモ前判決例ヲ變更スルモノニアラス之ヲ變更スルト變更セサルトハ一ニ其聯合會議ノ評決如何ニ依テ定マルモノナルニ留意スヘシ尙ホ茲ニ注意スヘキハ斯ル判決例ノ維持又ハ變更ハ法律點ノミニ關スルモノナルヲ以テ上告審ヲ爲ス場合ニ限リテ行ハルルモノナルコト



是ナリ蓋シ大審院ハ上告審ヲ爲スヲ本務トナスモノナルモ次條第二號ノ規定ニヨリ往々豫審其ノ他ノ事實審ヲ爲スコト有ルヘキヲ以テ斯ル事實審又ハ次條第一號(ロ)ノ抗告ニ對スル裁判ノ如キハ決シテ一般裁判ノ模範トナルコトナキニヨリ本條ノ如キ鄭重ナル審理ヲ盡スノ必要ナキコト勿論ナルヘシ

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

本條ハ大審院ノ事物ノ管轄ヲ規定シタルモノニシテ即チ終審トシテハ左ノ上告及抗告ヲ審理裁判スルモノトス終審トハ他ニ意味アルニアラス上訴ノ最後

ノ審級ヲ意味スルモノニシテ即チ判決ニ對シテハ上告ニシテ決定命令ニ對シテハ其抗告ヲ最後ニ審理スルモノニ係ル

(イ) 第三十七條第一ニヨリ地方裁判所ノ第一審判決ニ付控訴院カ控訴審ヲ爲シテ言渡シタル判決ニ對シ上告ヲ爲シタル場合及第三十八條ニヨリ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付東京控訴院カ第二審ノ判決ヲ爲シタル場合ニ此判決ニ對スル上告アルトキハ何レモ其上告ニ付キ大審院カ之カ審理判決ヲ爲スモノトス

(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對シ抗告ヲ許シタル規定アルトキニ當事者カ適法ナル抗告ヲ爲シタル場合ニハ大審院カ之ヲ覆審スルコト控訴院又ハ地方裁判所カ其下級裁判所ノ決定ニ對スル抗告ニ付覆審スルト異ナル處ナシ

以上ノ管轄權ハ大審院ノ通常ノ管轄ニ屬スルモノナルモ左ノ犯罪ニ付キテハ大審院ニ專屬シ管轄トシテ第一審第二審及上告審ヲ爲スコトナク大審院ノ一個ノ審級ヲ以テ之ヲ裁判終了スヘキ特別管轄ナリトス即チ

一、刑法第二編第一章及第二章(新刑法第二編第一章乃至第四章ニ當ル)ニ掲ケタル重罪即チ天皇三皇皇太子又ハ皇族ニ對スル危害罪ヲ犯シタルモノ内亂罪外患罪(國交罪ヲ含ム)ヲ犯シ其罪重罪ニ該ルモノニ付テハ普通ノ犯罪ノ如ク地方裁判所ノ重罪公判ニ付スルコトナク直チニ大審院ニ於テ豫審及公判ノ審理ヲ爲シテ之レカ裁判ヲ終了スルモノトス

二、皇族カ被告トナル刑事事件ニシテ其犯罪カ禁錮刑ニ該リ又ハ重罪ノ刑ニ處セラルヘキモノナルトキハ前述(一)ノ犯罪ニ同シク大審院ニ於テ之レカ豫審及公判ヲ爲シテ其刑ヲ言渡スヘキモノトス  
 何故ニ以上二種ノ犯罪ニ付キテハ大審院ノ特別管轄ト爲スヤト云フニ(一)ノ危害罪及國事犯ハ其犯人ノ何人タルヲ問ハス國家ノ秩序安寧ニ對シ最重大ナル犯罪ニ係リ(二)ノ皇族ノ犯罪ハ如何ナルモノナルヲ問ハス其犯人通常ノ人ニ係ルト同一ニ見ルヲ得サルハ勿論皇族ヲ禁錮以上ノ刑ニ處スルコトハ國體上又重大ナル事件ナリト云ハサルヘカラス而シテ之等ノ事件ハ普通ノ犯罪ニ對スルカ如ク第一審ヨリ順次上告審マテ之ヲ經由ス

ルカ如キ長日月ヲ要スル審理ノ方法ヲ執ルトキハ其事件重大ナルノ結果民心ヲ刺撃シ安寧ヲ亂スノ虞アルヲ以テ控訴院又ハ上告審ヲ全廢シ當初ヨリ上告審ヲ爲スヘキ大審院ニ於テ之カ審理裁判ヲ爲シ以テ迅速且ツ正確ニ其事件ヲ終了スルノ方法ヲ執リタルモノトス之ヲ以テ犯人ハ其判決ニ不服ナル場合ニ於テ之ヲ覆審セララル、コトナキノ不利益アルモ當初ヨリ最高裁判所ニ於テ鄭重ナル審理ヲ盡サル、ノ利益アルモノト云フヘキナリ

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニハ大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲テ控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

前條ニ說明シタルカ如ク皇室ニ對スル危害罪國事犯及皇族ノ犯罪ニ付テハ大審院カ獨リ之カ裁判權ヲ有スヘキモノナルヲ以テ大審院ノ所在地即チ東京ニ

於テノミ之カ審問裁判ヲ爲スヲ通例トスルト雖モ其犯罪地カ遠隔ノ地ナルト  
 キハ其犯罪地ニ接近スル裁判所ニ於テ之ヲ審理スルヲ至便トスル場合尠キニ  
 非サルヘシ如斯場合ニ於テハ大審院ノ合議ニヨリテ評決シタル後其係リノ判  
 事書記等ハ他ノ控訴院又ハ地方裁判所ニ出張シテ法廷ヲ開クコトヲ得ルモノ  
 トシタリ爰ニ留意スヘキハ斯ル場合ニ於テ大審院ノ開廷ノ場所カ他ノ裁判所  
 ナリト云フニ過キスシテ之レカ審理ニ當ルモノハ開廷ノ場所ノ裁判所ニアラ  
 スシテ依然大審院ナルモノトス此ノ出張裁判ヲ爲スニ當リ其構成員ヲ總テ大  
 審院ヨリ派遣スルノ甚タ不便ナル場合多カルヘキヲ以テ開廷ノ場所ニ便利ナ  
 ル控訴院ノ判事ヲ以テ其大審院ノ構成員ニ加フル事ヲ得セシム然レトモ如斯  
 加フルヘキ控訴院判事カ構成員ノ過半數即チ四人以上ナルトキハ大審院ノ開  
 キタル公判タルノ實ヲ失フニ至ルヲ以テ必ス三人以下ニアラサレハ控訴院判  
 事ヲ以テ補充スルヲ得サルモノトスル所以ナリ

**第五十二條** 大審院ノ權限并ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此法律  
 ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル處ニ依ル

本條ハ第三十條第三十九條ノ規定ト同シク大審院管轄權ノ範圍又ハ裁判權行  
 使ノ方法ニシテ本法ニ規定ナキ其他ノ部分ハ訴訟法又ハ特別法ニ規定セラレ  
 ヘキコトヲ明カニシタルニ過キス

**第五十三條** 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七  
 人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人  
 ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

本條ハ第四十條第三十二條ノ規定ト同シク訴訟法上大審院ノ法廷ニ於テ審問  
 裁判スヘキ事件ニ付テハ其ノ裁判所ノ構成員ハ七人ノ判事ニヨリ之ヲ成スモ  
 ノナルコトヲ定メ其ノ内裁判長又ハ受命受託ノ判事ヲ定ムルコトハ右ノ各條  
 文ト異ナル處ナキヲ以テ彼此其說明ヲ參照スヘシ

**第五十四條** 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分  
 ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑  
 事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院

長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

本條ハ第四十九條ノ規定ニヨリ大審院ノ判決例ヲ變更スル場合ニ於ケル聯合部ノ構成員ヲ規定シタルモノニシテ其聯合部ヲ組織スルニ付キ民事刑事ノ何レカノミニスルカ又ハ民事刑事ノ總部聯合スルカハ大審院長ノ命令ニヨリテ定マル處ナルモ其ノ命令ニ依テ一度定マリタル聯合ノ各部カ總テノ其ノ判事ヲ出席セシムルコトハ通常困難ナルコト多カルヘキヲ以テ其ノ聯合スヘキ合部ノ判事ノ總數ノ三分ノ二以上出席スルトキハ審理裁判ヲ爲スニ充分ナルモノト定メタリ而シテ聯合部ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ部長トナルヘキモノハ聯合判事中ノ官等最モ高キモノ之レニ當ルヲ通例ト爲スモ大審院長カ事件ノ輕重ニ應シ何時ニテモ自ラ此ノ聯合部ノ部長トナルコトヲ得ルモノトス

**第五十五條** 大審院長ハ第五十條ニヨリ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニハ大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ前キニ説明シタル第五十條第二號規定ニヨリ大審院カ第一審且終審ト

シテ皇室ニ對スル危害罪國事犯及皇族ノ犯罪ニ付審理裁判ヲ爲スニ當リテハ必ス是等ノ各事件ニ付特ニ大審院長カ大審院ノ判事ニ豫審ヲ命スヘキモノトシタリ元來第一審タル地方裁判所ニ於テハ第二十一條ノ規定ニ依リ司法大臣カ豫審判事ヲ命シ置キ其裁判所ノ豫審事務ヲ執ラシムルヲ例トスルモ大審院ハ前述ノ如キ特別ノ犯罪ニアラサレハ事實審ヲ爲スコトナキヲ以テ常ニ豫審判事ヲ命シ置クノ必要ナキハ勿論ナリ之ヲ以テ是等ノ犯罪起訴セラレタル場合ニ隨時大審院長カ其事件各別ニ豫審係リ判事ヲ命スヘキモノトスル所以ナリ重罪事件ニ付テハ必ス豫審ヲ經由スルコトヲ必要トスルハ刑事訴訟法ノ規定スル處ナルモ同法第六十二條第一號輕罪事件ニ付テハ事件ノ難易ニ從ヒ檢事ノ見込ニヨリ豫審ヲ求ムル者ト求メサルモノトアリ(刑事訴訟法第六十二條第二號)皇室ニ對スル危害罪及國事犯ニ付テハ其ノ重罪犯ニ限リテ大審院ノ特別管轄ト爲スヲ以テ是等ノ者ニハ必ズ豫審ヲ要スルハ勿論ナルモ皇族ノ犯罪ニ付テハ輕罪ニテモ常ニ其ノ事件重大ナルモノト見做シ必ス事件ノ各別ニ豫審判事ヲ命スルヲ必要トシタル所以ナリ如斯大審院判事ヲ以テ豫審掛ヲ爲サ

シムルヲ原則トスルモ大審院判事ハ漸次昇級シ來タルニ從ヒ第一審ノ豫審事務ノ如キハ其ノ經驗ヲ遠サカルコト甚シキニ至ルヲ以テ寧ロ他ノ熟練ナル判事ヲシテ是等ノ豫審ニ當ラシムルヲ至當トスル場合少カラサルベシ之ヲ以テ本條ハ但書ノ例外ヲ加ヘ大審院長ハ便宜ニヨリテハ大審院以外ノ各控訴院又各地方裁判所等ノ判事ヲシテ之カ豫審ニ當ラシムルヲ得ルモノトシタル所以ナリ若シ第五十一條ノ規定ニヨリ大審院以外ノ裁判所ニ於テ出張裁判スル場合ニハ殊ニ此ノ例外ノ規定ノ至便ナルヲ感スヘシ

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長竝ニ其他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

本條ハ大審院ノ檢事局ニ關スル規定ニシテ大審院檢事局ニハ檢事總長ヲ以テ之カ長タラシメ檢事總長ハ其ノ檢事局ノ事務ヲ分配指揮及管督シ且ツ其ノ他ノ檢事ハ特別ノ許可ヲ受クルコトナクシテ檢事總長ヲ代理スルノ權限ヲ有スルコトハ第三十三條ノ規定ニ於ケル地方裁判所檢事局ト毫モ異ナル處ナシ其他檢事總長ハ檢事中最高ノ監督官ニシテ至大ノ權限ヲ有スルコトハ第百三十

五條ノ說明ニ至リテ明瞭ナルヘシ

要項試問

- 第一 司法權ノ本質
- 第二 司法行政權ノ本質
- 第三 裁判所構成法ノ本質
- 第四 裁判ノ意義
- 第五 裁判所及ヒ檢事局ノ意義及ヒ其本務
- 第六 判事ノ本質及ヒ職務
- 第七 檢事ノ本質及ヒ職務
- 第八 書記ノ本質及ヒ職務
- 第九 執達吏ノ本質及ヒ職務
- 第十 裁判所間ノ權限爭議及ヒ之ニ對スル救濟方法
- 第十一 區裁判所ノ本質
- 第十二 區裁判所地方裁判所控訴院及ヒ大審院ノ事務分配方法及ヒ判事ノ代理ニ關スル法則及ヒ差異アル點ヲ說明セヨ
- 第十三 裁判所管轄ノ意義
- 第十四 區裁判所ノ專屬管轄及ヒ其理由
- 第十五 非訟事件ノ意義及ヒ之ヲ區裁判所ノ管轄ト爲シタル理由

- 第十六 區裁判所ノ刑事々件ニ於ケル管轄及ヒ之ヲ改正シタル要點及ヒ理由
- 第十七 司法大臣ハ區裁判所ノ管轄ヲ動かスヲ得ルヤ若シ得ルトセハ其理由
- 第十八 區裁判所ノ検事局ノ事務ヲ執ルヲ得ヘキ官吏ヲ列舉セヨ
- 第十九 地方裁判所ノ本質及ヒ所長ノ職務權限
- 第二十 豫審判事トハ何ソ
- 第二十一 地方裁判所ノ民刑事訴訟ニ對スル管轄及ヒ破産事件ヲ地方裁判所ノ管轄ト爲シタル理由
- 第二十二 地方裁判所支部ノ本質及ヒ權限
- 第二十三 豫審判事ノ裁判權
- 第二十四 検事總長検事長検事正ト他ノ検事トノ關係
- 第二十五 控訴院ノ本質
- 第二十六 控訴院ノ事物ノ管轄特ニ特別管轄ヲ說明セヨ
- 第二十七 皇族ニ對スル民事訴訟ヲ裁判スル方式
- 第二十八 大審院ノ本質及ヒ大審院ハ事實審ヲ爲スコトアリヤ
- 第二十九 大審院長ノ職務權限及ヒ部員ノ變更ヲ命スル方式並ニ理由
- 第三十 大審院判決ノ効力及ヒ其判決例變更ノ方式
- 第三十一 大審院ノ刑事訴訟ノ特別管轄及ヒ其理由

## 第二編 裁判所及ヒ検事局ノ官吏

前ニ説明シタルカ如ク裁判所ハ唯一ノ國家司法機關ニシテ之カ組織ハ即チ官職ト吏員トノ二ニ依リテ成ル本編ハ其吏員ノ資格職權及其職務ヲ規定シタルモノトス裁判所ノ事務ニ任スル吏員ハ本編逐次規定スルカ如ク判事、検事、裁判所書記、執達吏、廷丁ノ五トナス此以外ニ所謂裁判所吏員ナルモノナシ司法警察官ノ職ニ在ル警部巡查等ノ如キハ一ノ司法機關タルヲ失ハスト雖モ單ニ檢事ノ補助機關タルニ過キスシテ一箇ノ裁判所吏員タルモノニアラス

### 第一章 判事又ハ検事ニ任セララルルニ必要ナル準備及ヒ資格

司法機關トシテ最モ重要ナル職務ヲ有スルモノハ判事及ヒ検事ノ二トナス換言セハ此二者ハ即チ國家司法機關ノ首腦ナリ書記其他ノ吏員ニ至リテハ是等首腦タル官吏ニ附隨シテ司法事務ノ整頓ニ任スルモノナリトス是ヲ以テ判事

第二編 裁判所及ヒ検事局ノ官吏 第一章 判事又ハ検事ニ任セララルルニ必要ナル準備及ヒ資格 九七

及ヒ檢事ノ任命ニ關スル準備及ヒ資格ニツキテハ特ニ本章ヲ置キテ最モ嚴格ナル規定ヲナシ司法事務ノ威嚴ト確實トヲ充分ニ擔保シ以テ人民ノ生命財產ノ安固ヲ委托スルニ足ルノ良法官ヲ舉ケントスルノ法意ナリ

**第五十七條** 判事又ハ檢事ニ任セララルルニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

判事又ハ檢事ハ司法機關ノ首腦タルヲ以テ之ニ任セラルル資格ニ於テモ法律ハ甚タ嚴正ナル規定ヲ設ケタリ現今我國ニ於テ高等文官ニ補セラルルニ斯クノ如ク二回ノ競争試験ニ及第スルコトヲ要スルハ獨リ此判檢事ノミナリ蓋シ二回ノ競争試験トハ第一ハ學術ノ試験ニシテ第二ハ更ニ其學術ト其應用ノ力トヲ試験スルモノトス國家ノ司法事務ハ最モ國家ノ實力ヲ平時ニ現出スルモノニシテ人民ノ自由ト財產ト乃至其生命トヲ與奪制限スルノ力ヲ有ス而シテ此力ノ活動ハ實ニ是等司法官ノ判斷如何ニ依リテ行ハル是ヲ以テ判檢事ノ智識才能ニシテ社會ノ緩急ニ應スルノカナクンハ司法權ノ活動其宜シキヲ得サルハ勿論人民ノ生命自由財產ノ安固得テ期スヘカラサルナリ本條ニ於テ此規

定アルハ誠ニ其理由アルモノトス但シ第六十五條ニ規定セラレタルモノノ如キハ其品位ト學識トニ於テ一般ノ採用方法ニ從フノ煩ヲ避クルヲ得ヘキヲ以テ特ニ例外ヲ規定シタリ詳細ハ同條ニ於テ説明スヘシ

**第五十八條** 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタルモノハ第二回試験ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及ヒ檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

本條ハ即チ前條ノ補則ニシテ試験ヲ受クルニモ其素養及ヒ品格ノ陶冶ニ於テ眞ニ法官タルノ職ヲ辱ムルナカラシメ期スルニハ更ニ又嚴格ナル細則アルコトヲ必要トス現今行ハルル所ノ判事檢事登用試験規則ハ明治二十四年五月司法省令第三號ニテ發布セラレタルモノニシテ受験資格ノ規定中著シキ點ハ官立學校若クハ専門學校令ニ依ル公私立學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者又ハ司法大臣ニ於テ特ニ指定認許シタル學校ニ於テ三學

年以上ノ法律學科ヲ修メテ卒業證書ヲ有スル者ニアラサレハ如何ニ學術優秀ナル者ト雖モ第一回試験ヲ受クル能ハサルコト是ナリ本法第六十六條ニ規定セラレタル者ノ如キハ試験ニ應スルコト能ハサルハ勿論ナリトス蓋シ斯カル規定ヲ設ケタル所以ハ一ニ學識ノ點ノミニ重ヲ置クニ非スシテ其經歷素養カ公ニ監視セラレタル學校ニ於テ缺點ナク陶冶セラレタルノ實アルコトヲ必要トス換言セハ品格ノ尊敬スヘキモノアルヲ重要トシタルノ精神ナリ殊ニ人格ノ高キト學術運用ノ才能トハ第二回試験ニ於テ最モ選擇ヲ加ヘンコトヲ期シ第二項ニ於テ三年間ノ實地修習ヲ爲サシメタル後ニ始メテ本官ニ任用スルノ試験ヲ施スモノトナセリ斯カル規定モ亦他ノ高等文官ニ對シテ見サル例ニシテ泰西諸國特ニ獨逸ノ例ニ倣ヒテ規定シタルモノナリ然レトモ現今ハ法律學ノ進歩モ日々ニ駸々タルノ勢ナルト同時ニ司法官ノ交迭頻繁ニシテ補職ヲ要スルノ數ハ採用ノ人員ヨリ多キノ狀況アリ之ヲ以テ三年間ノ長キ修習ヲ爲サシムルノ暇ナキニ至リ本法施行以來數次特別法律ヲ出タシテ或年限内本條三箇年ノ修習期間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得ルモノトノ例外法ヲ定

メ現今ハ明治三十八年二月ノ法律第三十二號ニ依リ最短期一年六箇月ノ修習ヲ經タル者ニ對シ直チニ第二回試験ヲ施シテ判事檢事ニ任用スルコト、ナリ居レリ

以上ノ期間ニ於ケル修習方法等ノ細則ノ如キハ亦前掲ノ判事檢事登用試験規則中ニ掲ケラレ其要旨ハ本條ノ規定ニ從ヒテ試験ハ裁判所ト檢事局トノ二ニ於テ順次實地ノ修習ヲ爲スヘキモノト定メラル同規則第四章第十七條以下ノ規定是レナリ

**第五十九條** 司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム本條ハ前條第二項ニ依リ試補ニ任命セラレタル者ニ就キ其品性ノ涵養ニ付キ充分ナル監督ヲ遂ケンカ爲メ司法大臣ニ特ニ罷免ノ職權ヲ與ヘタルモノトス試補ノ修習ヲ監督スルハ獨リ司法大臣ノミナラス試補所屬ノ裁判所長檢事正區裁判所ノ監督判事若シクハ地方裁判所ノ部長モ其職ニ任スト雖モ之ヲ罷免スルノ權ハ一ニ司法大臣ニ屬ス蓋シ司法官試補ハ奏任ノ待遇ヲ與ヘラル、モ



ノニシテ判檢事ノ如ク懲戒處分ニ依ルニ非レハ之カ免黜ヲ爲シ能ハサルモノニ非スト雖モ之カ採用ニ於テ既ニ嚴格ナル校試ヲ經タルモノナルヲ以テ最高ノ監督者タル司法大臣ノミニ罷免ノ權ヲ與ヘタルモノトス且罷免ノ事由ニ就テモ判事檢事登用規則中ニ特ニ明確ナル規定ヲ設ケ其第二十一條第二十二條ニ於テ監督官ノ論告又ハ控訴院長檢事長ヲ經由シタル報告アルヲ必要トナシタリ惟フニ司法官ノ職ハ重大ナルカ故ニ其試補タル者ニ於テモ早ク社會ノ師表タルノ行狀ト人類活動ノ是非ヲ判別スルノ智能トヲ發揮スル事ヲ勉メサル可ラス若シ其行狀ト智能トニ於テ到底良法官タルノ素質ナキコト明カナルニ於テハ第二回試験ヲ待タスシテ罷免スルモ亦已ヲ得サル所ナリト謂フヘシ

**第六十條** 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及ヒ地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

試補ハ司法官ノ職務ヲ修習スルヲ以テ本義ト爲スト雖モ法律ノ學識ニ於テハ

既ニ嚴格ナル試験ヲ經テ任命セラレタルモノナルヲ以テ多少ノ實地修習ヲナシタル後ニ實地ニ責任アル職務ヲ執ラシムルモ患フヘキ危險ナク却テ一ニハ官廳ノ便宜ヲ得ニハ修習ノ效果ニ一層ノ歩ヲ進ムルヲ得ヘシ本條ハ即チ一年以上修習ヲ爲シタル試補ニ就キ之ガ規定ヲナシタルモノトス未タ一年ニモ滿タサル期間修習ヲ爲シタル試補ノ如キハ實務ヲ執ラシムルモ尙危險ノ虞アルモノト看做シテ斯ル實務ニ就クヲ許サス然リ而シテ重大ナル職務ニ至テハ假令一年以上修習ヲ爲シタル者ト雖モ尙充分ノ責任ヲ負ハシムル能ハサルヲ以テ本條ハ更ニ制限ヲ施シテ一年以上ノ修習者ニ對シテモ區裁判ニ於ケル司法事務又ハ豫審判事及ヒ地方裁判所ノ受命判事ニ附屬シタル場合ニ是等ノ判事ニ代ツテ補助的職務ヲ取扱フコトヲ得セシムルニ過キス而シテ是等ノ事務ニ於テモ其全般ノ事務ヲ取扱フコトヲ得サルノミナラス更ニ次條ノ制限アルコトヲ注意スルヲ要ス最モ其孰レノ事務ヲ取扱フ場合ニ於テモ區裁判所ノ監督判事地方裁判所ノ豫審判事又ハ受命判事ノ特ニ命スルアルニ非サレハ當然ニ之ヲ行フコトヲ得ルモノニ非ス

第六十一條

試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

本條ハ前述スルカ如ク試補カ實務ヲ執ル場合ニ對シテ危險ヲ豫防スル爲メ一層ノ制限ヲ加ヘタルモノトス即チ第一訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス外部ニ對シテ效力ヲ生スヘキ一切ノ裁判ヲ爲スコト能ハサラシム蓋シ裁判トハ認ノ目的タル争點ニ於ケル判決訴訟手續ニ關スル決定外部ニ對シテ拘束力ヲ有スル命令ノミヲ包含スルノ語ナリ第二凡テ争訟ノ判斷ハ證據ニ依テ成リ立チタル判事ノ心證ニテ決セラルルモノナルヲ以テ證據ノ取調ハ判斷ヲ爲ス所ノ判事自ラ之ヲ爲スニ非レハ正確ナル心證ヲ得ルノ難キハ當然ナリ之ヲ以テ證據調ハ之レヲ試補ニ取扱ハシムルコト能ハサラシム但シ其證據ノ一部例セハ證據物ノ整頓若クハ其特段ナル蒐集ノ如キハ前條第二項ノ規定ニ從ヒ豫審判事又ハ受命判事ニ代ツテ試補之ヲ取扱フモ危險ナキノミナラス却テ是等判事ノ

事務ニ便益ヲ與フルコト尠シトセサルカ故ニ本條ハ但書ヲ以テ前條第二項ノ場合ヲ本條ノ制限中ヨリ除外シタルモノトス第三登記モ亦權利得喪ニ關シ重大ノ事務ニ屬スルヲ以テ是亦試補ヲシテ取扱フコトヲ得サラシム

以上三箇ノ制限ハ如何ナル場合假令ハ正任判事ニ差支アリ若クハ緊急ニシテ遅延スヘカラサル事件ニ於ケル場合ニテモ斷シテ試補ノ之ヲ行フコトヲ禁制シタルモノトス

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

第二回試験ハ試補ノ學識品性及ヒ事務ノ練習ニ於テ本官ニ任用スルニ足ルヤ否ヤヲ校定スルモノナルヲ以テ同試験ニ及第セハ即チ判事又ハ檢事ニ任セララルノ資格ヲ有スルニ至ル本條ハ單ニ其資格アルコトヲ明言シタルノミニシテ之ヲ實際ニ任命スルト否トハ司法省ノ隨意ナルノミナラス之ニ及第シタル者ニ於テモ其任命ヲ受クルト否トノ自由アルモノトス

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ關位アルトキ之ヲ區裁判所若クハ地方裁

第二編 裁判所及ヒ檢事局ノ官吏 第一章 判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及ヒ資格 一〇五

判所ノ判事又ハ區裁判所若クハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス  
司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシ  
テ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其裁判  
所ノ檢事局ニ用ウ

本法ハ其第七十三條第七十四條第八十條ニ規定セルカ如ク判檢事ノ職ニ對シ  
充分ノ保障ヲ爲シタルヲ以テ單ニ事務ノ都合ヲ以テ之カ免官退職ヲ爲スヲ得  
ス是レヲ以テ新任者ノ進路ヲ啓ク爲メニ妄リニ舊任者ヲ免黜スルヲ得ス從テ  
第二回試験ニ及第シテ判事又ハ檢事ノ職ニ任セラレタル者ト雖モ其補職ニ至  
ツテハ所定ノ人員ニ缺位アル時ノミ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事或ハ是等  
裁判所檢事局檢事ニ填補セラルヘキモノトス故ニ無任所ノ大使公使アルカ如  
ク無職ノ判事檢事アルヘキ筈ナリト雖モ是等ノ判檢事ヲシテ何等ノ事務ヲ執  
ルコトナカラシムルハ寧ロ有害無益ニ屬スヘキヲ以テ司法大臣ヲシテ是等ノ  
者ヲ豫備判事又ハ豫備檢事ニ補セシメ以テ各裁判所若クハ檢事局ニ勤務セシ  
ム本條ニ於テ注意スヘキハ如何ナル場合ニ於テモ新任ノ判檢事ヲ初ヨリ控訴

院以上ノ判檢事トナスヲ得セシメサルコト是ナリ蓋シ控訴院以上ハ事件ノ覆  
審ヲ爲スヘキ重大ノ職務ニ係ルヲ以テナリ然リ而シテ判檢事ハ裁判所又ハ檢  
事局ニ於テノミ職務ヲ執ルヲ本義トナスト雖モ豫備ノ判檢事ハ司法大臣ノ都  
合ニ依リ之ヲシテ司法省ニ勤務セシムルコトヲ得セシム是全ク便宜上ノ特例  
ナリト謂フヘシ

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其檢事局ニ用キラレタル豫備判事  
又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常  
代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ  
之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得  
司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕  
位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タ  
スコトヲ得

本條ハ豫備判檢事ノ裁判事務ヲ執ルコトニ付キテノ規定ヲ爲シタルモノニシ  
テ元來豫備判檢事ハ其ノ名ノ如ク未タ現在ノ補職ナキモノナルヲ以テ當然ニ

裁判事務ヲ執ルコトヲ得サルヲ原則トナス然リト雖モ既ニ二回試験ヲ經テ任官セラレタル者ナレハ試補ニ對スルカ如ク全ク裁判事務ヲ執ラシムルヲ得サル者ニアラス故ニ一、正任ノ判事又ハ檢事ニ差支アリテ執務スル能ハサル時ニ、通常ノ第二百二十五條以下ニ於ケル事務等程ニ據ル代理アラサル場合ニ第三十二條ノ規定ニ依リ一ノ部ニ二人以上ノ豫備判事アルニ非サル限りハ豫備ノ判檢事ヲシテ差支ノ判檢事ヲ代理シテ裁判事務ヲ執ラシムルコトヲ得ルモノトス本條第二項ノ規定ハ差支アル場合ニ非スシテ全ク人員ニ闕位アル場合ニ此ノ法律ノ許ス限リ豫備ノ判檢事ヲシテ其闕位ヲ充タスコトヲ得セシムルノ意ヲ明ニシタルモノトス

**第六十五條** 三年以上帝國大學法科教授若クハ辯護士タル者ハ此等ニ掲ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セラルルコトヲ得本條第一項ハ第一二回試験共ニ之ヲ經ルコトナクシテ直チニ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ルノ規定ナリ蓋シ三年以上帝國大學法科ノ教授若クハ辯

護士タル者ハ其學識經歷及ヒ其人格ニ於テ試験ヲ經タル者ト當然同一ノ資格アリト認定シタルニ出テタルモノトス第二項ハ第一項ト異リ單ニ第一回試験ノミ之ヲ受クルコトナクシテ直チニ試補ニ任セラルルヲ得ルノ規定ナリ是亦試験ヲ經タル者ト同一以上ノ學識アルモノト認メタルニ因ル而シテ普通ノ試補ノ如ク更ニ第二回試験ヲ受クルヲ要スルハ勿論ナリトス現今帝國大學法科ハ法律科及ヒ政治科ノ二部門ニ分タル而シテ現ニ第一回試験ヲ省略セラレ、者ハ只法律科卒業生ノミナリ蓋シ是本法ノ精神ニシテ實際ノ取扱ニ於テモ亦然ル所ナリトス

**第六十六條** 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限リニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

本條ハ第五十七條第五十八條又ハ前條ニ依リ判事檢事ニ任セラルルコトヲ得

ル者ト雖モ其經歷ニ於テ到底社會ノ尊敬ヲ得ル能ハサル者ニ付キ其資格ヲ得ル能ハサルコトヲ定メタルモノトス即チ第一重罪ヲ犯シタル者ノ如キハ斯カ  
ル顯要ノ職ニ在ラシムルヲ得サルハ固ヨリ當然ノ事ナリト雖モ唯國事犯者ニ  
シテ現行刑法第六十三條以下刑事訴訟法第三百二十四條以下ノ規定ニ依リ復  
權シタル者ハ常人ト看做シ得ヘキヲ以テ特ニ之ヲ除外シタリ蓋シ國事犯者ノ  
如キハ常ニ政治上ノ憤激ニ出ツルモノト看做サレ他ノ破廉耻罪トハ同一視セ  
ラレサルヲ以テ國事犯者ニ限リテ斯カル仕官ノ途ヲ與ヘタルモノトス第二定  
役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者ハ定役ニ服セサル輕禁錮若クハ罰金ニ處セラ  
レタル者トハ大ニ趣ヲ異ニシ常ニ廉耻ヲ破リタルニ出ツルノ罪ニ係ルヲ以テ  
是亦法官ノ地位ニ立ツコトヲ拒絕スルモノトセリ第三身代限リノ處分ヲ受ケ  
未タ負債ノ義務ヲ全ク銷却セサル者ノ如キハ又其社會上ノ地位ニ於テ人ノ是  
非責任ノ有無ヲ判定スルノ地位ニ置ク能ハサルモノト看做スヘキヲ以テ等シ  
ク法官タルヲ得サラシム

## 第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其任官ヲ終身トス  
判事ハ即チ國家ノ裁判權ヲ執ル所ノ所謂司直ノ府ナリ是ヲ以テ裁判ヲ爲スモ  
ノハ獨リ判事ノミニシテ檢事ノ如キハ只職務上之ニ干與スルニ過キス故ニ裁  
判ノ方面ヨリイヘハ判事ハ即チ司法部ノ最要機關ニシテ直接ニ其判斷ハ社會  
ノ標準トナリ人民ノ生命身體自由及ヒ財産ノ安否休戚ハ一ニ繫リテ判事ノ判  
斷力如何ニ在リ故ニ其任命ノ資格ハ前章規定ノ如ク嚴正ナル選擇ニ基クト共  
ニ其待遇ニ於テ亦奏任以上ノモノトナシ而シテ類例ノ乏シキ終身官タルノ保  
障ヲ與ヘタリ蓋シ判事ハ其品性智識ニ於テ既ニ常人ニ非スト雖モ其ノ獨立ノ  
判斷ニ基キ直接ニ人民ニ利害ヲ與フルノ地位ニ立ツヲ以テ其立脚ノ地位最モ  
強固ナルニ非レハ充分ニ斯ノ如キ職權ヲ行使スル能ハサル場合無キニ非ルヘ  
シ帝國憲法ハ司法權ヲ以テ天皇ノ名ニ於テ裁判所ニ行ハシムヘキ獨立ノ大權  
ト爲シタリ換言スレハ司法權ニ基ク判事ノ裁斷ハ他ノ行政權又ハ立法權ノ活

動ヲモ羈束スルノ結果ヲ生シ得ヘキカアルモノタルヲ以テ判事ノ地位ヲ安固ニスルハ亦等シク憲法ノ企圖スル所ニシテ其第五十八條ハ實ニ裁判官即チ判事ノ容易ニ免職セラルルコトナキノ保障ヲ定メタリ而シテ本法ハ其意ニ從ヒ更ニ此條ニ於テ判事ハ終身其官ヲ免セラル、コトナキヲ明言シ偏ニ生活又ハ情實ノ爲メニ制肘セラルルコトナク眞ニ確固不拔ノ公正ナル判斷力ヲ實現セシメントシタルモノト謂フヘシ

**第六十八條** 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

本條ハ即チ補任ノ形式ヲ定メタルモノニシテ大審院長ハ即チ全國ノ裁判所ニ於ケル行政事務ノ總裁ヲ爲スモノニシテ其事務ノ分配監督皆大審院長ノ監視スル所ニ係ル之ヲ以テ裁判事務ニ取リテハ大審院長ハ最高ノ地位ニ在ル者ナルヲ以テ天皇親ラ之ヲ補任セラレ所謂親任ノ待遇ヲ得ルモノトス各控訴院長及ヒ大審院ノ部長ハ大審院長ニ亞ク重要ノ地位ニ在ルヲ以テ特ニ司法大臣ノ

上奏ニ因リテ勅任判事中ヨリ天皇ノ旨ヲ奉シテ之ヲ補スルモノトス其他ノ判事ノ職ハ御裁可ヲ經ルコトナク司法大臣隨意ニ之ヲ補ス茲ニ注意スヘキハ判事ナル名稱ハ一ハ官名トナリ一ハ職名トモナル何裁判所判事ト稱スルトキハ其裁判所ノ構成員タルノ職ヲ云フモノニシテ其職ニ就ク者ハ即チ判事ノ官ヲ帶ヒタル者トス官名ト職名トヲ混同セサルヲ要ス即チ任官ハ奏任以上ナルヲ以テ必ス上奏ヲ經サルヘカラサルモ大審院長控訴院長及大審院部長ヲ除ク他ノ補職ハ司法大臣ノ隨意ニ因ルモノナリ

**第六十九條** 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若クハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

控訴院判事ハ即チ事件ノ覆審ヲ爲ス所ノ職ニ在ルヲ以テ地方裁判所又ハ區裁判所ノ判事ヨリハ其學識經驗ニ於テ一層進歩シタル者ナルヲ要スルハ當然ナリ故ニ五年以上判事檢事大學法科教授又ハ辯護士ノ職ニ在リタル者ノミ之ニ補セラルルノ資格アル者ト定メタリ最モ此等ノ職ノ二以上ヲ通シテ五年以上

ニ亘レハ即チ其資格アルモノト解スヘシ

**第七十條** 十年以上判事タル者又ハ十年以上検事帝國大學法科教授若クハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

本條ハ其理由全ク前條ト同一ニシテ只大審院判事ハ更ニ控訴院判事ヨリモ重要ノ地位ナルヲ以テ其補任ノ資格モ一層嚴重ニナシタリトイフニ過キス

**第七十一條** 第六十九條及ヒ第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

前二ヶ條ノ控訴院判事又ハ大審院判事ニ補セラルル資格ノ爲メニ必要トスル年限ハ判事又ハ検事帝國大學法科教授若クハ辯護士ノ中ノ唯一ノミニ五年若クハ十年間引續キ從事シタルコトヲ必要トスルニ非スシテ其孰レノ職ニ屢轉務シタル者ニテモ其等ノ轉務期間ヲ合セテ五年又ハ十年以上ノ年限ヲ經タル者ナレハ前二ヶ條ノ資格ヲ得ルニ充分ナルモノト定メタルモノトス唯注意ス

ヘキハ判事以外ノ職ニ現ニ在ル者ハ一タヒ判事ニ轉任シタル上ニ非サレハ大審院若クハ控訴院ノ判事ニ補職セラルルナキコト是ナリ

**第七十二條** 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事

第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四 商業ヲ營ミ又ハ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事  
判事ハ前ニ述ヘタルカ如ク最モ安全鞏固ナル地位ニ立チテ不偏不黨ノ正確ナル司法裁判權ヲ行使スルノ職ニ在ル者ナルヲ以テ業務若クハ他ノ繫累ニ因リテ其意思ヲ制限セラルルハ最モ法律ノ厭フ所ナリト謂ハサルヘカラス故ニ一面判事ニ終身官タルノ保障ヲ與フルト共ニ一面ハ本條ニ於テ著シク其行爲ヲ制限シタリ第一公然政治ニ關係スルコトヲ禁制ス公然政治ニ關係スルコト能ハサルノミニシテ私ニ自己ノ政治上ノ意見ヲ陳述シ若クハ官廳ニ向ツテ建白

其他ノ政治的論議ヲ爲スハ固ヨリ本法ノ制限スル所ニ非ス唯公然政治ニ關係スル時ハ政治上ノ紛争ノ爲メニ判事ノ公正ナル判斷ニ影響ヲ及ホシ例セハ自己ノ關係スル政治上ニ就キテノ事件ニ對シ偏頗ノ裁斷ヲ爲ササルヘカラサルノ繁累ニ陥ルカ如キ虞ナキヲ保セサルヲ以テ特ニ公然之レト關係スル能ハサルコトヲ制定シタルモノトス第二政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ若クハ議員トナル時ハ多クハ公然政治ニ關係スルコトトナリ第一ノ場合ト同一ノ弊害ヲ醸出スルヲ以テ此ノ禁制アル所以ナリ唯帝國議會ノ議員トナルコトハ之ヲ禁制セス蓋シ帝國事會ニハ多少ノ支障アリトスルモ衆望ノ歸スル人材ハ之ヲ取リテ以テ國事ヲ議セシムルノ必要アルニ因リ之ヲ除外シタルモノトス第三俸給アル公務換言スレハ他ノ官吏又ハ公吏ノ職ニ就キ若クハ公證人ノ如ク俸給ナキモ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコトハ専心ニ判事ノ職務ニ從事シテ誤謬ナキ裁斷ヲ執ラシムルニ害毒ヲ生スルノ虞アルヲ以テ判事ノ是等ノ職ニ就クコトヲ嚴禁シタリ要スルニ是レ便益ノ爲メノ規定ニ非スシテ判事ノ公正ナル判決ニ妨ケヲ來スナカラシムコトヲ希望シタルノ精神ニ出ツ右ハ判事

ニ對シテノ規定ナルカ故ニ檢事ノ如キハ他ノ官吏ト同シク一般ノ服務規律ニ因リテ制限セラルルノ外別ニ本條ノ如キ禁制ヲ與ヘラレサルヲ以テ現ニ檢事ニシテ司法省ノ參事官ヲ兼ヌル者少カラス是レ檢事ハ判事ノ如ク裁判ヲナスノ職ニアラサルヲ以テナリ判事ト雖モ若シ金錢ノ利益アル職ニテモ本條ノ所謂公務ニ就ク場合ニ非ルトキ例セハ專門學ノ爲メニ教鞭ヲ執ルカ如キハ本條ノ制限スル所ニ非ス第四商業ヲ營ミ瑠珠ヲ争フハ政黨等ニ關係スルヨリモ一層偏頗ヲ來スノ虞アリ例ヘハ自己ノ商業ニ取リテ不利益ナル事情アル場合ノ如キニハ自己ノ利ヲ顧ミルコトナク正當ナル判斷ヲ下スコトハ普通ニハ甚タ難シト謂ハサルヘカラス其他一般ノ行政命令ヲ以テ禁制シタル業務ニ就ク能ハサルハ勿論ニシテ特ニ司法大臣其他上長官ノ命令ニ因リ格別ニ禁制セラレタル業務ノ如キモ亦之ニ從事スルコト能ハサルナリ例セハ司法事務ノ必要ヨリシテ私立大學ニ教鞭ヲ執ルヲ弊アリトシテ司法大臣カ之ヲ禁スルノ命令ヲ發シタル時ハ即テ第四ノ後段ノ禁制事項ニ當ルモノトス

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ



懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルルコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルルハ此ノ限ニアラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴訟ノ始若ハ其間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

次ニ説明スルカ如ク第七十四條及ヒ第七十五條ノ規定ニ從テ已ムナク退職又ハ減俸スル時ノ外ハ何人ノ力ニ依リテモ判事ノ意思ニ反シテ之ヲ他ノ官ニ轉任セシメ又ハ勤務ノ裁判所ヲ變更シ或ハ其職務ヲ停止シ若クハ免職減俸ヲ爲スコトヲ得ス但シ刑ノ宣告又ハ判事懲戒法ニ定メラレタル懲戒裁判所ニ於ケル懲戒處分ヲ以テスル時ハ判事ノ意思ニ反スルモ轉官轉所其他ノ處分ヲ爲スヲ得ヘシ然リ而シテ又轉所ニ付テハ更ニ例外ヲ認メテ判事ハ豫備判事ノ職ニアル場合ニ之レヲ補闕ノ爲メニ必要ナリトスル時ハ強イテ之レニ轉所ヲ命スルコトヲ得ヘシ蓋シ豫備判事ハ第六十三條ニ規定アルカ如ク元來闕位ヲ補フヘキ豫備ノ職務ニ在ルヲ以テナリ終リニ注意スヘキハ本條ハ判事ノ職ニ對ス

ル保障ニシテ憲法第五十八條第二項ハ判事ノ官ニ對スル保障ヲ規定シタルモノナルコト是レナリ故ニ本條ト憲法ト相待ツテ判事ノ官位職務共ニ遺憾ナク保障セラレタリト謂フヘシ

第二項規定ノ判事失職ノ事故アリテ懲戒裁判所ノ取調ヲ受ケ又ハ判事カ犯罪ノ嫌疑ニ因リ爲メニ刑事訴訟ノ始マリタル後ノ如キハ固ヨリ通常ノ場合ト其趣ヲ異ニス判事懲戒法第四十九條以下ニ規定セラレタル事由ニ基キ停職ノ結果ヲ來スコトハ當然已ムナキノ必要アルモノナルヲ以テ本法ハ之レ等ノ事由ニ因ル停職ヲモ保障スル理ナキハ固ヨリ説明ヲ要セス即チ特ニ第一項ノ適用ヲ明カニスル爲メ本項ヲ設ケタルモノトス

**第七十四條** 判事身體若クハ精神ノ衰弱ニヨリ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

判事ハ終身官ナルヲ以テ假令身體精神カ衰弱シ又ハ異狀ヲ來スコトアルモ之レカ免官ヲナスコト能ハスト雖モ斯ル場合ニ強ヘテ職務ヲ執ラシムルハ到底

不能ノコトナルヲ以テ本條ハ此ノ場合ニ唯退職ノミヲ命スルコトヲ得ル場合ヲ定メタリ退職ヲ命スルハ上奏ヲ經ルコトナク司法大臣ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ控訴院判事又ハ大審院判事ノ總會議ニテ退職セシメサルヘカラスアルコトヲ決議シタルニアラサレハ之ヲナスヲ得サルナリ控訴院以下ノ判事ニ對シテハ控訴院ノ決議ヲ要ス大審院ノ判事ニ對シテハ必ス大審院ノ總會ノ決議アルヲ必要トシタル精神ナリ尤モ任意ニ退職ノ願出ヲナシタル判事ニ對シテハ何レノ決議ヲモ要スルモノニアラス

**第七十五條** 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其判事ヲ補スヘキ關位ナキトハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

本條ハ無任所ノ判事ニ付キテノ規定ナリ新任ノ判事ヲ補スヘキ關位ナキトキハ之レヲ豫備判事ニ命スルヲ得ルト雖モ法律ヲ以テ裁判所ノ人員ヲ減シ又ハ裁判所ヲ廢シタルニ因リテ舊來ノ判事ニ餘分ヲ生シ居ルカ如キ場合ニハ更ニ豫備判事ヲ命スルノ餘地モ之ナキヲ以テ斯カル場合ニハ其判事ヲ無任所トナ

シ關位ヲ生スルマテ俸給ノ半額ヲ給シテ關位アルヲ待タシムルノ便法ヲ定メタルモノトス

本條ハ本法施行條例第二十一條ニヨリ檢事ニモ亦タ適用セラルルコトニ留意スヘシ

**第七十六條** 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル元來判事ノ官等俸給及進級ニ關スル規定ハ本章内ニ規定スルヲ以テ適當トナスト雖モ細密ニ互ルヲ以テ便宜上特ニ勅令ノ定ムル所ニ任カスルコトヲ本條ニ規定シタルモノナリ

**第七十七條** 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク凡ソ官吏ノ俸給ハ專心職務ニ従事スルカ故ニ支給スルモノナルヲ以テ判事ハ免官セラレサルモ退職シタル後ニハ既ニ職務ナキヲ以テ從テ俸給ヲ得ル能ハサルニ至ルハ當然ナリ仍テ本條ハ退職後ニハ恩給法ノ定ムル所ニ依テ恩給ヲ受ケシムルコトヲ定メタルモノトス

**第七十八條** 判事ノ俸給ハ判事ニ對シテ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ

故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス  
停職モ亦退職ト同シク一時其職務ヲ離ルルモノナルヲ以テ亦俸給ヲ受クル能ハサルニ至ル管ナリト雖モ全ク退職セシメタル者ト異リ停職事由已メハ當然復職スルモノナルヲ以テ假令停職事由ハ懲戒裁判所ニ於テ取調中ニ係リ又ハ刑事訴追ノ爲メニスル場合ト雖モ特ニ引續キ俸給ヲ給スルモノト定メタリ尤モ懲戒ノ處分又ハ刑事上ノ判決ノ爲メニ退職セシメラルルニ至ルトキハ當然俸給ヲ受クル能ハサルニ至ルヘシ

### 第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

檢事ハ自ラ裁判ヲ爲スコトナキモ所謂公益ノ代表者トシテ司法事務ノ重要ナ

ル地位ニ立ツコトハ判事ト相讓ルコトナシ故ニ其官位モ奏任以上ト爲シ官等俸給及進級ニ關スルコトハ判事ト等シク勅令ニ因テ定メラル其退職後ニ於テ恩給法ニ從テ恩給ヲ受クルノ權アルコトハ亦判事ト同一ナラサルヘカラス是即チ本條第二項ニ於テ判事ニ關スル第七十六條第七十七條ノ規定ヲ檢事ニモ適用スルモノト定メタル所以ナリ

檢事總長ハ大審院檢事局ノ長ニシテ檢事長ハ控訴院檢事局ノ首位ナリ故ニ第六十八條ノ控訴院長又ハ大審院部長ノ補職ノ規定ニ準シ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事中ヨリ是等ノ者ヲ補職スルコトトシ其他ノ檢事ハ通常ノ判事ノ如ク司法大臣隨意ニ之ヲ補スルモノトス檢事ニハ大審院長ノ如ク親任ノ待遇ヲ受クル者之ナキハ聊カ優劣ノ差アルカ如キモ蓋シ大審院長ハ司法機關最高ノ職ニ在ルモノナルモ檢事總長ハ大審院附屬ノ檢事局ノ首長タリト云フニ過キサルヲ以テ多少ノ差違ヲ其間ニ認メタルモノト謂フヘシ

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非レハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

檢事ハ判事ニ對スル憲法第五十八條ノ如ク免官ニ關スル保障ナク又本法第七十六條ノ如ク終身官トナスノ規定モ之レ無シ然レトモ檢事ノ職務ノ重大ナルコトハ必スシモ判事ニ讓ル所アルモノト謂フヲ得ス只判事ノ如ク裁判ヲ爲スノ職ニ非ルヲ以テ判事ノ如ク充分ノ保障ヲ爲スノ必要ナキモノト認タラレ唯妄ニ其意ニ反シテ免職セララルコトナキヲ本條ニ定メタリ即チ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ因リテ免職セララルノ外ハ如何ナル事由アルモ之カ免職ヲ爲スコトナキモノトス茲ニ注意スヘキハ檢事ハ判事ノ如ク其任官ヲ當然ニ終身トスルノ規定ナキヲ以テ免職セララルハ從テ檢事タルノ官モ消滅スルニ至ルモノト解スルヲ至當トス故ニ檢事ニ對シテハ第七十四條ノ如ク特ニ退職ニ關スル規定ヲ設ケサルナリ尤モ其官ヲ免セスシテ只退職ヲナサシムル事ハ必スシモ不能ノ事ニ非ス換言セハ第七十四條ノ如キ特別ノ規定ナキヲ以テ何時ニテモ司法大臣ハ事務ノ都合又ハ人員淘汰等ノ爲メ檢事ニ對シテ免官スルコトナク單ニ退職ヲ命スルコトヲ得ヘキモ本法施行法第二十一條ニヨリ第七十四條ノ規定ヲ檢事ニモ適用スルモノトシタルヲ以テ今日ニ於テハ判事ト何等ノ

差異ナキニ至レリ

**第八十一條** 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ

裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

檢事ヲ以テ原告官ト爲ス所ノ所謂彈劾主義ヲ探リタル法制ニ於テハ檢事タルト判事タルノ區別ハ嚴然トシテ存シ而シテ判事ハ獨立ナル心證ニ基ク自由ナル判斷ニ依テ事實ノ紛糾ヲ裁判スルノ職ニ在ルモノナルヲ以テ之ニ對シ何人モ制限ヲ加フル能ハサルヲ原則トナス從テ單ニ原告官タル地位ニ在ル檢事ヲシテ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ自ラ取扱ハシムルコトアルカ如キハ請求ト判斷トヲ混一シ到底公平ナル司法機關ノ活動ヲ見ル能ハサルハ言フ俟タスシテ明カナリ故ニ本條ハ如何ナル方法ヲ以テシテモ換言スレハ好意ニ由ル忠告若クハ學理ノ研究ト稱シ又ハ臨時ノ便宜ニ依ル場合ニアリテモ檢事ハ決シテ裁判事務ニ手ヲ觸ルル能ハサルコトヲ宣明シタルモノトイフヘシ

**第八十二條** 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

曾テ述ヘタルカ如ク檢事ハ外ニ對シテ互ニ相代理スルノ權限ヲ有ス換言スレ

ハ全國ノ檢事ハ一體ヲナシテ公益ヲ代表スル者ナリト雖モ其内部ノ關係ニ於テハ即チ上命下服ノ階級ヲ成スモノニテ決シテ各自ニ獨立ナル活動ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス蓋シ外部ニ對シテ一體ヲ爲スモノハ必ス其内部的組織ノ各分子ニ於テ決シテ箇々ノ特立ヲ爲スノ餘地ヲ有セサルハ自然ノ理ナリ是ヲ以テ恰モ四肢五體ハ一人體ヲ組織スルカ如ク漸次各部ノ階級ニ於テ相牽連シ大ハ小ヲ支配スルノ組織ヲ要スルハ檢事ノ職務ニ於テモ亦必然ノコトナリト謂ハサルヘカラス本條ハ即チ此上命下服ノ關係ヲ明瞭ニシ判事ノ如ク箇々ニ獨立ナル判斷ヲ爲シ得ヘキモノニ非ルコトヲ明カニシタリ此點ハ最モ檢事ト判事ト其性質ヲ異ニスル所ナルヲ以テ深ク留意スルヲ要ス

**第八十三條** 檢事總長、檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ら取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長、檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

前條ハ檢事ハ其上官ノ命令ニ從フノ義務アルコトヲ明定シタルト共ニ半面ニ

於テ上官ハ其命令權ヲ行フヲ職務トナスモノナルコトヲ示シタルモノナリ然ルニ其上官ト雖モ其官ハ即チ檢事タルヲ以テ上官タルノ職務ノ外ニ自ら檢事タル職務ヲ執ルコトノ自由ヲ有スヘキモノナルコト固ヨリ當然ナルヲ以テ本條ハ檢事ノ上官タル檢事總長、檢事長及檢事正ハ其配下ヲ監督スルノ傍ラ又自ら自己ノ管轄區域内ニ於ケル配下ノ檢事ノ職務ヲ行フコトヲモ自由ナルコトヲ明カニシタルモノトス

本條第二項ハ前述ノ各上官ハ配下ノ檢事ヲシテ相代位シテ事務ノ緩急ニ相應スルコトヲ得セシムルヲ規定シタルモノニシテ例セハ檢事正ハ地方裁判所ニ於ケル檢事ヲシテ區裁判所ノ事務ヲ執ラシメ或ハ區裁判所ノ檢事ヲシテ地方裁判所ニ一時執務スルコトヲ命スルコトヲ得セシムルカ如キ是レナリ若シ檢事長ナラハ自己管内ノ區裁判所ノ檢事ヲシテ控訴院ノ檢事ヲ兼ネシムルコトモ得ヘシ即チ檢事總長ハ大審院、檢事長ハ控訴院、檢事正ハ地方裁判所ニ在リテ各其所屬檢事局ノ管轄區域内ニ於テ彼此部下ノ檢事ヲシテ相代位セシムルヲ得ルノ便法ヲ認メタルモノト謂フヘシ

**第八十四條** 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

司法警察官ハ即チ刑事訴訟法第四十七條第二項ニ列記セラレタル警視警部長ヨリ市町村長ニ至ルマテノ者之ニ當リ同條ノ規定ニ依リ是等ノ者ハ常ニ司法警察官トシテ檢事ノ補佐トナリ其指揮ヲ受クル者ナルヲ以テ本條ハ又更ラニ刑事訴訟法ト相一致スルノ規定ヲ定メタルモノナリ即チ檢事局ノ管轄區域内ニ於ケル警察官ハ其檢事局ノ檢事ノ命令ハ勿論其檢事局ニ對スル上官ノ命令ニモ亦從ハサルヘカラサルコトヲ明カニシタリ例セハ地方裁判所ノ管轄内ニ於ケル警視警部長以下ノ警察官ハ其裁判所檢事局ニ於ケル檢事正又ハ所屬檢事ノ命令ニ從フヘキハ勿論更ラニ又其地方裁判所區域ヲ管轄スル控訴院檢事局ノ檢事長又ハ其ノ部下ノ檢事ノ命令ニモ從ハサルヘカラサルカ如キ是ナ

前二項規定ノ精神ハ元來司法警察官ト行政警察官トハ其職務ニ於テハ劃然タル區別アリト雖モ其任ニ在ル人員ハ即チ同一ナルヲ以テ孰レノ司法警察官モ皆本條第一項ノ規定ニ依リ檢事ノ命令ヲ受ケサルヘカラストスルトキハ行政警察ニ任スル者ト司法警察ニ任スル者ト相區別スルコトナク事務ノ紛亂ヲ來スノ虞アルヲ以テ豫メ各裁判所ノ管轄區域内ニ於ケル警察官中ニ主トシテ司法事務ニ任スル者ヲ豫定セシメ是等ノ者ヲシテ前項ノ命令ヲ受ケ且ツ執行セシムルノ便法ヲ定メタルモノナリ此司法主任ノ警察官ヲ定ムルニハ司法省又ハ檢事局ト内務省又ハ地方管廳ト相協議シテ便宜之ヲ爲スヘキモノトス

### 第四章 裁判所書記

**第八十五條** 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

前ニ述ヘタルカ如ク裁判所書記ハ所謂司法三職ノ一ニシテ文書ノ往復會計ノ

整理記録ノ調製ハ即チ書記ノ主タル職務ニ屬ス第八條ノ規定ニ從ヒ各裁判所ニ必ス一以上ノ書記課ヲ有シ地方裁判所以上ノ検事局ニモ亦書記課ヲ置クヲ以テ其書記課ナル一ノ分課的官廳ヲ置ク以上ハ之ヲ構成スル吏員ヲ置カサルヘカラサルハ固ヨリ當然ニシテ裁判所書記ハ即チ書記課ヲ構成スル吏員ナリトイフヘシ幾人ノ書記ヲ一書記課ニ置クヘキカハ全ク監督官ノ相應ト認メタル員數ニ依ルモノトス茲ニ注意スヘキハ検事局ニ於ケル書記課ノ書記モ裁判所ニ於ケル書記モ等シク裁判所書記ナル職名ヲ有スルコト是ナリ

區裁判所ノ各判事及合議裁判所即地方裁判所以上ノ各部ハ箇々ニ獨立ノ裁判所ヲ爲スモノニ非レトモ區裁判所ノ單獨判事又ハ合議裁判所ノ各部ノ爲メニ亦專屬ノ書記ヲ置クノ必要アルハ當然ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ是等ノ各判事又ハ各部ハ各獨立ナル裁判事務ヲ執ルヲ以テナリ事務ノ都合ニ依リ一以上ノ判事又ハ部ニ一人ノ書記ヲシテ兼任セシムルト又ハ是等ノ各判事或ハ各部ニ一人以上ノ書記ヲ置クトハ一ニ監督官ノ任意ナル事務分配ニ依ルヘモキノトス

**第八十六條** 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院又ハ大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及検事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

實際ノ例ニ依レハ多クハ孰レノ裁判所ニテモ二人以上ノ書記ヲ置カサルハナシ而シテ書記ハ検事ト同シク裁判事務ニ毫モ相關係スルコトナク全ク司法行政政ノ職務ノミヲ執ル者ナルヲ以テ其多數ノ書記ニツイテモ検事ト同シク上命下服ノ關係アルコトハ多辯ヲ要セスシテ明カナリ是ヲ以テ二人以上ノ書記カ同一書記課ニ居ル時ハ必ス其書記課ヲ統率スヘキ監督官アルヲ必要トスヘシ本條ハ即チ書記ノ監督官ヲ規定シタルモノニシテ地方裁判所ノ書記間ニ於テハ其中ノ一人ニ付キ監督書記ヲ命スヘク控訴院及大審院ノ書記ニハ書記長ナルモノヲ置クコトヲ定メタルナリ

區裁判所又ハ検事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記アルトキハ其一人ヲ監督書記トナスヘキハ亦當然ナリト謂フヘシ

書記ハ検事ノ如ク判事ニ對シテ特立ノ地位ヲ有スルモノニ非スシテ判事又ハ検事ニ附屬シテ其職務ヲ執ルモノナルヲ以テ其所屬ノ裁判所又ハ検事局ノ首長ハ書記ニ對シテモ亦各上官タルノ地位ニ立ツモノナルヲ以テ監督書記又ハ書記長ハ自由ニ自己ノ書記課ヲ支配スルコトナク是等ノ上官ノ命令ニ從テ書記課ノ事務ヲ指揮監督スヘキモノトス即チ本條第三項ハ其ノ精神ヲ明カニシタルモノト謂フヘシ本法第九十一條ノ規定ヲ參照スレハ其意益々明瞭ナルヘシ

**第八十七條** 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

本條ハ書記ノ職務ハ共通ノモノナルコトヲ規定シタルモノニシテ即チ區裁判所判事ニ關シテ前ニ説明シタル第十一條第四項ノ規定ニ於ケルト同精神ナリ

例ヘハ民事部ノ書記ハ適ニ刑事部ノ事務ヲ執リタリトスルモ其書記タルノ能力ニ於テ相異ナキヲ以テ主任ノ書記ニ非サレハ其效力ナシトイフヘキ理由毫モ存スルコトナシ然レトモ其職務ノ範圍外ニ於テ取扱ヒタル事務例セハ書記ニシテ司法警察官ノ事務ヲ執リ又ハ裁判事務ヲ執リタルトキノ如キハ如何ナル書記ト雖モ爲シ能ハサル所ナルヲ以テ其效力ヲ有スル能ハサルハ勿論ナリ更ニ又公判ニ於テ甲書記立會シタルニ公判始末書ノ署名捺印ハ乙書記タルコトアル如ク單ニ事務分配上其事甲書記ニ屬シタリトノ事實ノミナラス甲書記カ立會シテ調製シタル書類ニ乙書記カ自ラ調製シタルカ如ク署名捺印スルハ到底許スヘカラサル缺點アルモノナルヲ以テ右ノ始末書ハ其效力ヲ有スル能ハサルモノトイフヘシ此ノ意ヲ明カニスルカ爲メニ事務カ他ノ書記ニ屬シタルモノナリトノ事由ノミヲ以テハ其效力ヲ失ハサルコトヲ明言シ半面ニ於テ他ノ事由加ハルトキハ其效力ヲ失フコトアルヘキヲ暗示シタルモノトス要スルニ本條ハ豫メ事務ノ分配ヲ定ムルカ故ニ書記ノ間ニ便宜相代理スルコトヲ禁制スヘキモノニ非サルノ精神ノミヲ示シタルモノナルニ留意スヘシ



第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

本條ハ書記叙任ノ形式ヲ定メタルモノナリ普通ノ書記ハ判任ノ待遇ヲ受クルモノナレトモ其職ハ判事檢事ニ次イテ等シク重要ナル司法事務ニ任スルモノナルヲ以テ普通文官ノ判任ニ於ケルカ如ク所屬長官ニ於テ隨時之ヲ任スルコトナカラシメ次條ノ試験ヲ經タル有資格者ニ對シ司法大臣自ラ之カ任官ヲ爲シ且ツ之ヲ補職スルモノトス

書記長ハ控訴院大審院ノミニ之ヲ置キ頗ル重任タルヲ以テ其官位ヲ奏任トナシ其補職モ亦司法大臣自ラ之ヲ爲スヘキモノトシタルナリ

第八十九條 書記ニ任セララルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定

ム

本條ハ書記ノ任命ヲ爲スニ付キ必要ナル受験資格及ヒ試験並ニ修習ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ハ其試験ニ關スル諸規定ハ豫メ命令ニ依テ定メラレタル文官試験ノ規定ニ基キ其試験ヲ經ルコトヲ要スル旨ヲ定メタリ

第二項ニ於テハ受験資格ト試験及ヒ修習ニ關スル細則ハ司法大臣ノ定メタル司法省令ノ細則ニ依テ定マルモノナルコトヲ示シタルナリ茲ニ注意スヘキハ試験ノ如何ナルモノナルヤヲ定ムルハ必ス勅令ニ依ルモノナルモ其試験ノ方法ト及第後ニ於ケル修習トノ細則ハ司法省令ニ依テ定マルノ別アルコト是ナリ之ヲ以テ現今行ハルル明治二十四年五月司法省令第四號ノ裁判所書記登用試験規則ハ其第一條ニ於テ一般ノ文官試験ニ關スル勅令ニ基キテ該試験ノ行ハルコトヲ定メ第二條以下ニ於テ試験ノ細則ヲ規定セリ現今ハ受験資格ニ於テ何等ノ規定ヲ見ルコトナキモ本條ハ判檢事登用試験規則第五條第六條ニ於ケル規定ノ如ク書記ニモ亦受験資格ノ必要ナルコトヲ豫定シタルモノナリ蓋

シ書記ノ重要ナル地位ニ對シテハ特定ノ資格アル者ニ限り試験ヲ受ケシムルモノトスルノ必要ナルヲ感スルナリ然レドモ省令中ニ必要ナル資格ノ規定ナキ場合ニハ一般ノ文官トナルヲ得ル者ハ何人モ書記試験ヲ受クル資格アルモノトスルノ精神ナリト解スヘシ實地修習ノ點ニ付イテハ他ノ普通文官ノ任用ニハ其例ヲ見サル所ナレトモ書記ニ關シテハ裁判所書記登用試験規則第十條以下ニ詳細ノ規定ヲナシタリ以テ法令ハ如何ニ書記ヲ重要視スルモノナルカニ注意スルヲ要ス

**第九十條** 書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラレルコトヲ得

書記モ亦判檢事ト同シク各裁判所ノ定員アルヲ以テ闕位ナキ時ハ之ヲ採用スル能ハサルハ判檢事ト同一ナリ而シテ他ノ文官ノ如キハ闕位アルトキニ新ニ之ヲ補フモノヲ補任スルヲ得ヘキモ前條ニ規定アルカ如ク書記ハ試験及修習ヲ必要トスルモノナルヲ以テ闕位ナキニ至テ俄ニ之ヲ採用セントスルモ有資格ノ者ヲ得ルニ困難ヲ感スルニ至ルヘシ是ヲ以テ判檢事ニ於ケルト同シク有

資格者ニ對シテ豫備書記ヲ命シ以テ補職ノ用ヲ辨スル所以ナリ然レトモ豫備書記ヲシテ全ク職務ヲ執ルコトナカラシムルハ害アリテ却テ何等ノ利益ナキハ明カナルヲ以テ上官ハ豫備書記ヲシテ臨時ノ勤務ヲ執ラシムルコトヲ得ルモノト定メタリ

**第九十一條** 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

本條ハ書記ノ職務ヲ規定シタルモノニシテ書記ハ第八十六條ノ規定ニヨリ常ニ書記ノ上官即監督書記又ハ書記長ノ命令ニ從テ其事務ヲ執ルヲ通例トス裁判所ノ開廷ニ立會ヒタル場合ニ於テハ公判ノ秩序ニ關スル命令ハ一ニ裁判長(合議裁判所ナル場合)又ハ區裁判所ノ公判判事ノ職權ニ屬スルヲ以テ書記モ亦其裁判長若クハ判事ノ命令ニ從テ其ノ任務ヲ執ラサルヘカラス斯カル場合ニハ監督書記又ハ書記長ノ命令ト雖モ之ニ從フヲ要セサルモノトス若シ檢事局ニ勤務スル書記ナルトキハ常ニ檢事ノ命令ニ從フヘキハ勿論特殊ノ事務例セハ公判ノ下調又ハ捜査ニ於ケル審問ノ如キニ立會シタル書記ハ其事務ノ主任者タル判事若クハ檢事ノ命令ニ從フヘキハ勿論ナルヘシ

書類記録ノ調製又ハ口述ノ書取ニ關スルコトハ書記ノ主タル事務ニ屬シ法律ニ定マリタル固有ノ職權ニ據リテ事實ヲ有ノ儘ニ記載スヘキハ當然ノコトナルモ主任者タル判事若クハ檢事ノ感得シタルコトト書記ノ看取シタルコトト相一致セサル場合ナキヲ保セス斯カル場合ニハ前述ノ規定ニ依リテ書記ハ等シク判檢事ノ命令ニ從テ記録ノ書取調製又ハ其變更ヲ爲ササルヘカラス然レ

トモ斯カル事務ハ本來書記ノ主タル職權ニ屬スルコトナルモ唯法律ハ書記ノ反抗ヲ希望セサルカ故ニ書記ヲシテ任ケテ判檢事ノ命令ニ從ハシムルニ過キサルノ精神ナレハ尙ホ書記ヲシテ記録ノ調製又ハ變更ニ關スル判檢事ノ命令ニ對シ其命令ハ正當ナラストスルトキニ其意見ヲ調書中ニ記載シ置クノ權能ヲ有セシメタリ是レ一ハ判檢事ノ誤謬ヲ正シ私曲ヲ防止スルヲ得ルノ一助トシタルモノト謂フヘキナリ

以上述フル所ハ書記ノ主要ナル職務ヲ規定シタルニ止リ更ラニ其細則又ハ事務取扱ニ關スル方法等ハ本條ニ規定スルハ却テ煩雜ヲ來スノ虞アルニ依リ別ニ司法大臣ヲシテ其詳細ナル規則ヲ發スル權ヲ認メテ細則ヲ省令ニ委任シタルモノトス

**第九十二條** 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ置名スル旨ヲ記ス

元來試補ハ判事檢事ノ司法事務ヲ修習スルヲ以テ本務トナスト雖モ其修習ノ傍ラ書記ノ事務ヲ取扱ハシムルハ訴訟上ノ諸規則及ヒ慣例ニ通曉スルニ至大ノ便利アルモノトス本條ハ即チ此意ニ基キ試補ノ所屬ノ地方裁判所長又ハ區裁判所ノ監督判事若クハ同裁判所ノ判事(監督判事ナキ區裁判所タル場合ニ限ル法意ナリ)ハ試補ヲシテ臨時ニ書記ノ事務ヲ取扱フコトヲ命シ得ルヲ規定シタリ

書記ハ令狀又ハ調書其他ノ記録ニハ職務上判檢事ト共ニ署名捺印セサルヘカラサルハ民刑訴訟法ノ規定スル所ナルヲ以テ試補カ書記ノ事務ヲ取扱フ場合ニ於テモ等シク書記ノ地位ニ在リテ其署名捺印ヲ必要トスルハ當然ナリ然レトモ當然試補トシテ書記ノ事務ヲ取扱フモノニ非サルヲ以テ特別ノ許可ヲ得テ之カ署名捺印ヲ爲ス旨ヲ明記スヘキモノト定メタルナリ

**第九十三條** 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限りニ在ラス

第九十條ニ基キ書記ハ豫備書記ニ補セラレ而シテ臨時執務ヲ命セラレタル場

合ニ於テハ其豫備書記ハ法律上正任ノ書記ト同一ナル職權職務ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス從テ第九十一條等ニ定メラレタル職務ハ勿論書記規則中ニ定メラレタル一般書記ニ關スル規定ハ皆等シク豫備書記ニ適用セラルヘキモノトス但シ書記規則中ニ豫備書記ニハ取扱ヲ禁止シタル職務ニ係リ若クハ其取扱ニ特別ナル方式ヲ定メタルモノアルトキハ其規則ニ從フヘキハ勿論ナリト謂フヘシ

### 第五章 執達吏

**第九十四條** 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九條ニ於テ説明シタル如ク裁判執行ノ爲メ(主トシテ民事ノ執行又ハ罰金徵收ニ係ル)又ハ文書ヲ訴訟關係人ニ送達スルカ爲メ各區裁判所ニ限リテ事務ノ繁閑ニ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置クヘキコトヲ本條ニ於テ明定シタルモノトス幾人ノ執達吏ヲ置クヘキヤハ上官ノ見込ニ據テ定ムルモノトスルノ精神ナリ

第九十五條

執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得  
執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

本條ハ執達吏ノ任補ニ關スル形式ヲ定メタルモノニシテ之カ任免及補職ノ權能ハ司法大臣ニ屬スルヲ本則トナス然レトモ執達吏ノ職務ハ判檢事又ハ書記ノ如キニ比スレハ其職務甚重要ナルモノトスルニアラス從テ地方ノ事情若クハ事務ノ緩急ニ應シテ他ノ上官ヲシテ之カ任官補職ヲナサシムルヲ便宜ト爲ス場合少カラサルヘシ本條ハ即チ司法大臣ハ之カ職權ヲ特ニ控訴院長ニ委任シテ其控訴院長ノ管轄區域ノ下ニ於ケル執達吏ヲ隨時補任スルコトヲ得セシム斯クノ如ク執達吏ノ補任ヲ委任スルコトヲ得ルヲ以テ之レカ免黜ヲ爲スコトヲモ委任スルヲ得ヘキハ當然ナリト解スヘシ  
執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格並ニ試験ニ關スル規則ハ一ニ司法大臣ニ依テ定メラルヘキモノニシテ現今行ハルル所ノモノハ明治二十三年司法省令

第二號ノ執達吏登用規則ナリ同規則ニ據レハ試験ヲ受ケテ執達吏ニ任セラルルモノト特殊ノ學校ヲ卒業シ若クハ書記試験ニ及第シ或ハ判任以上ノ職務ニ在リタルカ如キ特別ノ資格ニ依テ直チニ任用セラルヘキモノトノ二アリ其任用セラルヘキ資格ニ付テハ同規則第一條ニ於テ嚴格ナル規定アリ尙ホ又其職務ノ修習ニ付テモ同規則第三條以下ニ詳細ナル規則アリ要スルニ執達吏ハ其職務高カラスト雖モ司法事務ニ於テ公正ニ其職ノ行ハルルコトヲ必要トスルハ判檢事書記ト毫モ相讓ル所ナキヲ以テ他ノ文官ニ付テハ特ニ修習ヲ必要トスルモノ少キニ拘ラス執達吏ニ付テハ六個月以上ノ事務修習ヲ爲シテ始メテ其職務ヲ營ムコトヲ得セシメタルカ如キハ注目スヘキ點ナリト謂フヘシ  
第九十六條 執達吏ハ手数料ヲ受ク其手数料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

執達吏ハ第九條ニ於テ説明シタルカ如ク公吏ニ非ラスシテ寧ロ官吏ニ屬スヘキモノナルヲ以テ其俸給ノ如キモ國庫ヨリ支辨スルヲ適當トナスモ前ニ述ヘタル如ク執達吏ニ依テ利益ヲ受クル訴訟關係人ヲシテ其費用ヲ償ハシムルニ

便宜ナル制度トシテ執達吏自ラ手数料ヲ裁判所若クハ訴訟關係人ヨリ收納スルヲ得ルモノトシタルハ即チ本條ノ規定ナリ蓋シ刑事ニ關シテハ國家カ刑罰權ヲ實行スルモノナルカ故ニ刑事ニ關スル裁判ノ執行ノ如キハ國家カ自ラ其費用ヲ負擔スルヲ本義トナスヲ至當トス從テ執達吏ハ刑事裁判ノ執行ニ付テハ後ニ説明スル第八十九條第二項ノ場合ノ外其執行ニ關スルコトナキヲ通例トナスヲ以テ主トシテ執達吏ノ職務ハ民事ノ裁判執行又ハ民事ニ關スル書類ノ送達ヲ爲スノ職務ニ在ルモノト謂フヘキナリ然リ而シテ民事ノ訴訟ハ同訴訟法ノ精神ニ據リ所謂當事者處分主義ヲ根據ト爲スヲ以テ民事ノ費用ハ國庫之ヲ負擔スルコトナク當事者ニ之カ辨償ヲ爲サシムルヲ原則トナス是レヲ以テ執達吏ノ俸給ヲ假ニ國庫ヨリ支辨スルトスルモ其負擔ハ結局當事者ニ歸スルモノト爲ササルヘカラス而シテ之ヲ國庫カ當事者ヨリ徵收シテ更ラニ執達吏ニ支給スルノ方法ニ依ルトキハ徒ラニ事務ノ煩累ヲ招クニ過キササルヲ以テ執達吏ニ關シテハ特ニ手数料制度ヲ設ケ直接ニ依頼者ヨリ費用手数料等ヲ徵收スヘキモノト定メタルモノトス

然レトモ地方ノ情況ニ依リテハ執達吏ノ職務餘リ閑ニ過キ從テ受クヘキノ手数料モ甚少量ナルコトアリテ爲メニ執達吏ノ衣食ヲ保持スル能ハサルカ如キコトアリテハ特ニ此ノ官ヲ設クルノ意ニ反スルヲ以テ一定ノ額ニ達スルマテ其手数料ヲ得ル能ハサル時ニハ國庫ヨリ執達吏ニ對シテ補助金ヲ與フルモノト定メタルナリ本法ハ單ニ一定ノ額トイフニ止メテ其額ヲ明言セサルハ社會經濟ノ變遷ニ連レテ伸縮セサルヘカラサルヲ以テ法律ノ豫定ヲ避ケタルモノトス現今執達吏規則第十九條ノ規定ニ從ヘハ一年間ニ百八十圓ニ滿タサル手数料ノ外執達吏カ之ヲ得ル能ハサル時ハ百八十圓ニ滿ツル丈ケノ不足額ヲ國庫ヨリ支給スルモノト定マリ居レリ若シ一厘ノ手数料タモ之ヲ得ル能ハサル時ハ百八十圓ノ全部ヲ支給セラルヘキノ精神タルハ謂ハスシテ明カナルヘシ

**第九十七條** 執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

本條ハ執達吏職務ノ管轄區域ヲ定メタルモノナリ執達吏ハ區裁判所ニ屬スルモノナルヲ以テ其區裁判所ノ管轄ニ於テノミ其職務ヲ執ルヲ至當トナスカ如

シト雖モ執達吏ハ裁判ノ執行殊ニ民事ノ強制執行ヲ爲シ或ハ利害關係人ニ書類ヲ送達スルノ職務ナルヲ以テ其職務ヲ執行シ得ヘキ管轄區域狹キニ失スル時ハ其用ヲ滿タシ能ハサルカ如キ場合アルヘキヲ以テ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄區域内ニ屬スルナラハ何レノ場所ニテモ職務ヲ行フヲ得ルモノト定メタルモノト云フヘシ而シテ若シ假リニ廣キ區域内ニ亘ル時ハ徒ラニ旅費日當ノ如キ訴訟費用ヲ増大ナラシムル虞アルヲ以テ地方裁判所ノ管轄區域内ノミニ限リタルハ適當ナルヘシ若シ其地方裁判所ノ管轄區域外ニ亘リテモ裁判ノ執行ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ場合ニ於テハ執行裁判所即チ區裁判所ヨリ他ノ區裁判所ニ囑托スヘキモノトス

**第九十八條** 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限りニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

本條ハ執達吏ノ職務ヲ明定シタルモノニ依リ第九條ニ於テ指定セラレタルカ如ク文書ノ送達ト裁判ノ執行トハ其要務ナルヲ以テ第一項ニ於テ先ツ裁判所ヨリ發スル文書ニシテ法律上送達ナル形式(主トシテ民事訴訟法ニ依テ規定セラル)ヲ要スルモノハ執達吏ヲシテ送達セシムルヲ本則ト爲ス旨ヲ定メタリ然レトモ遠隔ノ地ニ亘リテ裁判上ノ事務ヲ爲スヘキ場合例セハ裁判上ノ證人訊問ヲ他ノ裁判所ニ囑托スル如キ又ハ遠隔ナル土地ニ居住スル當事者ニ缺席判決言渡書ヲ達スル如キ何レモ民事訴訟法ニ依リ郵便ヲ以テ送達スルヲ得ルコトヲ定メラレアル場合ニシテ斯ノ如ク法律ノ認メタル場合ニ於テハ執達吏ヲシテ送達セシムルノ限リニアラス此ノ外ニ於テモ書記カ自ラ送達スルヲ得ル場合ニハ執達吏ニ依ラサルコトヲ得ルハ亦當然ナリト謂フヘシ民事訴訟法第百三十六條ノ規定ニ依レハ書記自ラ送達スルト又ハ郵便ニ附スルトハ常ニ書記ノ適宜ニ任スルモノト定メラル故ニ本條第一項ノ但書ハ現今ニ於テハ別段

特例トイフ程ノ規定ニ非ラス

第九十六條ヲ説明スル時ニ當リ論及シタルカ如ク刑事ノ裁判ヲ執行スルハ執達吏ニ依ラサルヲ以テ本則トナシ主トシテ檢事ノ命令ニ基キ監獄若クハ司法警察官カ之カ執行ノ任ニ當ル然レトモ罰金刑ノ執行ノ如キハ司法警察官ヲ以テスルヨリハ執達吏ヲシテ執行セシムルヲ便宜トスル場合少キニ非ルヘシ故ニ檢事ノ見込ニヨリ司法警察官ニ執行セシメサル場合ニ限リテ執達吏其執行ノ任ニ當ルコトヲ第二項ニ於テ明言シタルモノトス

以上説述スル所ノ外執達吏ノ職務權限ニ付テハ別ニ訴訟法又ハ特別法ニ依テ定メラルルコトアルハ勿論ナリ現今民事訴訟法強制執行ニ關スル規定中執達吏ノ權限ヲ定メタル條文ノ多キハ其著シキモノナリ

**第九十九條** 執達吏ハ其職務ヲ適實ニ行フ爲メ保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム  
執達吏ハ民事ノ強制執行ヲ爲シ若クハ罰金ノ徵收等ヲ委任セラレテ直接ニ財産上ノ取扱ヲ爲スコト多キヲ以テ萬一執達吏ニ於テ其職務ヲ適實ニ行ハサル

カ若クハ委託ヲ受ケタル金錢ヲ費消シテ爲メニ委任者ニ損害ヲ加フルコトナキヲ保セス斯カル場合ニ於テ之カ賠償ニ供シ且ツハ其職務ヲ確實ナラシムルノ保證トシテ保證金ヲ出サシムルコトヲ必要トシタルハ甚タ適切ナル規定ト謂フヘシ特ニ民事訴訟法第八十三條ニ據レハ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ依リ費用ヲ生シタルトキハ其費用ノ辨濟ヲ命セラルヘキコトヲ規定シアルヲ以テ斯カル命令ヲ充分ニ實行スルニハ豫メ保證金ノ如キモノヲ差出サシメ置クノ必要ナルハ謂ハスシテ明カナルハシ

本條第二項ハ執達吏ノ職務細則並ニ前述ノ保證金ニ關シテハ其細則ヲ司法大臣ノ定ムル司法省令ニ委任シタルモノトス

**第一百條** 執達吏ハ其所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

執達吏ハ常ニ裁判所書記ノ指示スル所ニ依テ書類ノ送達又ハ裁判ノ執行ヲ爲スモノナルモ裁判所書記ニ附屬シテ其監督ヲ受クルモノニ非ス然レトモ裁判



所書記ハ上官ノ命ニ從テ適當ニ執達吏ノ事務ヲ指示スルモノナルヲ以テ上官ノ命ニ基ク書記ノ指圖ハ執達吏之ヲ遵奉セサルヘカラス本條ハ即チ執達吏ニ對スル命令者ヲ規定シタルモノニシテ區裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記又ハ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ニ基ク書記ノ指圖ニ從テ執達吏其職務ニ任スヘク而シテ其書記ノ上官ノ命令モ亦直接ニ執達吏ニ於テ服從セサルヘカラサルコトヲ規定シタルモノナリ本條ニ於テ所謂裁判所ノ上官トハ區裁判所ノ單獨判事又ハ地方裁判所ノ所長若クハ部長タル判事ヲ謂フモノトス

## 第六章 廷丁

第一百條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

廷丁ハ毫モ司法事務ニ關與スルモノニ非スト雖モ司法事務ヲ取扱フニ付附隨シテ種々ノ雜事ヲ取扱フ所ノ雇員ナリ故ニ廷丁ハ純然タル小使ニ非ス又司法

上ノ吏員ニモ非ス換言スレハ官吏タルノ資格ナクシテ司法事務ノ手足ヲ爲スモノト謂フヘシ故ニ現今廷丁ノ主タル職務ハ公判廷若クハ檢事廷ニ於テ訴訟當事者若クハ辯護士等ヲ呼ビ込ミ又ハ傍聽人ノ監視ヲナシ若クハ訴訟書類ヲ傳達スルノ職ニ任スルノ例ナリ斯ノ如ク廷丁ノ職務ハ重要ノモノニ非サルヲ以テ書記執達吏以上ノ裁判所吏員ト異リ司法大臣ノ任命ヲ必要トスルニ非サルヲ以テ大審院ニ於テハ大審院長控訴院ニ於テハ控訴院長地方裁判所又ハ區裁判所ニ於テハ地方裁判所所長ハ隨時其ノ裁判所ノ必要ニ應シ之ヲ雇用シ若クハ之ヲ解雇スルヲ得ルモノトセリ茲ニ注意スヘキハ區裁判所ニ於ケル廷丁ハ區裁判所ノ判事自ラ廷丁ヲ雇ヒ又ハ其雇ヲ解クモノニ非スシテ地方裁判所所長カ自ラ區裁判所ノ廷丁ニ付テ是等ノ事ヲ爲スモノタルコト是ナリ蓋シ區裁判所ニ在ツテハ多クハ唯一人ノ判事ノミナルヲ以テ其雇備若クハ解雇ニ付他ノ耳目ニ憚ル所ナク安リニ之カ雇用又ハ解雇ヲナスノ弊害ヲ來スノ虞アルヲ慮リ之ヲ管轄スル地方裁判所ノ所長ヲシテ是等ノ權ヲ行ハシムルヲ至當トナシタルモノトス

第二百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定

メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用キルコト能ハサルトキハ其裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用キルコトヲ得

廷丁ハ開廷ニ出頭シテ公廷ニ於ケル種々ノ雜事ニ服スルヲ以テ其本務ト爲ス而シテ其雜事ニ當ルニモ如何ナル取扱ヲナスヘキヤハ司法大臣ノ定メタル一般規則中ニ之ヲ規定スルコトトシ本法ハ別ニ之カ詳細ヲ規定セサル者ナリ第二項ハ第一項ノ本務ノ外特殊ノ場合ニ廷丁ヲシテ書類ノ送達ヲナサシムルコトヲ得ルコトヲ定メタル者ニシテ即チ區裁判所ノ執達吏ハ病氣若クハ他ノ事務ノ爲メ書類ヲ送達スルノ任ニ就ク能ハサル場合ニ廷丁ヲ用キテ臨時其用ヲ充タサシムルヲ得セシメタルモノナリ唯斯カル便宜法ヲ用キルヲ得ルハ區裁判所ニ限ルモノニシテ地方裁判所以上ノ裁判所ニ在リテハ廷丁ヲ以テ書類ノ送達吏ニ代用スルコトヲ得サルモノトス其理由ハ地方裁判所以上ノ事件ハ比較的重大ナルモノニ係リ且ツ地方裁判所ノ管内ニハ必ス二人以上ノ執達吏ア

ルヘキヲ以テ區裁判所ノ管内ニ於ケルカ如ク執達吏ヲ用キル能ハサルカ如キ場合ハ僅少ナリトスルヲ得ヘキヲ以テナリ

要項試門

- 第一 司法官試補ノ職務及權限ヲ論スヘシ
- 第二 豫備判檢事ノ性質及ヒ其權限ヲ論スヘシ
- 第三 判事補職ノ形式ヲ論セヨ
- 第四 判事ノ在職中禁制セラレタル事項ヲ擧ケテ其理由ヲ説明スヘシ
- 第五 判事ハ終身官タリトノ意義ヲ説明スヘシ
- 第六 檢事ハ裁判事務ヲ執ルコトアリヤ
- 第七 檢事相代理スルノ法則ヲ説明スヘシ
- 第八 檢事ト司法警察官トノ關係ヲ説明セヨ
- 第九 書記課ノ職務及ヒ其監督ヲ論セヨ
- 第十 書記ノ職務共通ナルノ原則ヲ説明スヘシ
- 第十一 豫備書記ノ性質ヲ論セヨ
- 第十二 書記カ記録調製ニ關スル權限ヲ説明スヘシ
- 第十三 執達吏ノ手数料ニ關スル法則ヲ詳説セヨ
- 第十四 廷丁ノ職務ヲ説明セヨ

### 第三編 司法事務ノ取扱

本編ハ本法中最モ重要ナル規定ニ係ル即チ司法裁判權ノ一般活動ノ形式ヲ本編ニ於テ逐次規定シタルモノニシテ甚タ重要ナル點ナリ蓋シ司法ノ大權ヲ實地ニ施行シ人民ノ權利責任ヲ明確ニシ種々ノ紛争ヲ裁斷シテ能ク國家司法權ノ威嚴ト信頼トヲ充分ナラシムルハ一ニ本編規定ノ趣旨及適用ノ良否如何ニ依テ定マル所ナルヲ以テ此規定ノ精神ニ深ク鑑ミ之レヲ實地ニ誤ルナカラシムコトヲ希圖スヘキハ職ノ大小ヲ問ハス等シク望マサルヘカラサル所ナリト謂フヘシ本編第一章ニハ公判ノ開廷ニ關シ其公平ト秩序トヲ維持スルニ付必要ナル規定ヲナシ第二章ニ於テハ裁判所ノ用語ニ付口頭審理ニ行ハルヘキ法則ヲ規定シ第三章ニ於テハ裁判所評議ノ方法及ヒ裁判言渡シノ形式ヲ定メ第四章ハ裁判所及檢事局ノ事務章程ニ關スル原則ヲ認メ更ニ第五章ニ於テ司法年度及休暇第六章ニ於テハ裁判所若クハ檢事局間ニ於ケル共助ノ方法ヲ規定シ何レモ裁判事務ノ活動ニ關スル事項タルモノトス以下章ヲ逐ウテ順次其要領

ヲ講説スヘシ

## 第一章 開廷

第三百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

帝國憲法第五十九條ニ於テ裁判ノ對審判決ハ特別ノ例外ヲ除クノ外必ス之ヲ公開スルノ原則ヲ認メタリ本條ニ於ケル開廷トハ即チ此ノ原則ニ基キ公判ヲ公開スルコトヲ謂フナリ本條第一項ハ公判ヲ開廷スル場所ハ裁判所又ハ其支部ニ於テ之ヲ爲スモノタルヲ原則トシタリ蓋シ開廷ニ關シテハ巡回裁判所ノ制度ヲ採ルモノト特定裁判所ノ制度ヲ採ルモノト二アリ英米ニ於テハ現今特定裁判所ノ制度ノ外尙ホ巡回裁判所ノ制度ヲ認ム巡回裁判所トハ一定ノ場所ニ於テノミ開廷スルニ非スシテ裁判所構成員即チ判事檢事及書記ハ順次各地ニ巡歴シテ豫メ定メタル便宜ノ場所ニ於テ開廷シ廻ルノ制度ナリ我國ニ於テ

ハ全ク斯カル巡回裁判所ノ制度ヲ認ムルコトナク東京裁判所又ハ大阪裁判所トイフカ如ク裁判所又ハ其支部ナル官廳ヲ特定ノ場所ニ置キ其裁判所又ハ支部ニ於テノ外ハ開廷スルコトナキヲ定メタルナリ

然レトモ區裁判所ノ如キ比較的簡易ナル事件殊ニ戸籍其他人事ニ關スル裁判事務ヲ取扱フモノハ事宜ニ因リテハ豫メ場所ヲ一定シ事件ヲ處理スルニ便宜ナル所ニ於テ公判ヲ開キ以テ事件ヲ審理スルヲ必要トスル場合ナキニ非サルヘシ斯カル場合ニ於テハ司法大臣ハ必要ナリト認メタル時ニ於テハ既ニ特定ノ場所ニ在ル區裁判所ヲシテ其管轄區域内ノ他ノ場所ニ於テ豫メ開廷ノ場所ヲ一定シタル上其場所ニテ職務ヲ行フヲ得セシムルモノトス是レ全ク特定裁判所ノ制度ヲ採リタル原則ノ例外ニシテ實際ニ於テモ稀ニ見ル所ノ特別規定ナリトス

**第四百條** 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判

長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

本條ハ訴訟ヲ審問スル上ニ於テ審問ノ指揮ヲ爲ス所ノ主任者ヲ定メタルモノニシテ即チ合議裁判所換言セハ地方裁判所以上ニ於テハ裁判長ニナリタル判事ハ其認廷ノ一切ノ秩序ヲ維持シ審問ヲ爲シ訴訟關係者ヲ出入セシムルノ職權ヲ有スルモノトス地方裁判所以上ノ合議裁判所ニ於テハ其列席スル所ノ判事中官等ノ最モ上席ニ在ル者カ裁判長ト爲ルヲ通例ト爲スト雖モ部ヲ分チタル裁判所ニ於テ其部ノ所屬員ノ中差支等ノ爲メ缺席スル者アリテ其部ノ人員ヲ補填スル爲メ他ノ部ヨリ其部ニ出席シタル者アルトキハ假令其補員ハ其部ノ部員ヨリ官等高キトキト雖モ其本來ノ部員カ裁判長ト爲リ而シテ其補員ニ來リタル官等高キ判事ハ却テ陪席トナルノ例ナリトス斯カル場合ニ於テ認廷以外ニ於テハ右ノ官等高キ陪席ハ上席ト謂ハルハヲ得ヘキモ認廷内ニ於テ官等低キ裁判長ハ認廷内ノ上席トナリテ一切ヲ指揮スルモノトス是ヲ以テ本條ニ於テ特ニ裁判長ハ必ス訴訟審問ノ上ニ於テ上席タルコトヲ明言シタルニ留意スヘシ區裁判所ニ在テハ判事ハ單獨ナルヲ以テ其單獨判事カ認廷ノ指揮官タルハ多辯ヲ要セスシテ明カナリ

以上ハ公判廷ニ於ケル通常ノ規定ナルモ合議裁判所ト雖モ裁判所ヲ一人ノ判事ニテ執務スル場合少カラス例セハ重罪事件ノ爲メニ合議裁判所ノ主任判事カ單獨ニテ公判ノ下調ヲ爲スカ如キ場合若クハ證據調等ニ於ケル受命判事カ執務スル場合ノ如キ是ナリ斯カル場合ニ於テハ其等ノ執務ヲ爲ス訟廷ニ於テハ是等ノ判事ハ裁判長ト同一ナル指揮權ヲ有スルモノトス

民刑訴訟法ノ規定ニ據レハ陪席判事又ハ檢事ハ自ラ問ヲ發シテ訊問スルヲ得ルト雖モ斯カル場合ニ於テモ訊問前ニ裁判長ニ對シテ其旨ヲ申述セサルヘカラス殊ニ辯護士ノ如キハ自ラ被告人ニ對シテ問ヲ發スルノ權ヲ有スルコトナク必ス裁判長ニ問ヲ發セラレンコトヲ申請セサルヘカラス是等ノ規定ノ詳細ハ民刑訴訟法ノ公判ニ關スル規定ニ於テ明カナルモ其根本ハ主トシテ本條ノ精神ニ出ツルモノタルニ留意スヘシ

**第二百五條** 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

帝國憲法第五十九條ニ據レハ公判ニ於ケル總テノ對審判決ハ公開スルヲ以テ原則ト爲スト雖モ者例外トシテ事件ノ性質ニ因リ公判ヲ閉廷シテ何人ニモ傍聽ヲ許スカ如キコトアリテハ却テ安寧秩序ヲ害シ若クハ善良ノ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ノ規定ニ據リ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ停ムルヲ得ルコトヲ定メラレタリ本條ハ即チ其憲法ノ認メタル例外ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ換言セハ公開ヲ停ムルニハ必ス本條ノ規定ニ據リ裁判所ノ決議ヲ經ヘキモノナルコトヲ明定シタルモノナリ即チ裁判所ニ於テ政事上ニ關スル犯罪ノ如キモノニテ之ヲ公開シテ種々ノ隱密ナル事ヲ公衆ニ曝露スルカ如キハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルヲ得ヘク若クハ姦淫ニ關スル犯罪事實ノ審問ノ如キ之ヲ一般ニ傍聽セシムル時ハ善良ノ風俗ヲ害スルノ虞アリトシテ亦公開ヲ停ムルヲ得ヘキヲ以テ斯カル場合ニハ其理由ヲ宣言シテ以テ公開ヲ停メ傍聽席ニ居ル公衆ヲ退カシムルモノトス其宣言即チ言渡スヘキ理由ハ必スシモ詳細ナル事項ニマテ亘ルヲ必要トセス單ニ安寧秩序ニ害アリ若クハ善良ノ風俗ニ害アルニ因ルト言渡セハ以テ充分トナスノ精神ナリ本條ニ所謂裁判

所ニ於テ決議スルトハ裁判所ナル全體ノ吏員ニ於テ決議スルノ謂ニ非スシテ事件ノ審判ヲ爲ス所ノ裁判長及ヒ陪席判事ノミニ依テ決議スルノ精神ナリ即チ爰ニ所謂裁判所トハ地方裁判所或ハ控訴院ト謂フノ意ニ非スシテ事件ヲ審判スル所ノ係判事ノ組織ニ依ル狹義ノ裁判所ヲ謂フナリ故ニ區裁判所ニ在リテハ單獨ノ判事ノミニテ一ノ裁判所ヲ構成スルモノナルヲ以テ區裁判所ニ於テ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲ストキハ即チ單獨判事一人ノ意思ニ依テ決定セラ

ルヘキモノナリ  
斯ノ如ク公開ヲ停ムル時ハ當然事實ノ審問證據調又ハ法律上ノ辯論ニ亘リテ何レモ公衆ニ傍聽セシムルコトナキノ效果ヲ來スモノナリト雖モ裁判所ハ其何レノ場合ニ於テモ最早公開ヲ停ムルノ必要ナシト認メタル時ハ何時ニテモ公衆ヲ入廷セシムルヲ得ヘシ然リ而シテ辯論終了ニ至ルマテ公開ヲ停ムルノ決議ヲ取消サ、ル時ハ全ク傍聽者ナクシテ審問ノ終了ヲ見ルヘシト雖モ其審理ニ基ク判決ノ言渡ハ如何ナル事由アルモ必ス公開シタル訟廷ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス蓋シ事實ノ審理ハ風俗若クハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アルコト

アルヘキモ其判決ノ言渡ニ付テハ國家ハ必ス公ニ宣言セサルヘカラサル性質ノモノニ屬シ之ヲ秘密ニ附シ去ルヲ得サルヲ以テナリ

**第六六條** 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムル權ヲ有ス

本條ハ公開ヲ停メタル公判廷ニ於テモ特殊ノ理由アル者ニ限り裁判長ノ見込ヲ以テ入廷セシメ得ルノ職權ヲ認メタルモノナリ前條ニ於テ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルカ故ニ其審問ノ訟廷ニ立入ルコトヲ許サ、ルハ只公衆ニ對スルノミニシテ訴訟關係人例ヘハ原被告ハ勿論之カ辯護人訴訟代理人又ハ補佐人若クハ必要アル證人參考人鑑定人ノ如キハ之ヲ退廷セシムルコトナカルヘキハ勿論ナリトイフヘシ而シテ本條ニ於テ特ニ入廷セシムル者ハ是等ノ訴訟關係人ニ非サル他ノ者例セハ司法官試補ノ如キ者ニ對シテハ其修習上入廷ノ特許ヲ與フルヲ至當トスル場合少キニ非サルヘキヲ以テ裁判長ハ特ニ斯カル者ヲ入廷セシムルノ職權ヲ有スルコトヲ定メタルモノナリ此ノ職權ハ獨リ裁判長ニ專屬スルモノニシテ其ノ陪席判事又ハ檢事ノ如キハ斯カル特許ヲ與フ

ルノ權ヲ有セサルハ言フ俟タサル所ナリ然レトモ裁判長ハ陪席判事ニ協議シ  
裁判所ノ決議ヲ以テ入廷ノ特許ヲ與フルモ固ヨリ差支ナキコトナルヘシ

**第一百七條** 裁判所ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ着セサル者ヲ法廷ヨリ退カシ  
ムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

本條ハ裁判長カ法廷ノ秩序ヲ維持シ併セテ其威嚴ヲ保持スルニ必要ナル職權  
ヲ行使スルコトヲ認メタルモノニシテ第百條ノ場合ハ一般ノ傍聽禁止ニ係ル  
モ本條ハ特殊ノ人ニ對スル傍聽禁止ノ場合ナリ婦女小兒ノ如キハ成年ノ男子  
ト異リ感情ヲ抑制シ難ク喧噪スル場合多キノミナラス智識ノ程度ニ於テモ公  
平ノ維持ニ資スルコト比較的少キヲ以テ裁判長ノ獨斷ヲ以テ隨時之ヲ法廷ヨ  
リ退カシムルコトヲ得ルモノトス相當ナル衣服ヲ着セサル者ハ男女長幼ヲ問  
ハス法廷ノ威嚴ヲ害スルモノトシテ裁判長ニ同様ノ職權ヲ認メタリ斯ノ如ク  
裁判長ノ獨斷ノ職權ヲ認ムト雖モ時ニ專恣ノ裁斷ナキヲ保セサルノミナラス  
其退廷セシムルノ理由明確ナラサルトキハ後日ノ紛争ヲ醸スノ虞ナキニ非サ  
ルヲ以テ其退廷セシメタル理由ハ之ヲ公ニ宣言スルノ必要ナキモ特ニ之ヲ訴

認記録ニ記入シテ後日ノ證トスル所以ナリ

其他法廷ノ秩序ヲ害スル者ノ制裁ニ付キ廣ク第百九條ノ規定アルコトニ留意  
シ置クヘシ

**第一百八條** 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス  
前數條ノ規定ハ何レモ裁判長ノ秩序維持ニ關スル職權ヲ認メタルモノナルモ  
本條ハ特ニ一般ノ原則トシテ公判開廷中ニ於ケル秩序ノ維持權ハ獨リ裁判長  
ニ專屬スルモノナルコトヲ明言シタルモノナリ前ニ解説シタル第百四條ノ規  
定ハ審問上ノ指撰權ヲ認メタルモノニシテ第百七條ノ規定ハ開廷中ニ適用ス  
ルヲ得ルハ勿論ナルモ開廷前ニ於テモ尙ホ之レカ適用ヲ見ルコトアルヘシ本  
條ハ右ノ外一般ニ開廷後閉廷前ノ秩序維持權ヲ概括的ニ規定シタルモノナリ  
此ノ職權ハ受命判事又ハ受託判事又ハ區裁判所ノ單獨判事ニ當然適用セラ  
ルヘキモノタルコトニ留意スヘシ

**第一百九條** 裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法定ヨリ退カ  
シムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ拘引シ閉廷ノトキマテ之ヲ拘留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スル權ヲ有ス閉廷ノ時裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若クハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若クハ重罪ニ該ルヘキ者ナル時ハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ハ前條ノ秩序維持權ニ付テノ強制方法ヲ認メタルモノニシテ殊ニ重要ナルノ規定ナリト謂フヘシ第一項ハ傍聽者ニシテ當事者又ハ證人鑑定人ニ對シ裁判長カ審問ヲ爲スニ當リ其審問ヲ妨害スル者又ハ審問ヲ妨害セサルモ不當ノ行狀ヲ爲スモノニ對シ裁判長ハ退廷ヲ命シ得ルコトヲ認メタルモノニシテ茲ニ不當ノ行狀トハ法廷ノ秩序ヲ害スル者ハ勿論全ク裁判所ノ威嚴ヲ損スル言語舉動ヲ爲ス者ヲ謂フモノニテ是等ノ行爲アル者ニ對シテハ其故意ニ出ツルト過失ニ出ツルト若クハ無意識ニ出ツルトヲ問ハス凡テ客觀的ニ其ノ害ヲ生スル時ニ裁判長カ此ノ職權ヲ行使スルヲ得ルモノトス

第二項ノ規定ニ據レハ前述ノ如ク審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者アル時ニ違犯者カ退廷ヲ命セラレタルニ抵抗シ又ハ其違犯ノ行爲ハ當該官吏ヲ侮辱シ若シクハ文書ヲ毀棄スルカ如キ刑法上ノ犯罪ニ該ル者ハ勿論一タヒ退廷セシムルモ復廷外ニ於テ喧噪ヲ爲シ審問ニ害アルノ虞アル者ノ如キニ對シテハ裁判長ハ是等ノ者ニ對シ管ニ退廷セシムルノミナラス閉廷ノ時ニマテ之ヲ檻倉ニ拘留シ若クハ容易ニ退廷セサル者ニ對シテ公力ヲ以テ拘引スルコトヲ命令スルヲ得ヘキモノトス斯ノ如ク拘引シ若クハ拘留スルハ原則トシテ法廷ノ秩序ヲ維持スルニ在ルヲ以テ閉廷シタル後マテモ之カ拘引若クハ拘留ヲ持續スル能ハサルハ自然ノ理ナルヲ以テ裁判所ハ閉廷ノ後之ヲ釋放スルヲ原則トナス唯違犯者ノ行爲カ單ニ釋放スルニ因テ満足スヘキニ非スシテ更ニ之ヲ懲戒スルニ値スルトキハ其違犯者ニ對シ五圓以下ノ罰金又ハ五日以内ノ拘留ヲ處スルコトヲ宣告スルコトヲ得ヘシ茲ニ留意スヘキハ之ヲ釋放スルヤ否ヤ若クハ右ノ刑罰ヲ加フヘキヤ否ヤヲ決スルハ裁判長ノ獨斷ニ出ツルモノニ非スシテ裁判所即地方裁判以上ニテハ裁判長及ヒ陪席判事ノ總會議ニ依リ之ヲ評



決シ區裁判所ニ在テハ其開廷シタル判事ニ依テ判定セラルヘキコト是ナリ蓋シ拘引拘留ハ秩序ヲ維持スルノ職權アル裁判長ニ依テ決スルヲ以テ足レリトスルモ其違犯者ヲ本條ニ據リテ釋放スヘキヤ處罰スヘキヤ又ハ次項後段ノ規定ニ據リ刑事訴追ヲ爲スヘキ犯罪アルヤ否ヤヲ決スル如キハ法定ノ秩序ヲ維持スル事項ニ非シテ刑ノ宣告ヲ與フルニ關スル事項ナルヲ以テ裁判長ノ專斷ニ依ルコトナク裁判所ノ評決ヲ要スルモノトスルヲ至當トシタル所以ナリ

前述ノ規定ニ依リ五圓以下ノ罰金若クハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトハ裁判所ノ當然ノ職權ニ屬セシムルノ意ナルヲ以テ檢事ノ起訴ナクシテ裁判所カ直チニ此等ノ刑ヲ違犯者ニ對シテ宣告スルヲ得ヘキモノトス蓋シ前述ノ處罰ハ國家ノ刑罰權ヲ行使スルモノト謂ハンヨリハ寧ロ法廷内ニ於ケル秩序ノ維持權ヲ強行スルノ意ニ外ナラサルヲ以テ通常ノ刑罰ノ宣告ニ對スルカ如ク公訴ノ提起ニ基クヲ必要トセサル所以ナリ且ツ是等ノ不法行爲ハ裁判所ノ公判廷内ニ於テ判事ノ目前ノ舉動ニ係ルヲ以テ之カ事實ノ有無及狀況ヲ判定スルニ

付テハ決シテ過誤ヲ生スルノ虞ナキヲ以テ第三項ニ於テ前項ノ處罰ニ對シテハ事實點ノ覆審ヲモ爲スヘキ控訴ヲ全然許サ、ルモノト定メタリ然レトモ事實ハ明確ナルモノニテモ其法律ノ適用ニ付テハ目前ニ見聞シタル判事ト雖モ過誤其他ニ依リ違法ナル宣告ヲ爲スコトナキヲ保セサルヲ以テ法律點ヲ覆審スヘキ上告ハ之ヲ阻止セサルヲ以テ適當トナシ之ヲ許スヘキモノト定メタル所以ナリ若夫レ前述シタルカ如ク不當ノ行狀ハ誹毀罪若クハ官文書毀棄罪ノ如キ刑法上ノ重輕罪ヲ構成スルモノナルトキハ固ヨリ前項規定ノ如キ罰金若クハ拘留ノミヲ以テ處斷スルヲ得サルハ言ヲ俟タサル所ナルカ故ニ之ニ對シテ更ニ裁判所ハ刑事訴追ノ手續ヲ爲スコトヲ得ル所以ナリ唯留意スヘキハ此ノ刑事訴追ヲ爲スハ裁判所ノ名ヲ以テ爲スヘキモノナルヤ又ハ檢事ニ對シテ公訴ヲ提起スルコトヲ要求スルニ止ルモノナルヤハ文字上疑ノ存スルヲ免レスト雖モ刑事訴訟法第九十五條ニ於ケルカ如ク明カニ裁判所ノ職權ニ據テ刑事ノ手續ヲ開始スルコトヲ定メタルニ非ル場合ニ於テハ一般ノ原則ニ例外ヲナスコトナク刑事々件ニ於テハ等シク檢事ノ起訴ヲ必要トスルモノト解ス

ルヲ穩當トナス是レヲ以テ本條ノ精神モ亦タ未タ例外ヲ認メタルモノト解スル能ハサルヲ以テ一般ノ法理ニ基キ裁判所ハ檢事ニ對シテ公訴ヲ提起スルコトヲ要求スルヲ得ルニ止メタルモノトス

本條ニ於ケル公判ノ秩序ノ爲ニスル制裁ハ傍聽人ニ對スルト辯護人補佐人乃至看守又ハ巡查ノ如キニ對スルトヲ問ハス等シク行ハルルモノニシテ唯當事者證人及鑑定人ハ直接ニ訴訟審理ノ主體又ハ客體タル者ナルヲ以テ他ノ訴訟關係人ト少シク趣ヲ異ニスル所アリト見サルヘカラサルヲ以テ更ラニ次條ノ例外ヲ認メタルモノトス

第一百十條 前條ノ規定ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ違反者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違反者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥怒ヲ請フカ又ハ恭

順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其審問ヲ中止スルコトヲ得

前條ニ説明シタルカ如ク當事者證人及ヒ鑑定人ハ直接ニ訴訟ノ主體又ハ審理

ノ容體ヲ成スモノナルヲ以テ是等ノ者カ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタル時ハ他ノ傍聽者又ハ訴訟關係人ヨリハ一層其取締ヲ嚴格ニスル必要アルモノトス蓋シ傍聽者等ノ如キハ唯其違反者ヲ一時場外ニ驅逐スルニ依テ訴訟ノ審問ヲ繼續スルニ支障ヲ見スト雖モ當事者證人鑑定人ノ如キ之ヲ法廷外ニ拘引シ又ハ拘留スルトキハ最早審問ヲ繼續スル能サルニ至ルハ當然ノコトナルヲ以テ前條ノ如ク一時拘引又ハ拘留ヲ爲シ閉廷ノ時ニ違反者ヲ處罰スルカ如キハ之ニ對シテ徒ニ訴訟ヲ遅延スルノ外何等ノ實效ヲ見ルコト能ハサルヘシ之ヲ以テ本條第一號ニ於テ是等ノ者ニ對シテハ即時ニ前條第二項ノ末段ニ定メタル刑罰ヲ科スルコトヲ得セシメ之ニ由テ是等ノ者ノ不當ノ行爲ヲ防遏シ以テ訴訟ノ進行ヲ繼續スルノ途ヲ啓カンコトヲ期シタル所以ナリ

第二號ノ規定ハ前號ノ如ク違反者カ原告ナルトキモ即時ニ處罰スルヲ得ヘキハ勿論ナリト雖モ若シ其處罰ヲ受ケタルニ拘ラス原告ハ尙ホ妨害其他ノ不當行爲ヲ續クルトキハ裁判所ハ更ラニ之ニ對シテ苦痛ヲ與フル方法トシテ其訴訟ノ審問ヲ原告カ改悛スルマテ中止スルコトヲ得ル旨ヲ定メタリ蓋シ刑事ノ

審問ニ於テハ茲ニ所謂原告ナルモノナシ檢事ハ刑事審ニ於ケル原告官ト稱セラルルモ本條ニ於ケル原告ナル語ニハ檢事ヲ包含スルコトナシ故ニ此ノ第二號ノ適用ヲ見ル場合ハ獨リ民事ノ訴訟ニ限ル而シテ民事ノ訴訟ハ所謂當事者處分主義ヲ認ムルモノナルヲ以テ訴訟ヲ審理セラルルト否トノ利害ハ原告ニ存スルモノニシテ換言スレハ原告カ種々ノ手續ヲ悉シテ訴求スルニ至リタル民事審ニ於テ其審理ヲ中止セラルルハ殆ト原告ノ請求ヲ棄却セラルルト同一ナル不利益ヲ負フニ至ルヘキヲ以テ特ニ原告ノ不當行爲ヲ防遏スルノ便法トシテ原告カ改悛シテ宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ノ實ヲ示シテ不敬ノ罪ヲ謝スルコトヲ強要スルカ爲メ審問ヲ一時中止スルヲ得ルモノトシタル所以ナリ斯カル便法ハ被告人證人又ハ鑑定人ニ對シテ何等ノ效果ナキハ多言ヲ要セスシテ明カナルヘシ尤モ被告ト雖モ反訴ヲ提起シタルトキハ其反訴ニ付テハ原告ノ地位ニ在ル者ナルヲ以テ等シク本條第二號ノ便法ヲ之ニ對シテ適用スルヲ得ヘシ

第百十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用キル辯護士ニ對シ同事件ニ付キ引續キ

陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百九條ノ規定ハ辯護士ニ對シテモ適用スルヲ得ヘキハ前ニ説明シタルカ如シト雖モ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ストイフヘキ程ノ行爲ナク單ニ不當ナル言語ヲ用ヒタル場合ニ於テ特殊ノ制裁ヲ設クルノ必要アリトシテ本條ノ規定ヲ見ルニ至リタルモノナリ即チ裁判長ハ其職權ヲ以テ斯カル不當ノ言語ヲ用フル辯護士ニ對シテ其言語ヲ停止スルヲ得ルハ勿論ニシテ尙ホ其不當言語ヲ用フルニ至リタル訴訟事件ニ付キ引續キ辯論其他ノ陳述ヲ爲スコトヲ禁止スル事ヲ得ルモノトシタリ是亦前第二號ノ原告本人ニ對シタル便法ト同一精神ニシテ直接ニ不利益ヲ被ラシメテ之ガ矯正ヲ期シタルモノト謂フヘシ若シ夫レ不當ノ言語ニシテ罵詈又ハ誹毀ヲ構成シタルカ如キ場合ニ於テハ斯カル辯護士ニ對シ檢事ノ手ヲ經テ訴追スルヲ得ルハ勿論ニシテ且又斯カル訴追ヲ爲スヘキ場合又ハ斯カル訴追ニ至ルヘキ程度ニ達セサルモノニ對シテモ辯護士法第五章第三十一條規定ニ從ヒ裁判長ヨリ直チニ懲戒上ノ訴追ヲ爲スコ

トヲ得ルモノト規定シタル所以ナリ

第一百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時間以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ツルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若クハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

本條ハ前ニ説明シタル第百九條以下ノ公判廷内ニ於ケル秩序ノ維持ニ關スル裁判長又ハ裁判所ノ職權ヲ豫審判事又ハ受命判事若クハ司法官試補モ各自其職務ヲ行フ爲メ開キタル法廷内ニ於テ行使スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノナリ豫審判事カ裁判所構内ニ於テ豫審ヲ開キタルトキハ勿論犯罪ノ現場等

ニ於テ開キタル假豫審ノ場内ニ於テモ亦此ノ職權ヲ行フヲ得ヘク受命判事ハ證據調若クハ重罪公判ノ下調等ニ於テ開廷シタル時ニ此ノ權利ヲ行フ場合アルヲ見ルヘシ而シテ司法官試補ハ第六十條ニ於テ説明シタルカ如ク一定ノ制限内ニ於テハ區裁判所ノ司法事務又ハ豫審判事ノ事務ヲ臨時代理スルコトヲ得ルヲ以テ此等ノ法律規定ニ基ツキ其職務ヲ執ル時ハ試補ト雖モ正任判事ト同シク開廷中ノ秩序ヲ維持シテ妨害ヲ排除スルノ權利ナカルヘカラサルハ當然ナルヲ以テ是亦第百六條以下ノ制裁ヲ實行スルヲ得ルモノトスル所以ナリ

第百九條以下ノ條文ニ基キ裁判長若クハ裁判所カ不當ノ行狀アル者ニ對シテ科シタル制裁ニ付テハ別ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ認メスト雖モ豫審判事受命判事又ハ試補カ是等ノ制裁ヲ加フル場合ニ於テハ時トシテ其適用ヲ誤リ又ハ專恣ニ亘ルノ嫌ナキヲ保セサルヲ以テ是等ノ制裁ニ對シ不當ノ行狀アリトセラレタル者ヨリ二十四時間以内ニ其制裁ヲ言渡シタル豫審判事受命判事又ハ試補ニ異議ヲ申出ツルコトヲ許シタリ斯ノ如ク僅ニ二十四時間ノ短期内ニ

於テノミ異議ヲ申出ツルヲ許シタルハ他ノ裁判ニ對スル不服ノ場合ト異リ審理ヲ繼續スル間ニ於ケル故障ナルヲ以テ迅速ニ是等ノ故障ノ終了ヲ告ケサルヘカラサルヲ以テナリ

前述ノ異議アル場合ニ本訴訟ノ審理ハ之ヲ中止スヘキニ非スシテ其儘ニ進行スルヲ通則トナス而シテ豫審判事又ハ豫審判事ノ命ヲ受ケテ審理ノ任ニ當リタル試補ノ爲シタル前述ノ制裁ニ付キ異議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其豫審判事ノ屬スル刑事部若クハ地方裁判所ノ刑事支部ニ於テ豫審判事ハ常ニ刑事部又ハ刑事支部ニ屬スルモノナリ其異議ノ當否ヲ裁判スヘク又受命判事或ハ其受命判事ノ命ヲ受ケテ執務シタル試補ノ爲シタル制裁ニ付キ異議ヲ申出テタルトキハ其受命判事ニ前述ノ各下調等ヲ命シタル裁判所カ其異議ニ付テ裁判ヲナスヘキモノトス蓋シ斯ノ如ク異議ヲ受ケタル判事ノ所屬裁判所ニ於テ其異議ヲ裁判スルハ最モ機宜ニ適シ事實ノ真相ヲ穿ツニ庶幾カルヘキヲ以テナリ

第百十三條 第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ

行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

本條ハ前ニ述ヘタル第百九條以下ノ制裁權ヲ施シタル事後ノ手續ヲ現定シタルモノニシテ即チ其裁判ヲ行ヒタルコト並ニ其制裁ノ内容日時事由等重要ナル事項ヲ其開廷中ニ審理スル訴訟ノ記録中ニ記入シ殊ニ其制裁ヲ行フニ至リタル理由ヲ明確ニ記入シテ後日ノ鑑ト爲スヘキモノトシタルナリ  
斯ノ如ク制裁ヲ實行シタル後ニ於テ第百九條第三項末段ニ示シタルカ如ク審問ヲ妨ケ又ハ不法ニ亘ル行狀ニ付キ審ニ法廷内ノ制裁ヲ受クルニ該當スルノミナラス其所爲カ誹毀罪又ハ官吏抗拒罪等ノ重輕罪ニ該ルカ若クハ辯護士カ不當ノ行狀ヲ爲シタルニ因リ懲戒上ノ罰ヲ受クヘキ場合ニ於テハ詳細ニ其罪責ノ在ル所ヲ具シテ裁判長ヨリ區裁判所ニ在テハ開廷判事ヨリ其事件ヲ更ラニ刑罰若クハ懲戒ヲ行フヘキ官衙即チ檢事局又ハ檢事正ニ報告スヘキモノト

ス其報告ヲ受クルニ由テ所轄官廳ハ適當ナル訴追ノ方法ヲ執ルヘキモノトスルナリ

第一百四條 判事検事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

本條ハ裁判所公廷ノ神聖ト威嚴トヲ保持スルカ爲メニ判検事書記及ヒ辯護士ハ一定ノ制服ヲ着用スルコトヲ必要トシタリ現今行ハルル所ノ服裝制度ニ依レハ一般ニ知ラル、カ如ク古代文官ノ服裝ニ擬シタルモノニシテ判事ハ紫色検事ハ紅色書記ハ青色辯護士ハ白色ノ紋章ヲ附スルニ依テ一見其職ヲ辨別スルヲ得セシム判検事ハ紋章ノ中ニ桐葉章ヲ附スルモノナルモ辯護士及書記ハ之ヲ附スルコトナシ是亦著シキ區別ナリ其他廷丁巡查ノ如キ亦一定ノ服裝アルハ勿論ナルモ裁判上首要ノ職ニ在ルニアラサルヲ以テ特ニ本法ニ於テ規定スルヲ避ケタルモノナリ被告人傍聽人ノ如キニ對シテ一定ノ服裝ヲ要求スル

ハ到底行ハレ難キ所ナルヲ以テ第一百七條ノ如ク不相當ナル衣服ヲ着セサル限リハ一般任意ノ服裝ヲ許スモノトス

### 第二章 裁判所ノ用語

第一百五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用キルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

本條以下ニ於テハ裁判所ニ於ケル口頭審理ニ於テ如何ナル語ヲ用ウヘキヤヲ規定シタルモノトス蓋シ國語ヲ一定セサルトキハ相異リタル國語ノ外之ヲ解セサル訴訟關係人ニ對シテハ到底其審理ヲ悉クシ能ハサルハ勿論一定ノ制限ヲ置カサル時ハ當事者ハ自己ノ解スル國語ニ依テノミ辯論スルコトヲ主張スル時ニ當リ如何トモ制止スヘカラサルニ至ルノ虞アリ之ヲ以テ本條ハ第一項ニ於テスヘテ我國ノ裁判審理ハ日本語ニ依ルヘキモノナルコトノ原則ヲ明定シタルモノニシテ例セハ證據ノ援用又ハ學說ノ引用等ニ際シテモ外國語ニ依

ルコトヲ禁制シタルノ意義ナリ故ニ判檢事書記及ヒ訴訟關係人カ何レノ外國語ニ通曉シ居ル場合ニテモ裁判所ニ於テハ必ス日本語ヲ用ヒサルヘカラス蓋シ日本語ヲ用フルハ最モ便宜ナルノミナラス我國裁判所ノ威嚴ヲ保持シ且ツ公廷ニ於ケル傍聽人等ニ對シテモ外國語ヲ用キシメサルヲ至便ト認メタルヲ以テナリ

然レトモ訴訟當事者又ハ證人鑑定人ノ如キ必ス口頭ヲ以テ審問ヲ受ケサルヘカラサル者ニシテ充分日本語ニ通セサルトキハ日本語ヲ解セストイフ點ノミヲ以テ之ヲ排斥スルヲ得サルハ勿論ナリ故ニ斯カル場合ニ於テハ訴訟法若クハ特別法ノ規定ニ從テ之ニ對スル通事ヲ用フルモノナルコトヲ第二項ニ定メタリ現今行ハルル刑事訴訟法第九十六條第百條民事訴訟法第二百五條第百二十六條ニハ通事ヲ用フル場合ヲ規定シタリ即チ外國人ノ如ク日本語ニ充分ニ通達セサル者又ハ聾者啞者ニシテ文字ヲ用キテモ日本語ヲ解スル能ハサル者ニ對シテハ何レモ通事ヲ用フルノ制ナリ本條ノ日本語ニ通セサル者トハ少シク日本語ヲ解スルモ審理ニ應スル能ハサル程度ノ者ヲスヘテ包含スルノ

意ナルヲ以テ聾者啞者ノ如キモ亦此ノ語ニ該當スルモノト解スヘキモノトス

**第一百六條** 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其行フヘキ職務ニ關ル規則ハ

司法大臣之ヲ定ム

本條ハ通事ノ任命及ヒ其職務ニ關スル特別ノ規則ハ司法省令ニ依リテ司法大臣之カ規定ヲナスコトヲ定メタルニ過キス唯茲ニ注意スヘキハ通事トハ前條ノ規定ニ依リテ明カナルカ如ク外國語ヲ通譯スル者ト形容舉動ヲ以テ聾者啞者ノ意思ヲ明カニスル者ト二者ヲ合ムノ語ナルコト是レナリ現今特ニ通事ヲ任命シ置クハ外國語ノ通譯ヲ爲スモノニ係リ聾者啞者ニ對スルモノノ如キハ隨時其道ニ在ル者ヲ任用スルヲ通例トナス

**第一百七條** 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ

承諾ヲ得テ通事ニ用キラルルコトヲ得

三府若クハ開港地或ハ控訴院所在地ノ如キハ外國語ニ通シ或ハ聾者啞者ニ接スル應對ヲ技能トスル者ヲ得ルニ難カラサルヘク從テ前條ノ通事ヲ隨時任命スルニモ亦容易ナルヘント雖モ其他ノ地殊ニ僻遠ノ裁判所所在地ニ於テハ外

國人若クハ聾者啞者ニ對スル通事ヲ得ルコト必スシモ容易ナリト謂フ能ハサル場合少カラサルヘシ斯カル場合ニ書記ハ外國語ニ通シ若クハ聾者啞者ニ對スル應接ノ技能アル場合ニ於テハ裁判長ノ承諾ヲ得テ自ラ進ンテ通事ノ職ニ當ルヲ得ヘキモノトスルノ精神ナリ茲ニ注意スヘキハ「通事ノ得難キ場合」トハ絶對ニ通事ヲ得ル能ハサル場合ハ勿論通事ヲ擧ケ得ル場合ニテモ裁判上急速ヲ要スルカ若クハ之ヲ受クルニ意外ノ費用ノ要スルカ如キ場合ニ於テモ適用セラルヘキノ精神ニシテ書記其言語ニ通スルトキト條文ニアルヲ以テ外國語ヲ通譯スル場合ノミニ限ルカ如キモ是一ノ例示ニ過キササルモノト解スヘキモノニシテ聾啞者ニ對スル場合ニテモ此ノ規定ニ基クノ便宜ヲ阻碍スルモノニ非サルナリ

**第一百十八條** 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

本條ハ第一百十五條ノ原則ニ對シ便宜上設ケタル唯一ノ例外ニシテ即チ一訴訟當事者ノ一方又ハ双方ハ外國人タルコトニ其外國人ニ對スル他ノ當事者又ハ主參加從參加ノ訴訟關係人ハ勿論證人鑑定人補佐人辯護人ノ如キ關係人ノ總テカ或一定ノ外國語ニ通曉スルコト三、判事檢事書記モ亦外國語ニ通スルコトノ三條件ヲ具備シ而シテ裁判長ハ以上ノ孰レノ關係人モ通スル所ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スヲ便宜トスル場合ニ於テ裁判長ハ之ヲ認許シ若クハ命令シタル場合ニ於テハ裁判上ニ其外國語ヲ用キルコトヲ得ルモノトス是是全ク便利ノ爲メニスル例外ニシテ實際ニ於テハ殖民地ニ於ケルカ如キ場合ノ外ハ此規定ノ適用ヲ見ルコト稀ナリト謂フヘシ

以上ノ例外ノ場合ハ口頭審理ニ關係スルモノハ總テ同一ノ外國語ニ通スルニ依テ行ルルモノナルモ其審問其他ヲ錄取スル所ノ公正ノ記録(主トシテ公判始末書又ハ準備書面)ハ一定ノ期間之カ保存ヲ爲シ又ハ上訴アルトキハ上訴裁判所ノ覆審ノ基本ト爲ルモノニ係リ而シテ此等ノ爲メ事後ニ於テ其記録ヲ檢閱スル者ハスヘテ其同一國語ニ通スルモノニ限ルニ非サルハ當然ナルヲ以テ斯



カル記録マテモ外國語ニテ記載スルハ到底認容シ能ハサル所ナリ是レ本條ハ但書ヲ加ヘテ審問ノ公正記録ハ必ス日本語ヲ以テ記スヘキモノナルコトヲ規定シタル所以ナリ

### 第三章 裁判ノ評議及言渡

第一百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

本條以下ノ規定ハ合議裁判所ニ於ケル裁判ノ評議即チ訴訟ノ争點ニ付最後ノ斷案ニ關シテ各判事カ意見ヲ交換シ異說アル場合ニ其何レニ從テ決スヘキヤノ方式ヲ主トシテ規定シタルモノニシテ裁判上最モ重要ナル法則ナリト謂フヘシ

本條ハ即チ其原則トシテ合議裁判所即チ地方裁判所以上ノ裁判所ニ於ケル裁判ハ本法ノ規定ニ從テ定數ノ判事即チ通例ノ場合ニ於テハ大審院ニ於テハ七人(第五十三條)控訴院ニ於テハ五人(第四十條)地方裁判所ニ於テハ三人(第三十二條)

ノ判事カ事件ノ争點ニ付キ審理ノ結果ヲ評議シ(第二百二十三條)ノ規定ニ依テ最後ノ決定ヲ爲シ而シテ是等ノ定員ノ判事ハ列席ノ上言渡スヘキノ原則ヲ明カニシタルモノトス尙ホ特別ノ場合ニ於ケル(第四十一條、第五十四條、第五十五條)ノ規定ニ據ルトキモ何レモ其レ等ノ規定ニ據ル判事カ前述ノ方式ニ依リ評議シテ言渡スヘキハ勿論ナリト謂フヘシ

第二百十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立合ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或判事ノ疾病其他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

元來訴訟ノ審問ニ付テハ書面審理主義ト口頭審理主義トノ二者アリ書面審理主義ハ其文字ノ如ク主トシテ争訟ノ攻撃及ヒ防禦ヲ書面ニ依テ主張シ當該裁判官モ亦其書面ニ基キテ調査シ判決スルノ方式ニシテ中古時代ニ於テハ洋ノ東西ヲ問ハス等シク行ハレタルモノナルモ現今開明諸國ノ訴訟法ニ於テ此ノ主義ヲ採用スルモノ絶エテナク主トシテ口頭審理主義ニ基キテ直接ノ審査ヲ

爲スヲ本則トス蓋シ口頭審理主義トハ一名直接審理主義トモ稱セラレ當該判事ハ自ラ訴訟當事者及ヒ關係人ヲ口頭ヲ以テ審問シ直チニ是等ノ者ノ口述ノ答辯ヲ聽キ以テ爭ノ焦點ヲ明カニシ其正邪曲直ヲ目前ニ審案スルノ方式ニシテ最モ能ク實體的ノ眞實ヲ發見スルニ適切ナルモノトス之ヲ以テ我カ民刑訴訟法ハ共ニ此ノ主義ニ從フヲ原則ト爲シタルノ結果其審問ニ當リタル判事ハ審問ノ始メヨリ其ノ終結ニ至ルマテ必ス同一ノ人ナラサルヘカラサルノ一法則ヲ生シタリ若シ同一ノ判事カ終始之カ審理ニ當ラサルトキハ直接ノ審問ハ何等ノ效ヲ生セサルニ至ルヘキヲ以テナリ之ヲ以テ民刑訴訟法ノ法則ニ依レハ若シ已ヲ得サル事故ノ爲メ同一判事カ出席スル能ハサルニ因リ他ノ判事代リテ審問ヲ爲スニ際シテハ其訴訟ノ審理ヲ全ク更新シ初メヨリ再ヒ新タナル審問ヲ開始セサルヘカラサルノ煩ヲ生スルモノトス本條ハ此ノ煩雜ノ手續ヲ豫メ防止スルノ目的ヲ以テ現定セラレタルモノニシテ即チ豫メ事件ノ性質ニ依リ事件審理ノ初メヨリ其終結ニ至ルマテ四日以上ノ開廷ヲ要スル見込アル場合ニ於テハ刑事事件ニ限り裁判所長(地方裁判所長控訴院長大審院長カ各自

己ノ裁判所ニ付キ)ハ定員以外ニ初メヨリ補充判事一人ヲ命シテ其審理ニ立會ハシムルヲ得ルモノトナシ而シテ此ノ補充判事ハ其事件ノ審理中當該判事カ疾病其他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合生シ他ノ判事カ代リテ定員ヲ充タスヘキ時ニ當リ補充員トナリテ缺席スル判事ニ代リ審問ヲ更新スルコトナク中途ヨリ之ヲ引受ケテ其審問ニ干與シ裁判ヲ終結スルヲ得セシムルモノトス即チ補充判事ハ初メヨリ事件ノ進行ニ立會ヒ居リ從テ自ラ口頭審理ノ狀況ヲ見聞シ居ルヲ以テ中途ヨリ他人ニ代リテ其事件ニ干與スルモ毫モ口頭審理主義ノ原則ニ悖戾スルコトナク而シテ同一審問ヲ再ヒスル煩雜ヲ避クルヲ得ル所以ナリ若シ差支アリテ缺席シタル判事カ事件完結セサル内ニ差支ノ事由消滅シ再ヒ其事件ニ干與スルヲ得ルニ至リタル場合ニ於テモ一タヒ補充シタル補充判事ハ之カ爲メニ其席ヲ讓ルコトナク終局マテ之ヲ引受ケテ事件ヲ完結セシムルノ精神ナリ若シ然ラサルトキハ缺席シタル判事ハ缺席中ノ審問ニ參與セサルヲ以テ再ヒ其審問ヲ改メサルヘカラサルノ不便ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テナリ然リ而シテ刑事ノ審問ニ限リテ本條ノ便法ヲ認メタル

所以ハ刑事審ハ多クノ場合ニ於テ被告人ノ自由ヲ剝奪シ其繫累ノ及ホス所モ民事ノ事件トハ趣ヲ異ニシテ甚タ重大ナルヘキヲ以テ特ニ刑事審ニ限リテノミ此ノ規定ヲ爲シタル所以ナリ尤モ民事ノ事件ニ付テモ斯カル方法ヲ執ルノ便利ナルヲ感スルト雖モ裁判所ニハ自ラ本法其他ニ定メラレタル定員アルニ因リ何レノ事件ニモ補充判事ヲ附スルカ如キハ却テ他ノ訴訟事務ヲ澁滞セシムルノ虞アルヲ保セサルニヨリ須臾ラク刑事ノ件ニ限リタル所以ナリ現今ノ實例ニテモ刑事審ニ於テ此ノ規定ニ因リテ補充判事ヲ特ニ附隨セシムル場合ハ實際極メテ稀有ナル所ナリトス

第二百一十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判所之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

本條ハ會議室ニ於ケル評議ハスヘテ秘密ヲ嚴守スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ本條第一項ハ即チ其原則ヲ明カニシ其評議ニ付テハ書記ハ勿論係リ官

以外ノ判檢事又ハ其上官ト雖モ之ヲ傍聽スルヲ得サルモノトス唯例外トシテ豫備判事及ヒ司法官試補ハ裁判長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ單ニ傍聽スルコトヲ得セシム蓋シ豫備判事ハ概シテ新任ノ初級ニ屬シ尙ホ實際ノ司法事務ニ付キ見聞ヲ廣ムルヲ必要トスル地位ニ在リ而シテ司法官試補ノ如キハ最モ其必要アルハ勿論ナルヲ以テ是等ノ者ニ限リ差支ナキ限リハ實際ノ評決ノ模様ヲ見聞セシムルノ法意ナリ尤モ此レ等ノ者ハ單ニ傍聽ヲ許サルノミニシテ如何ナル場合ニ於テモ評議ニ容喙スルヲ得サルハ當然ナルヘシ

本條第二項ハ其前段ニ於テ判事ノ評議ニ付キテモ公判廷ニ於ケルト同シク裁判長カ之ヲ指揮監督スルモノタルコトヲ定メタルモノニテ即チ評議ヲ開クヘキヲ宣シ且ツ次條以下ノ規定ニ依リテ其評議ノ完結ヲ爲スハ一ニ裁判長ノ任ナリトス後段ニ於テハ第一項ノ原則ニ基ク評議ニ關シ其評議ノ顛末各判事ノ意見及ヒ意見ノ多少ノ數ニ付テハ評議ニ列シタル係判事ハ勿論傍聽ヲ許サレタル豫備判事及ヒ試補モ嚴ニ之レカ秘密ヲ守ルコトヲ要ス若シ此ノ規定ニ反シテ秘密ヲ洩ラスカ如キ行爲アル者ニ對シテハ一般官吏ノ服務規則又ハ判事

懲戒法ニ依リ訴追セララルコトアルヘシ

抑事件ノ終結ニ關シ最後ノ意見ヲ當該判事カ評決スルニ付テハ必スシモ秘密主義ニ據ラサルヘカラサルノ法理アルニ非ス現ニ英米ノ訴訟法ニ於テハ各判事カ其意見ヲ公表シ宣言スルノ制度ニ依ルト雖モ其他重ナル泰西諸國ニ在リテハ何レモ本法ニ於ケルカ如ク秘密ニ附スルヲ例トナス蓋シ之カ公行ヲ避クル所以ハ主トシテ私怨ヲ醸スノ虞ヲ防キ且ツハ此ノ瑕瑾ヲ捉ヘテ世上是非ノ口吻ニ上ラシメ以テ判決ノ威嚴ヲ損スルコトナカラシメントスルニ在ルナリ之ヲ以テ本條ノ規定ニ依レハ評議室ニ於ケル判事ノ實力ハ何人モ知ル能ハサルハ勿論學理ノ研究ニ關スル場合ニテモ合議室ニ論セラレタル意見ノ内容ヲ公表スル能ハサルノ不便アルモノト謂フヘシ

**第二百二十二條** 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始メトシ裁判長ヲ終トス官等同シキトキハ年少ノ者ヲ始メトシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始メトス

本條ハ評議ノ際ニ於ケル各判事ノ意見開陳ノ順序ヲ規定シタルモノニシテ概

言セハ何レノ判事ヨリ先ニ意見ヲ陳フルモ毫モ差支ナキカ如シト雖モ自ラ下級者ハ上級者ノ意見ニ雷同シテ真正ナル自己ノ見解ヲ曲クルノ虞ナキヲ保セス蓋シ判事ノ裁判權ハ各自獨立自由ノ心證ニ依テ行ハルヘキハ法律ノ夙ニ希望スル所ニシテ之ニ依テ始メテ合議裁判ノ實效ヲ見ルモノト謂フヘシ然ルニ自然ノ人情ニ因リ自己ノ經歷地位ノ低キヲ以テ充分ニ獨立ノ心證ヲ開陳スルナキコトアリテハ法律ノ精神ハ其大半ヲ減却セララルニ至ル之ヲ以テ事件ノ審問ヲ終結シテ最後ノ斷案ヲナスニ際シテハ合議ノ各判事中最モ官等ノ低キ者ヨリ意見ヲ開陳シ順次上席ノ判事ニ及ホシ最後ニ裁判長ノ意見ヲ陳フヘキモノトス若シ官等同シキ者アルトキハ就任ノ前後ニ依ラスシテ年齢ノ高低ニ依リ年少者先ツ意見ヲ陳述スヘキモノトス斯ノ如ク各自意見ヲ陳述シタル後ニ於テ裁判長ハ次條ノ方法ニ從ヒテ其決定ヲ爲スヘキハ勿論ナリ茲ニ例外ト見ルヘキハ其訴訟ニ付キ受命判事アリタル場合ニテ例セハ計算事件等ニ付キ合議判事ノ一人ニ命シテ豫メ其計算ヲ爲サシメタルカ如キ場合ニ其計算ニ關シ損害賠償ノ額又ハ包括財産ノ債權債務ヲ決スルカ如キニ付キ先ツ以テ其